

朝日町における地域経済循環に係る分析・研究事業

地域資源のポテンシャル評価と コロナ後の社会変容下における地域戦略

2021年度受託研究

中村和之（富山大学学術研究部社会科学系）

研究協力：富山大学経済学部中村和之ゼミナール3年生

目次

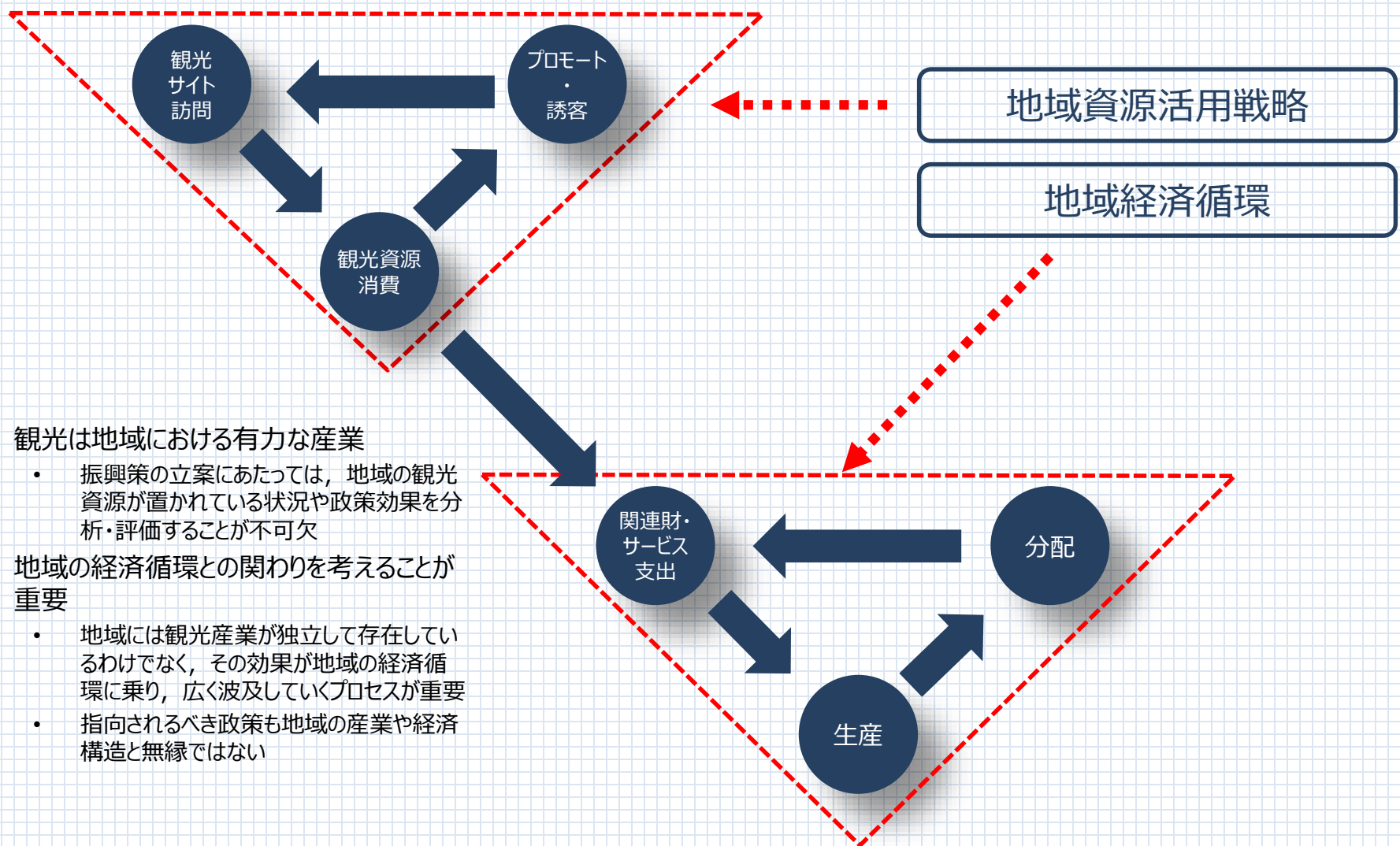
0	研究の視点と枠組み	3
1	COVID-19の観光産業への影響	17
2	春の四重奏の注目度と誘客	26
3	春の四重奏の来訪者分析誘客	33
4	春の四重奏が来訪者にもたらす便益	42
5	春の四重奏による町内消費	48
6	観光資源がもたらす経済効果	58
7	町内消費需要から見た経済循環度	74
8	学生アンケートから見た町内経済循環の持続可能性	79
9	まとめ	86
10	参考資料・文献リスト	89

0. 研究の視点と枠組み

本年度調査・研究の視点

- 春の四重奏を中心とした観光資源が地域経済に与えているインパクトを評価するとともにそのポテンシャル、地域経済循環への含意を検討
 - コロナ後の社会変容を見通して朝日町の自然資源や人的資源のポテンシャルを再評価するとともに、人々の新しい行動様式の下での地域戦略を考えることが求められている。
- 令和3年度調査の視点
 - 平成30年度研究で明らかとなった経済循環の実態と、令和元年度研究で取り組んだ町内観光資源のポテンシャルに関する研究を統合して、朝日町の地域資源の活用と持続可能性を高めるためのビジョンを示す
 - 新型コロナウイルス感染症拡大が観光産業に与えた影響をマクロで整理
 - 春の四重奏に焦点を当て、観光資源の認知、誘客、観光消費の各局面における評価と課題を明確にする
 - 観光資源が町内経済に与える影響をポテンシャルも含めて試算する
 - 経済循環の持続可能性を担保するために必要な若年層の意識を調査から取り纏める
- 分析は以下の調査、統計、資料に基づく
 - 朝日町企画財政課による春の四重奏来訪者アンケート、朝日町商工会・朝日町商工観光課による春の四重奏来訪者アンケート、朝日町企画財政課による春の四重奏事業所調査、朝日町大学生等就学応援事業対象学生向けアンケート
 - 富山県産業連関表他関連統計に基づき『平成27年富山県市町村間産業連関表』を独自に推計。
- 過去2年間における調査・研究と統合することによって、地域の経済構造や循環を踏まえた地域資源の活用方策を提言する。

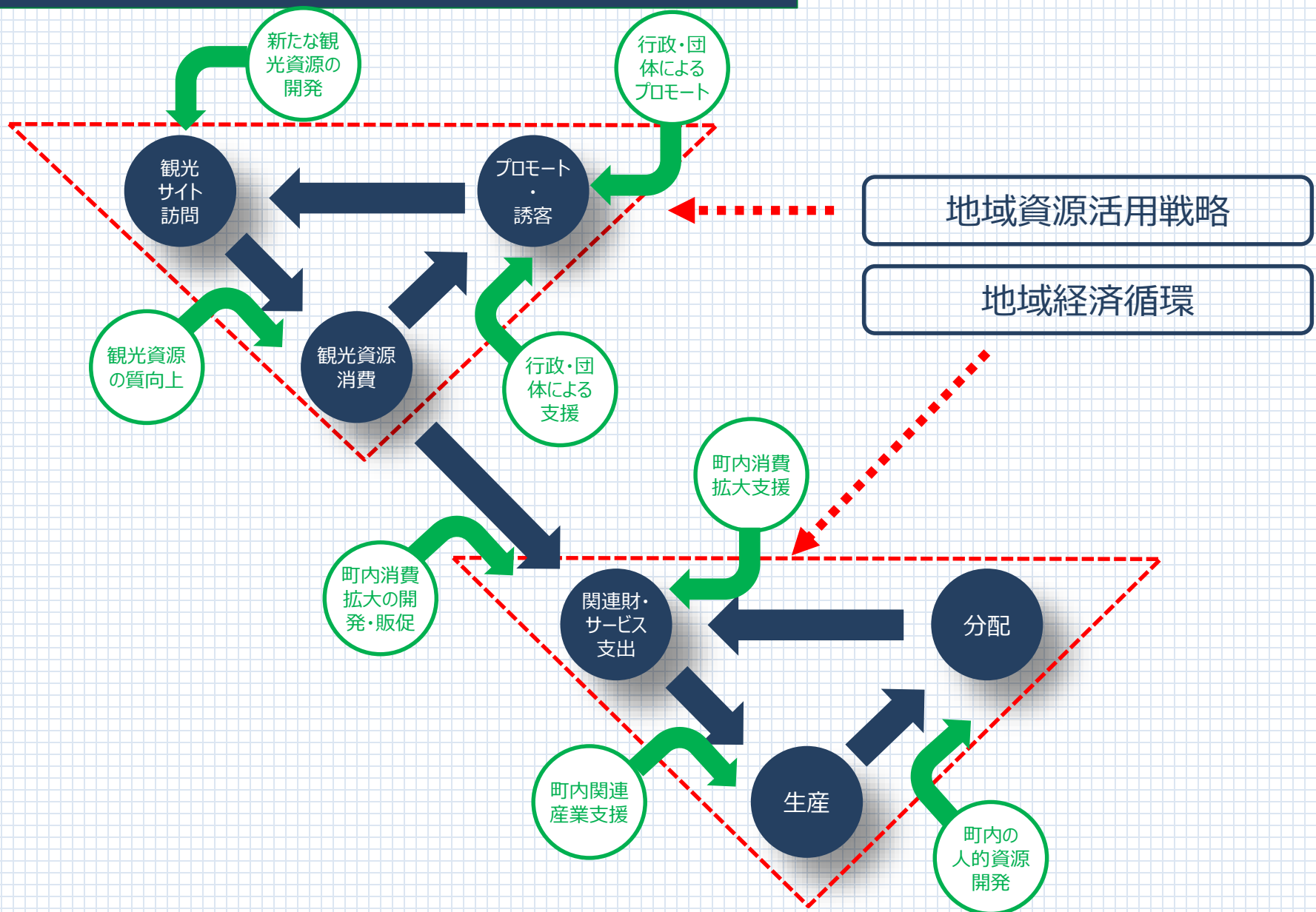
地域資源から経済循環へ



- 観光は地域における有力な産業
 - 振興策の立案にあたっては、地域の観光資源が置かれている状況や政策効果を分析・評価することが不可欠
- 地域の経済循環との関わりを考えることが重要
 - 地域には観光産業が独立して存在しているわけではなく、その効果が地域の経済循環に乗り、広く波及していくプロセスが重要
 - 指向されるべき政策も地域の産業や経済構造と無縁ではない

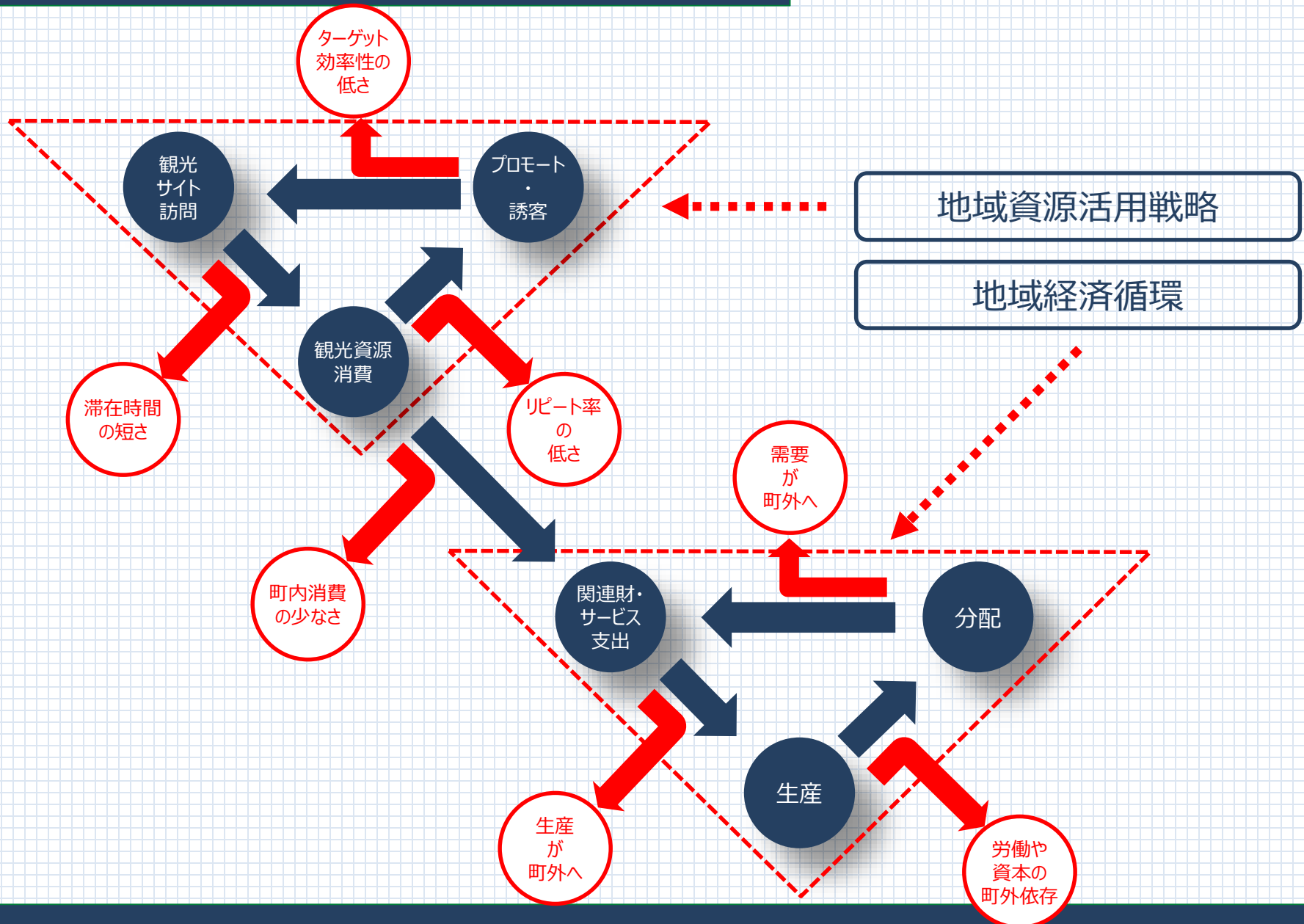
地域資源から経済循環へ

地域には経済活動の各局面での取り組み・工夫が求められる。



観光資源を活用した経済循環に潜むリスク

どこか一つでも目詰まりを起こすと循環が途切れてしまう。



研究の構成

②. 春の四重奏
注目度と認知媒体

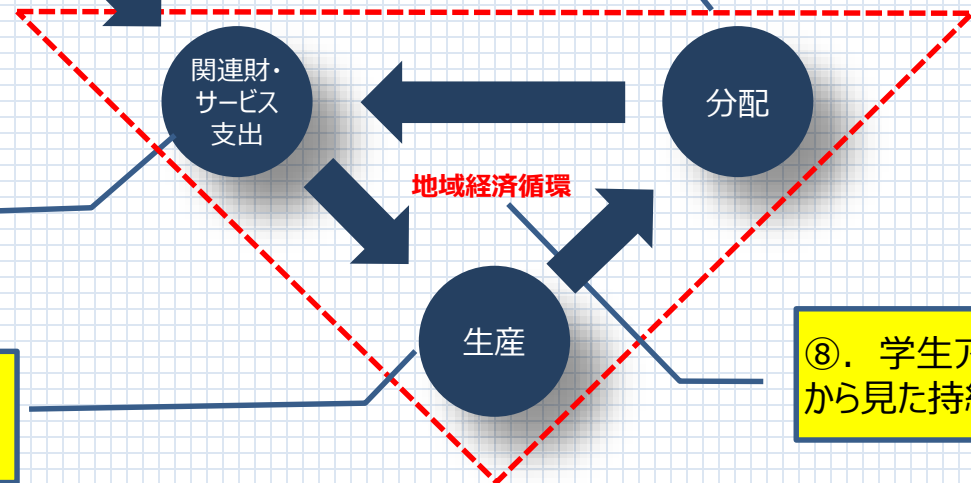
③. 春の四重奏
訪問者数と属性

①
新型コロナウイルス
感染症拡大の影響



④. 春の四重奏来訪者
にもたらされる便益

⑦. 朝日町経済の経済
循環度



⑤. 春の四重奏における
観光消費支出の動向

⑥. 観光資源の町内生
産誘発効果

⑧. 学生アンケート調査
から見た持続可能性

- 本研究では国や県，民間調査・研究機関による統計の他，以下の調査を実施，利用した。
 - **春の四重奏アンケート[1]**
 - 朝日町商工会・朝日町商工観光課「春の四重奏来訪者調査」
 - 春の四重奏来訪者を対象に居住地，訪問のきっかけ等を質問（取り纏められた集計データを利用）
 - **春の四重奏アンケート[2]**
 - 朝日町企画財政課「春の四重奏来訪者調査」
 - 春の四重奏アンケート[1]の質問項目に加えて町内での支出額（飲食，宿泊，お土産，ガソリン）も調査
 - 春の四重奏来訪者を対象に居住地，訪問のきっかけの他等を質問（個票ベースでクロス集計可）
 - 団体客向けに運転手・添乗員調査も実施したが十分な回答数が得られず，本研究では直接に利用していない。
 - **関連事業所アンケート**
 - 朝日町企画財政課「春の四重奏関連事業所調査」
 - 町内のコンビニ，食堂，ガソリンスタンド等，関連事業者20者に春の四重奏期間中の客数，売り上げ，仕入額の動向を調査
 - **学生アンケート**
 - 朝日町企画財政課「「ふるさと」への提言 学生アンケート」
 - 朝日町大学生等就学応援事業の対象学生に対して朝日町の暮らしやすさや将来設計，就職の希望，町の課題や将来についてアンケート調査
 - 個票ベースのデータが利用できるのでクロス集計可
 - **富山県市町村間産業連関表**
 - 富山県統計調査課『平成27年富山県産業連関表』をベースに県内市町村から構成される産業連関表を推計
 - RESAS等では個別市町村の産業連関表は提供されているが，市町村間の取引を追跡できない。本推計では市町村間の取引も推計・試算できる
 - その他に活用した朝日町関連の調査
 - データ分析は行っていないものの，朝日町商工会『朝日舟川春の四重奏2021』，朝日町商工観光課『R3ヒスイ海岸来訪者調査』のデータを参考にした。

春の四重奏アンケート[1]の概要

- 朝日町商工観光課，朝日町商工会による春の四重奏来訪者調査の概要
- 以下では「春の四重奏アンケート調査1」として言及する

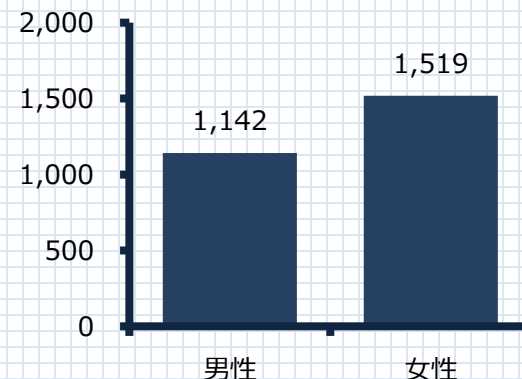
- 2021年4月1日～23日にかけて春の四重奏来訪者計2,659名にネットを通じて調査
- 質問項目
 - 性別，年齢，住まい（都道府県単位），居住地，来訪交通手段，宿泊の有無，訪問履歴，認知のきっかけ
 - 居住地については平成31年調査（1,506名）の結果もあり

性別

回答者の属性

性別	男性	女性	合計
n	1,142	1,519	2,661
%	42.9%	57.03%	100%

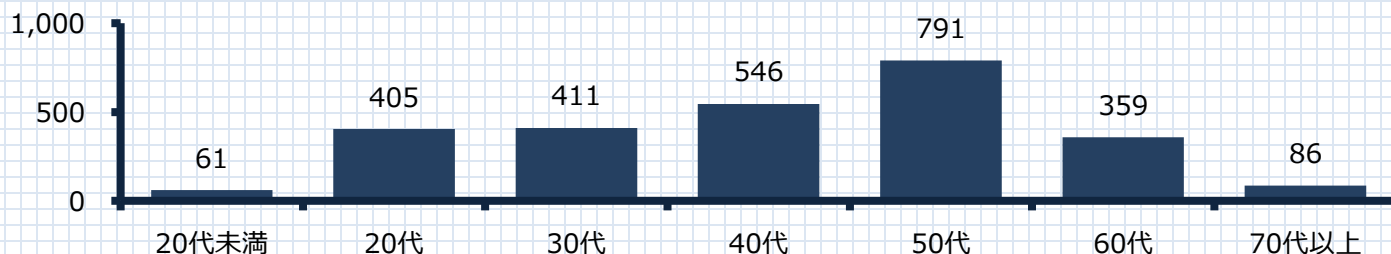
来訪者の性別



年齢

回答者の属性

年齢	20代未満	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	合計
n	61	405	411	546	791	359	86	2,659
%	2.3%	15.2%	15.5%	20.5%	29.7%	13.5%	3.2%	100.0%



回答者の属性（続き）

回答者の居住地

	青森県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	岡山県	広島県	福岡県	宮崎県	鹿児島県	合計
回答者数(人)	2	2	2	2	8	7	16	19	33	73	31	96	1634	340	13	3	64	42	6	108	21	14	32	44	28	8	1	1	6	1	2	2659
構成比	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.3%	0.3%	0.6%	0.7%	1.2%	2.7%	1.2%	3.6%	61.5%	12.8%	0.5%	0.1%	2.4%	1.6%	0.2%	4.1%	0.8%	0.5%	1.2%	1.7%	1.1%	0.3%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.1%	100.0%

調査日別回答者数

訪問日	4月1日	4月2日	4月3日	4月4日	4月5日	4月6日	4月7日	4月8日	4月9日	4月10日	4月11日	4月12日	4月13日	4月14日	4月15日	4月16日	4月17日	4月18日	4月19日	4月20日	4月21日	4月22日	4月23日	合計
回答者数(人)	1	2	1054	192	26	31	33	38	25	534	591	46	12	7	16	14	18	12	1	3	1	1	1	2659
構成比	0.0%	0.1%	39.6%	7.2%	1.0%	1.2%	1.2%	1.4%	0.9%	20.1%	22.2%	1.7%	0.5%	0.3%	0.6%	0.5%	0.7%	0.5%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

来訪手段

	車	電車	その他	観光バス	合計
回答者数(人)	2,293	313	31	22	2,659
構成比	86.2%	11.8%	1.2%	0.8%	100.0%

資料：朝日町商工会・朝日町商工観光課「春の四重奏来訪者調査」

- 回答者の62%が県内から来訪
- 県外来訪者は隣県（石川県，長野県，新潟県）が中心であるが，愛知県や岐阜県，首都圏からも来訪
- 来訪の交通手段は車が中心

春の四重奏アンケート[2]の概要

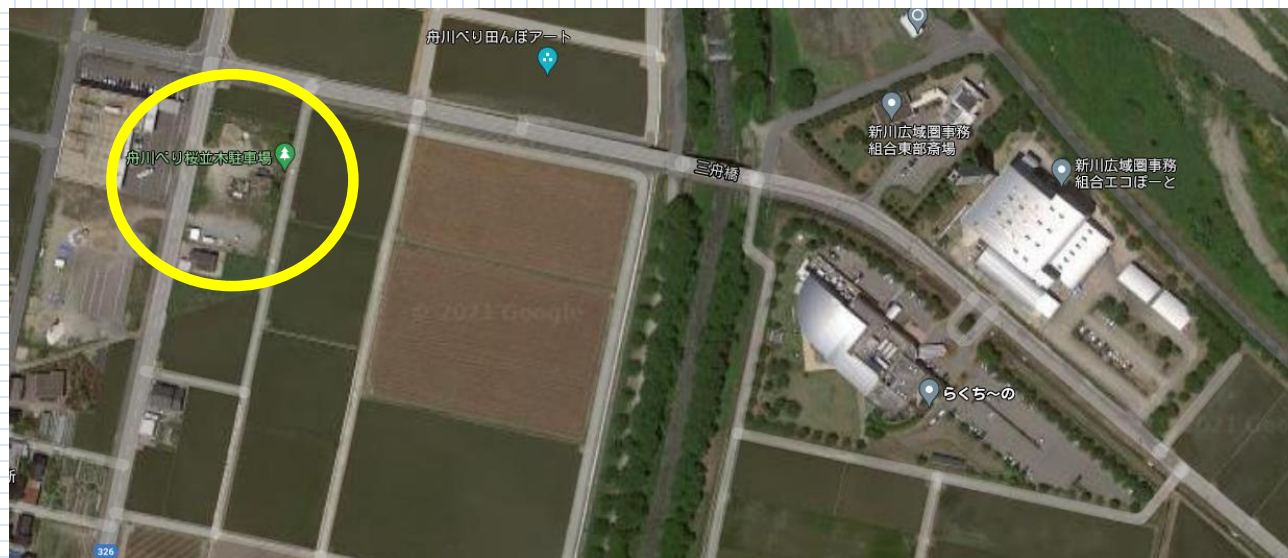
- ・ 朝日町企画財政課による春の四重奏来訪者調査の概要
- ・ 以下では「春の四重奏アンケート調査[2]」として言及

- ・ 2021年4月3日（土）午後，4月4日（日）午後，4月10日（土）夜間の各日時における春の四重奏来訪者に対して，シャトルバス発着所付近で調査員が調査票を用いて対面調査
- ・ 質問項目
 - ・ 性別，年齢，住まい（県外は都道府県単位，県内は市町村単位），居住地，来訪交通手段，宿泊の有無，訪問履歴，認知のきっかけ，町内での飲食，お土産，ガソリンに対する1人あたり支出予定額，春の四重奏であつたら良いもの（自由記述）

調査票回収枚数

	調査日			
	4月3日	4月4日	4月10日	合計
調査票回収枚数	39	13	23	75

- ・ 同行者数が記載されている調査票では，その記載に基づきアンケート結果を個人ベースで集計した。
- ・ 年齢や性別を同行者ごとに特定できない回答については，それぞれの回答項目を無回答として処理した。
- ・ その結果，75枚の回収調査票より，119件の回答を得た。



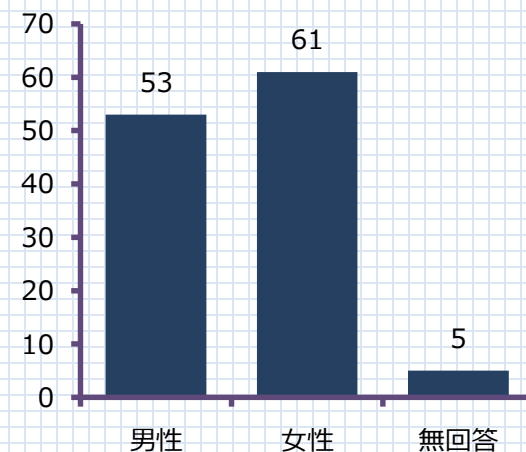
- ・ 男女比，訪問者の年代等の属性は，春の四重奏アンケート[1]と定性的に同様の傾向を示している。
- ・ 同じ期間に春の四重奏アンケート[1]が実施されているので，二つのアンケートを合算することはしない。
- ・ 大きな傾向を知りたいときには春の四重奏アンケート[1]に拠り，クロス集計等の分析には春の四重奏アンケート[2]を用いる

アンケート回答者の属性

性別

回答者の属性

性別	男性	女性	無回答	合計
n	53	61	5	119
%	44.5%	51.3%	4.2%	100%

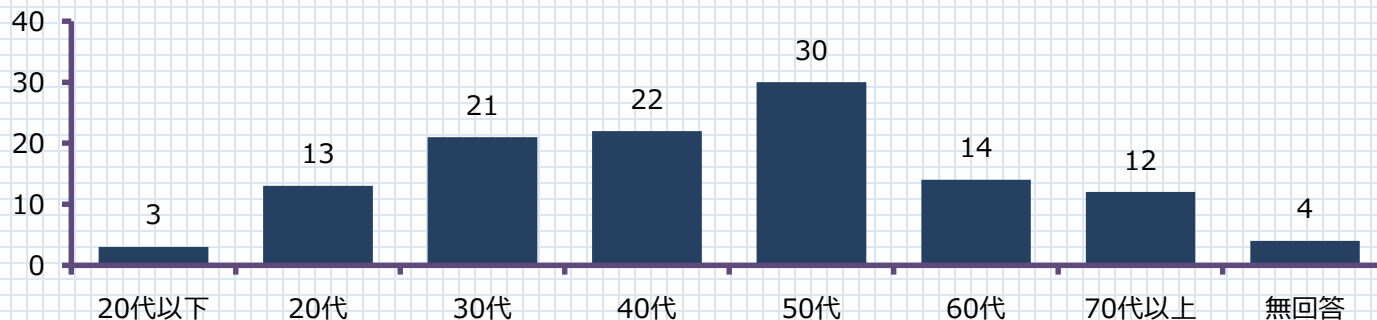


年齢

回答者の属性

年齢	20代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無回答	合計
n	3	13	21	22	30	14	12	4	119
%	2.5%	10.9%	17.6%	18.5%	25.2%	11.8%	10.1%	3.4%	100.0%

注):



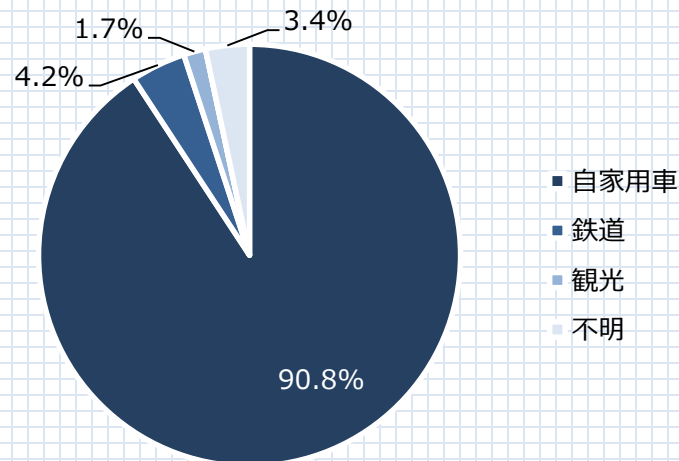
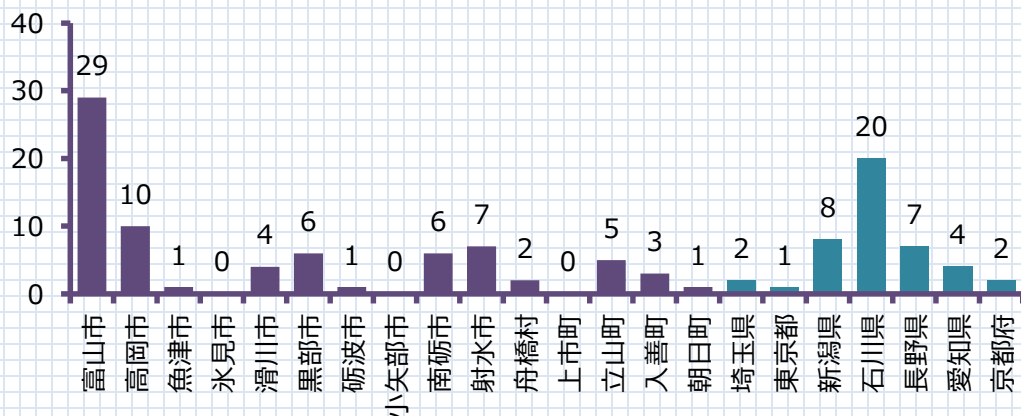
アンケート回答者の属性(2)

回答者の居住地

富山県内														富山県外					合計			
75														44					119			
富山市	高岡市	魚津市	氷見市	滑川市	黒部市	砺波市	小矢部市	南砺市	射水市	舟橋村	上市町	立山町	入善町	朝日町	埼玉県	東京都	新潟県	石川県	長野県	愛知県	京都府	
29	10	1	0	4	6	1	0	6	7	2	0	5	3	1	2	1	8	20	7	4	2	

どのような交通手段でお越しになりましたか

	自家用車	鉄道	観光バス	その他	不明	合計
n	108	5	2	0	4	119
%	90.8%	4.2%	1.7%	0.0%	3.4%	100.0%



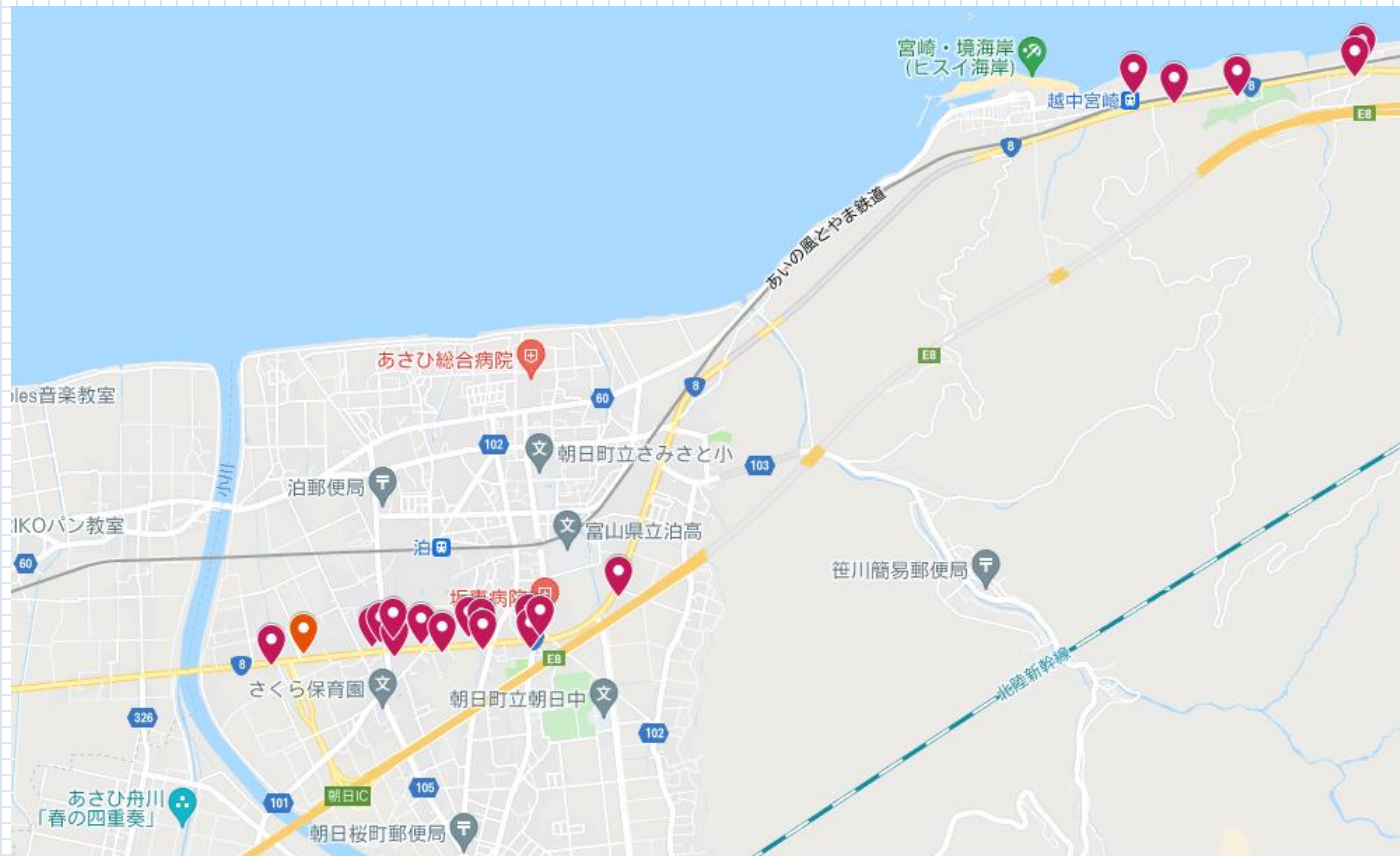
資料：朝日町企画財政課「春の四重奏来訪者調査」

- 回答者の2/3弱が県内から来訪（県内12市町村より来訪者あり）
- 県外来訪者は隣県（石川県，長野県，新潟県）が中心

関連事業所アンケートの概要

- 朝日町企画財政課による春の四重奏関連事業所に対する調査
- 以下では「**関連事業所アンケート**」として言及

- 4月1日～18日にかけて町内の事業所20か所にアンケートを送付（留置回収法）
- 対象事業所は国道8号線沿道を中心に選定
 - 飲食（7）、コンビニエンスストア（4）、その他小売（3）、ガソリンスタンド（4）、温浴施設（1）、公共施設（ヒスイテラス）（1）
- 質問項目
 - 春の四重奏期間中における、平時と比較した、来客数、客層、売上、仕入の変化を質問



学生アンケートの概要

- 朝日町企画財政課「ふるさと」への提言「学生アンケート」の概要
- 以下では「学生アンケート」として言及

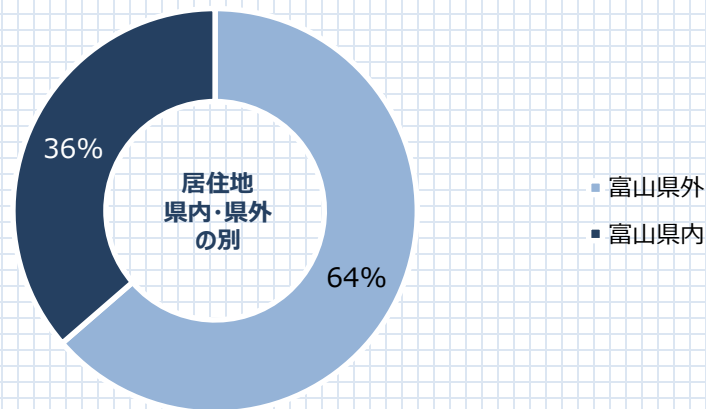
- 2021年10月18日を締切として、朝日町大学生等就学応援事業の対象学生に対して、朝日町の暮らしやすさや将来設計、就職の希望、町の課題や将来について調査（101名から回答）
- 質問項目
 - 年齢、性別、現在の居住地、朝日町の住みやすさ、今後の居住希望、それらの理由、学校卒業後の関心ある進路（産業）、関心ある職種、職業選択の上で重視すること、朝日町の課題（足りないもの、必要なものなど）、課題解決に向けた必要な取組、朝日町へのUターンを促すために、必要だと思える支援策、「持続可能性」の観点から、地域社会の一翼を担う学生の皆さんにとって、今後必要とされるもの

回答者の性別

性別	男性	女性	無回答	合計
n	60	39	2	101
%	44.50%	51.30%	4.20%	100%

回答者の年齢

18歳	19歳	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳	無回答	合計
13	25	19	25	10	5	3	1	101

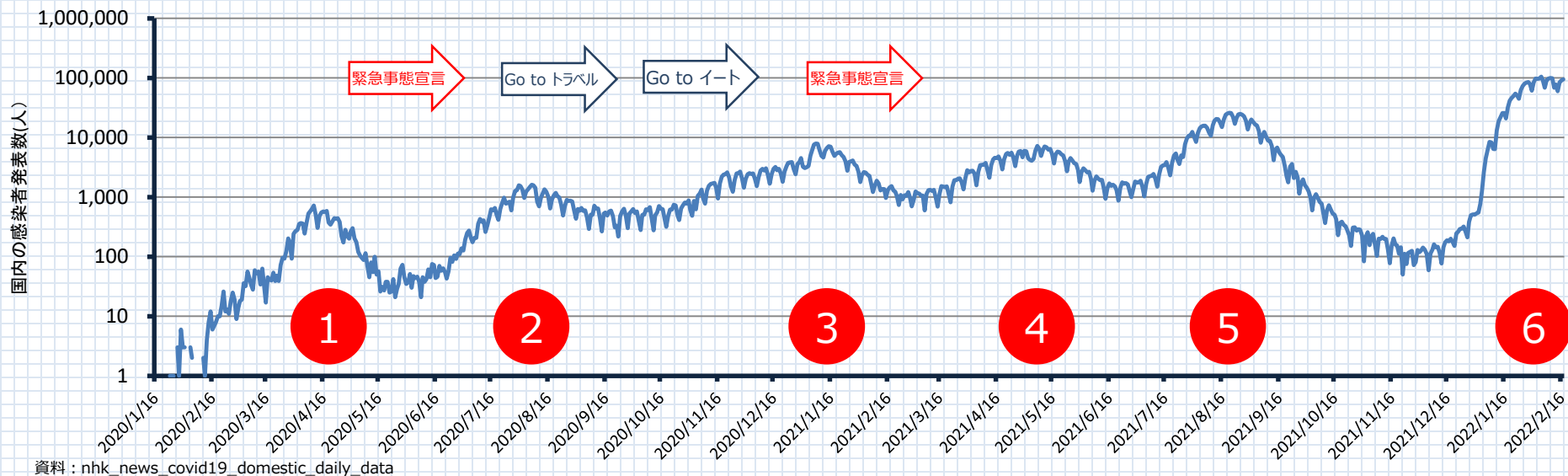


回答者の居住地

北海道	青森県	山形県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	広島県	福岡県	沖縄県	合計	
									朝日町	富山市															
1	1	1	1	3	1	7	2	5	24	12	10	3	2	3	2	2	6	4	4	3	1	1	1	1	101

1 ■ COVID-19の観光産業への影響

国内の1日ごとの感染者発表数の推移

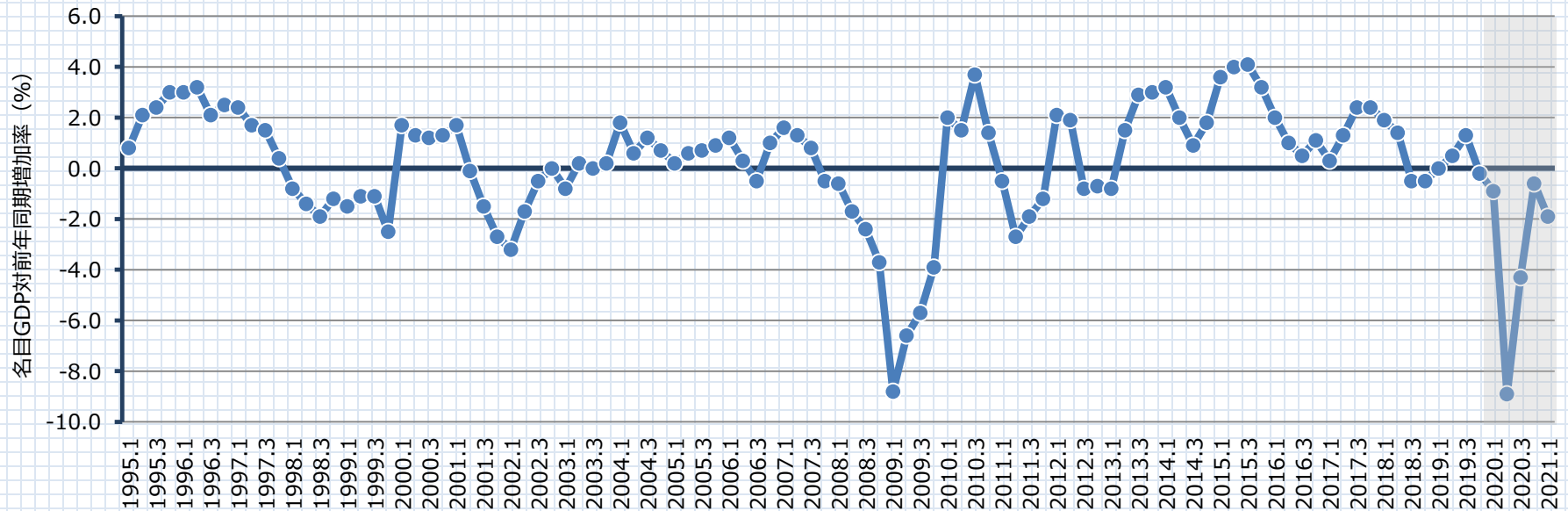


- 新型コロナウイルス感染症の拡大は数度の波を伴い社会生活に大きな影響を及ぼす
- 国内旅行に焦点をあてて、以下の各項目をマクロ統計をもとにまとめておく
 - マクロ経済への影響
 - 家計消費への影響
 - 旅行や観光消費への影響

マクロ経済への影響

- GDP成長率は新型コロナウイルス感染拡大により大きく減少
 - リーマンショックと同程度の減速

四半期別にみた名目GDP対前年同期比増加率

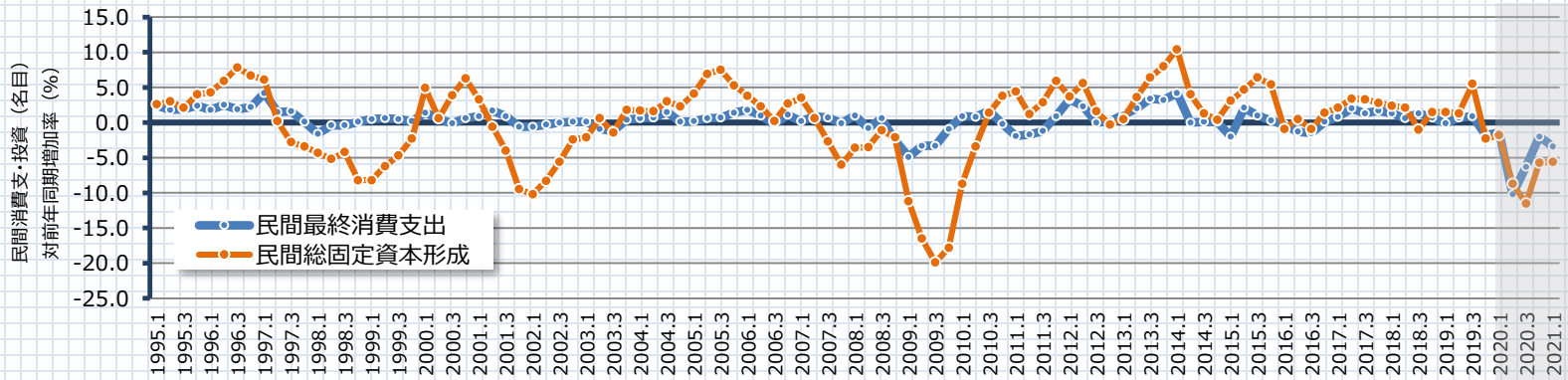


資料：内閣府『国民経済計算』

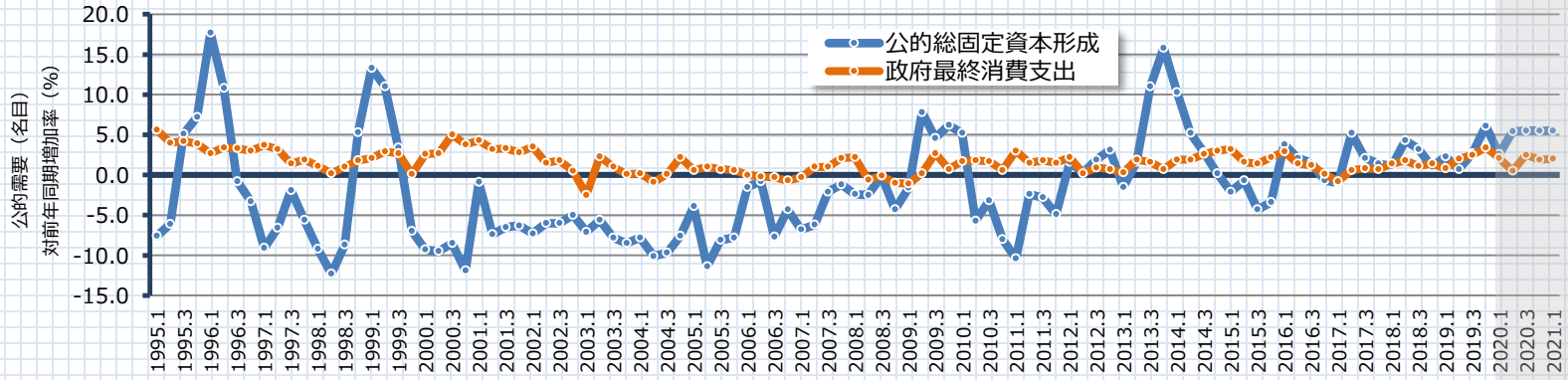
- GDP構成項目（支出側）別にみた影響（次頁）
 - 民間消費支出の減少が顕著（リーマンショック時を超える）
 - 民間投資，輸出も減少したがリーマンショック時ほどではない
 - 公的需要（政府消費，公的固定資本形成）の増加で若干の下支え

GDP支出側の構成要素への影響

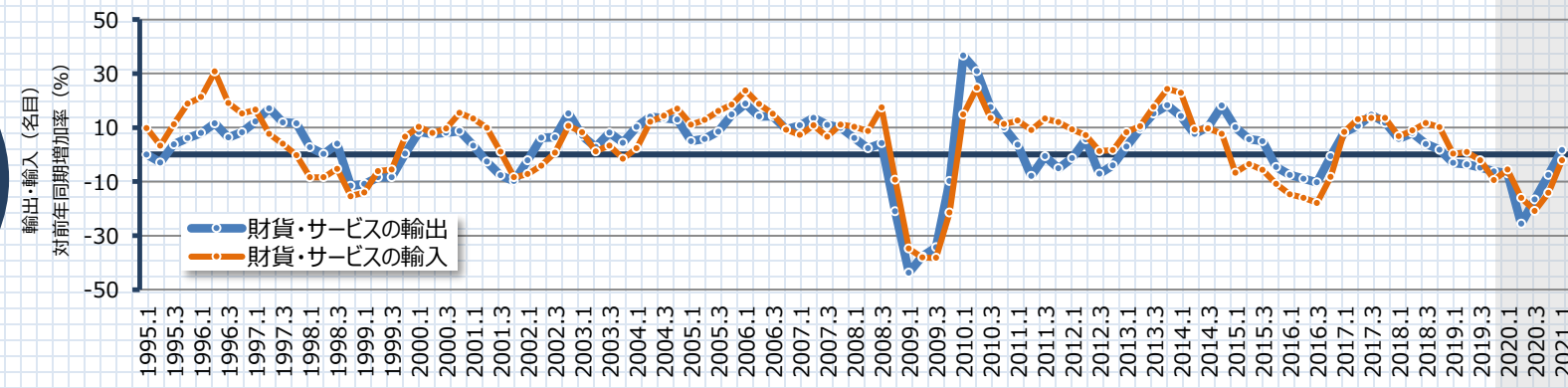
民間需要
消費・投資



公的需要
消費・投資



輸出入

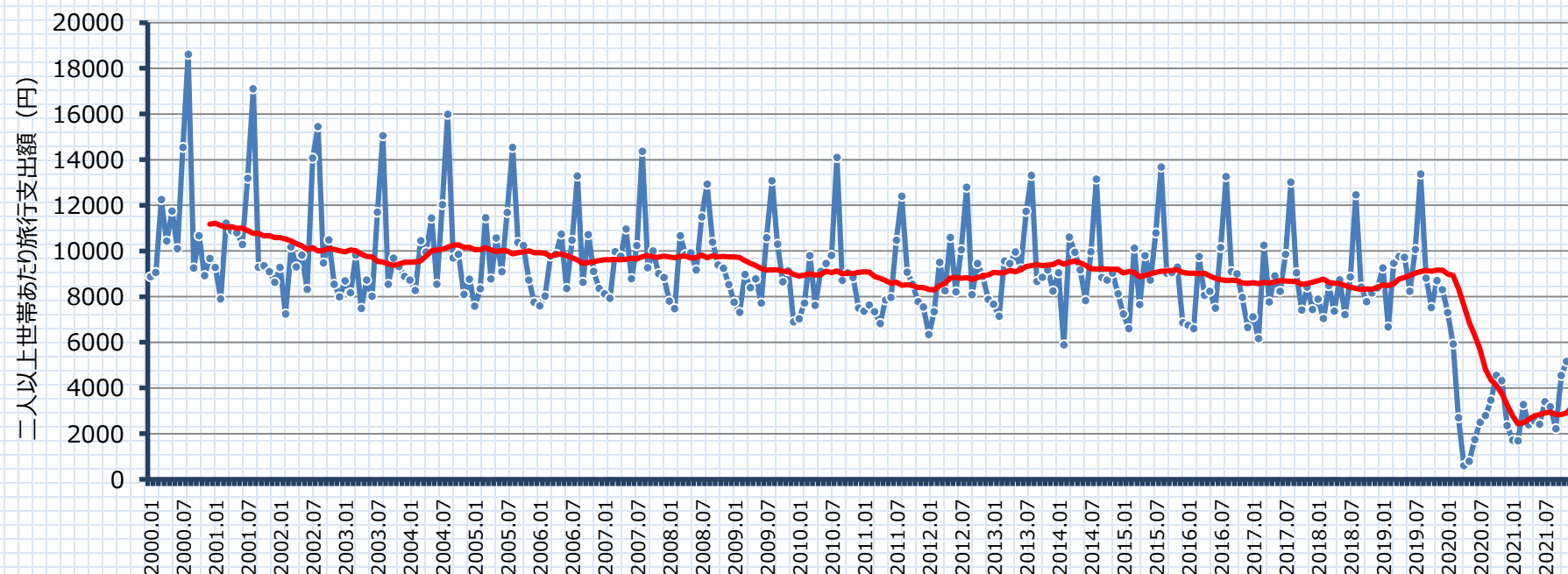


資料：内閣府『国民経済計算』

家計調査から見た旅行支出額への影響

- 家計調査（二人以上世帯）から見た世帯あたり旅行支出額の推移
 - COVID19で急激に減少
 - 支出額は直前の1/4程度まで減少
 - ただし、長期的にも緩やかに低下傾向であった
 - 国内の消費者に限れば観光市場は拡大していない

世帯あたり月別旅行支出額の推移

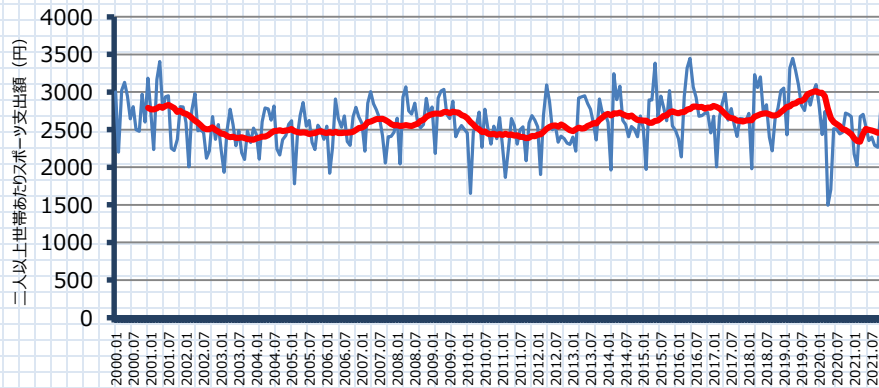


資料：総務省「家計調査」に基づき作成

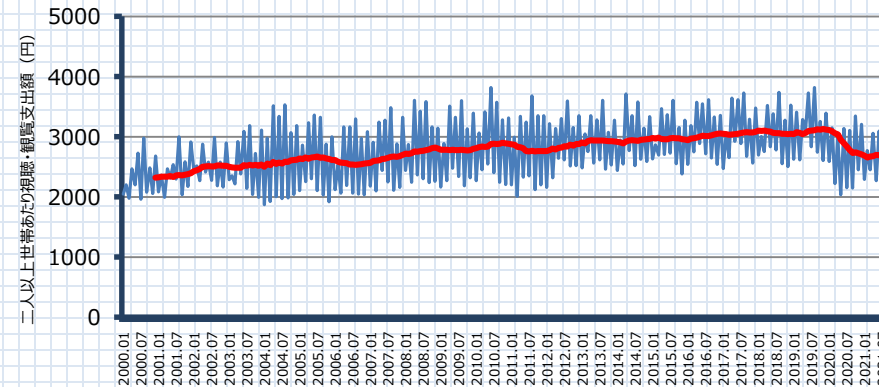
支出額（名目額）●と、12か月後方移動平均値—

その他余暇・娯楽支出への影響

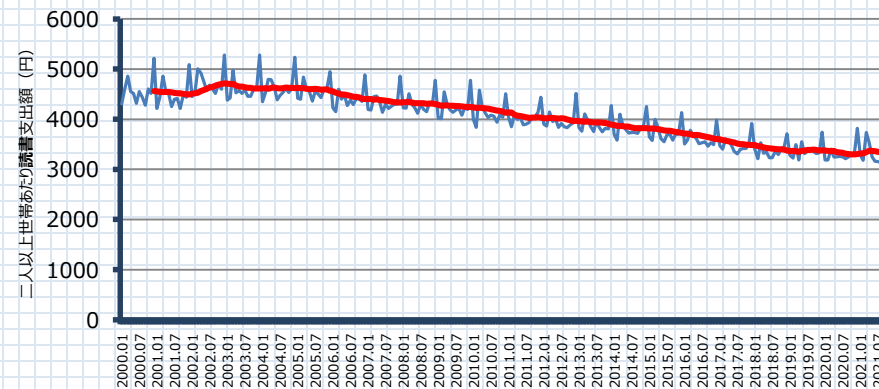
スポーツ



エンタメ
観覧・視聴



読書



資料：総務省「家計調査」、支出額（名目額）■と、12か月後方移動平均値—

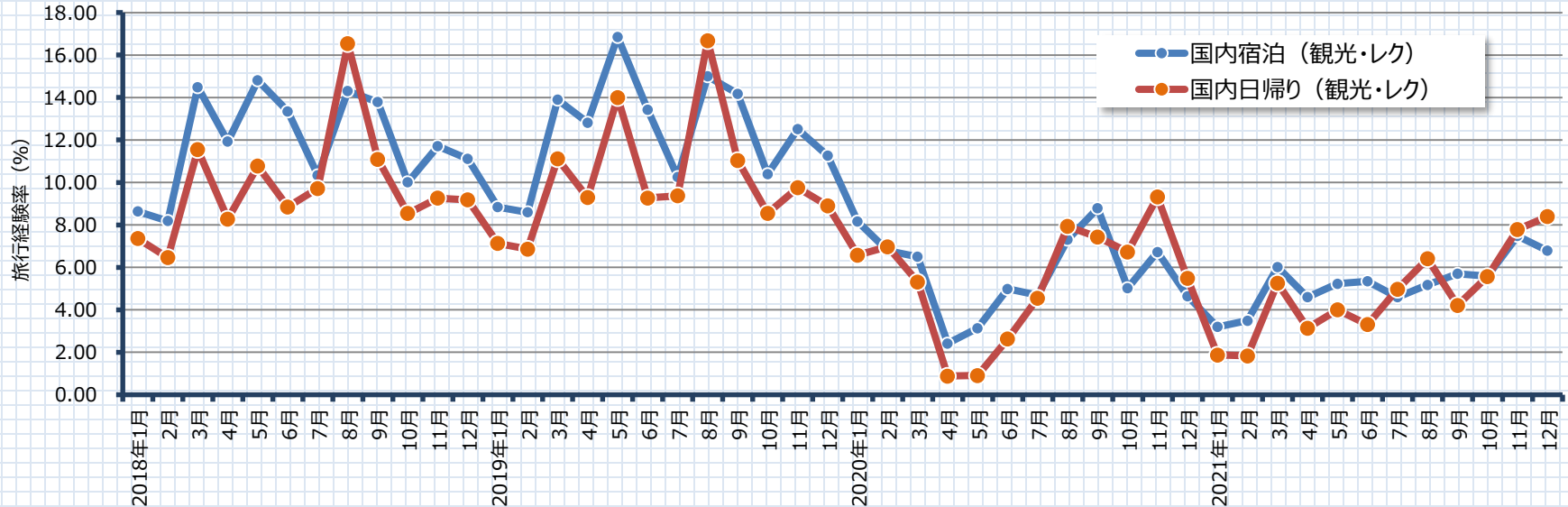
- スポーツや観覧・視聴についても新型コロナウイルス感染拡大の影響が観察される
 - 但し、旅行ほど顕著ではない
- インドアの教養娯楽である読書は感染拡大により下降トレンドが下げ止まり

注：各支出項目の内容

- **旅行**：鉄道運賃，バス代，航空運賃，宿泊料，国内パック旅行費，外国パック旅行費，旅行用かばん
- **スポーツ**：運動用具類，スポーツ観覧料，ゴルフプレー料金，スポーツクラブ使用料，他のスポーツ施設使用料
- **観覧・視聴**：NHK放送受信料，ケーブルテレビ放送受信料，他の放送受信料，映画・演劇等入場料，文化施設入場料

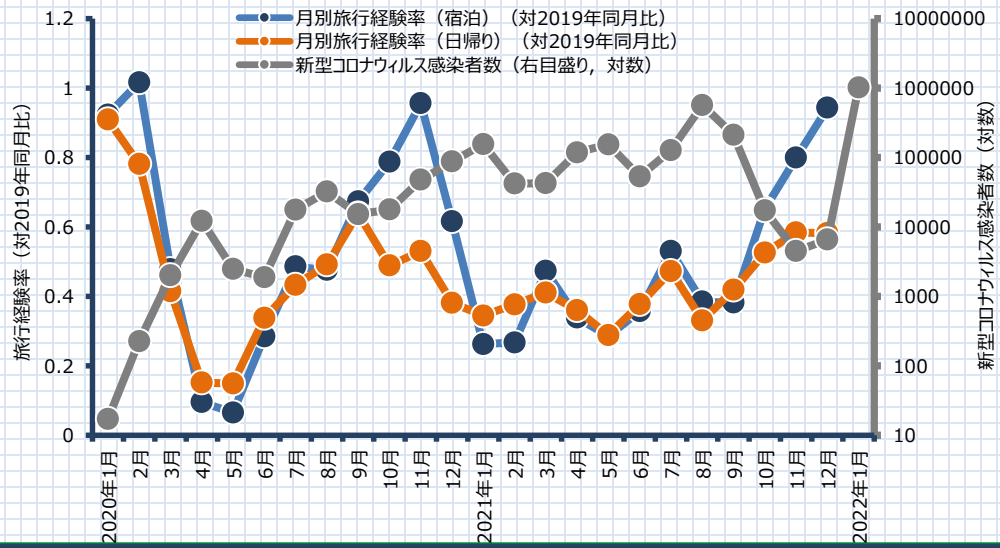
国内旅行への影響

国内旅行者数（旅行経験率）の月別推移



- 観光庁『旅行・観光消費動向調査』からみた旅行経験率（旅行した人の割合）の推移
 - 国内旅行（観光・レクリエーション目的）の宿泊旅行と日帰り旅行を月別に集計
- 感染状況や政府の観光支援政策により変動はあるものの新型コロナウイルス感染症拡大の影響は顕著
- 概ね感染者数の拡大に伴い旅行経験率が減少する傾向
 - 宿泊，日帰りとも類似した動向を示すが，宿泊の方がコロナ前と比較した変動がやや大きい（右図）

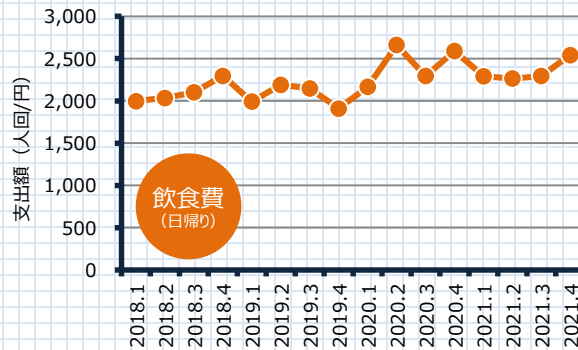
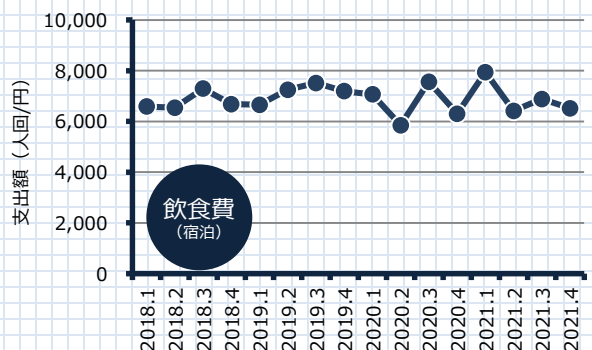
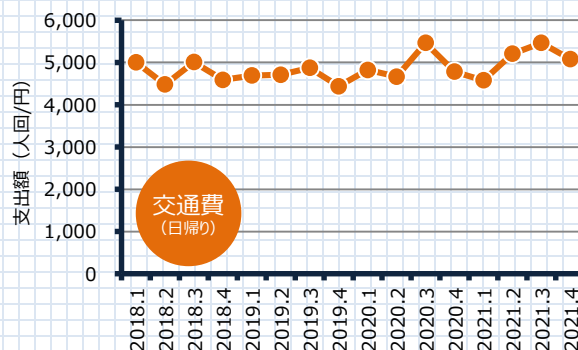
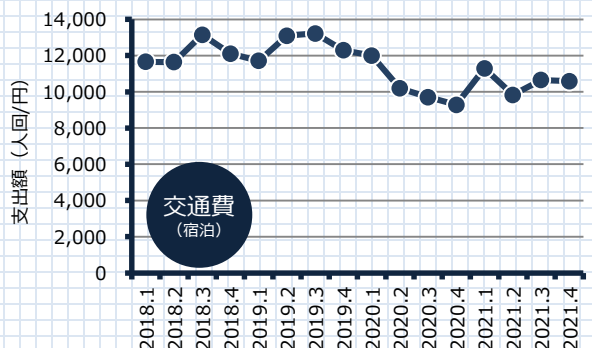
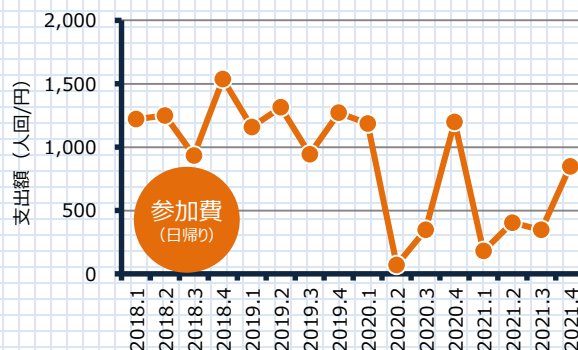
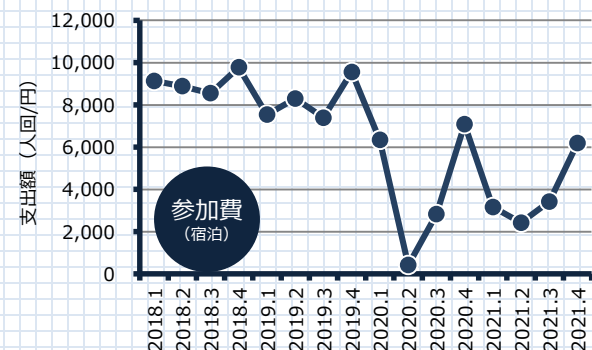
感染者数と旅行経験率の関係



資料：観光庁「旅行・観光消費動向調査」, nhk_news_covid19_domestic_daily_data

旅行中の消費支出額の推移

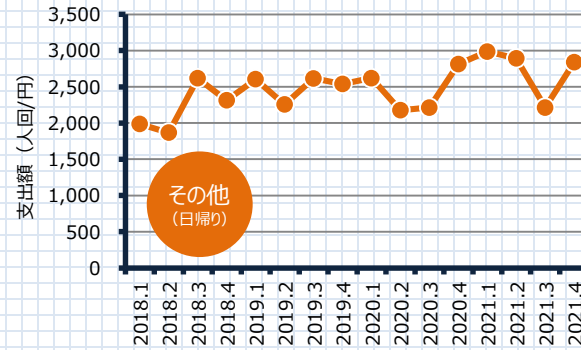
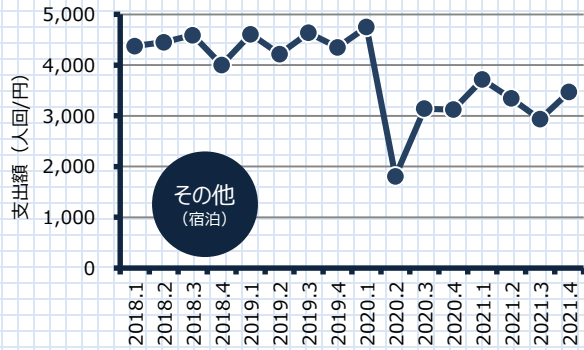
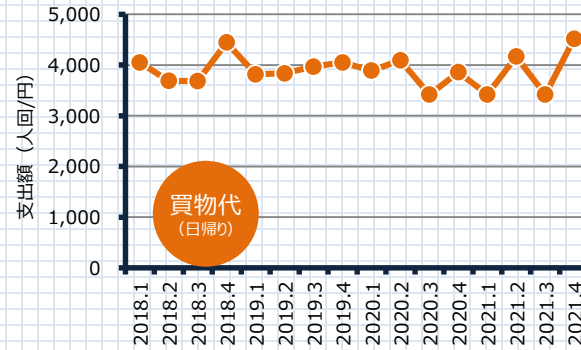
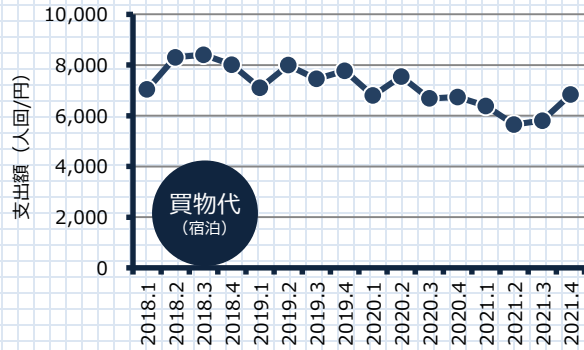
- 旅行した人々の旅行中の消費支出額をコロナ前から直近まで比較



- 参加費については宿泊，日帰りとも感染拡大の影響が顕著
 - ツアーの取りやめが原因と思われる
 - ただし，感染状況に大きく依存
- 交通費は宿泊では感染拡大により減少
 - 訪問先の近距離化を示唆
- 日帰りでは微増傾向
 - 宿泊から日帰りにシフトした旅行者の存在を示唆
- 宿泊旅行での飲食は感染拡大の状況に依存して変動
- 日帰りの飲食は増加傾向
 - 宿泊から日帰りへのシフトによるものか
- 出かけた目的や活動内容にかかわらず，日常生活圏を離れたところへの日帰りの旅行で，目安として片道の移動距離が80km以上または所要時間（移動時間と滞在時間の合計）が8時間以上の場合を「国内日帰り旅行」としている（観光庁Web）ただし，通勤や通学，通院などの定期的な外出（目安は週1回以上）、転居のための片道移動、交通機関の乗務を除く

資料：観光庁「旅行・観光消費動向調査」

消費支出額の推移 (続き)



- 買物代は宿泊，日帰りとも感染拡大により微減傾向
 - 日帰りでは感染拡大期間における変動が大
- その他（娯楽等サービス費・その他）は宿泊において顕著に減少
- 日帰りでは感染拡大初期に減少したがその後増加，変動
 - 体験型サービスを提供する施設等の休止が影響か。
- 宿泊費は変動しながらも増加傾向
 - 滞在型の需要が増加したのかも知れない

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により

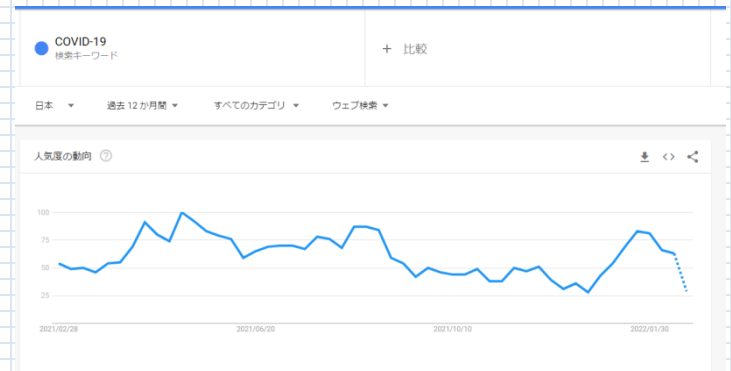
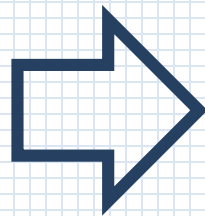
- 旅行回数は大きく減少
- その中でも感染状況を見ながら旅行をする層は一定数存在
- 宿泊から日帰り，ツアーから個人旅行（参加費支出の減），遠距離から近距離（交通費の減），体験型の回避（その他消費支出の減）へのシフト

2. 春の四重奏の注目度と誘客

Google Trend による分析

• グーグルトレンド

- ある単語がGoogleでどれだけ検索されているかというトレンドをグラフで見ることができるツール (Wikipedia)
- 検索キーワードを入力, 検索期間を指定することで期間中の検索動向 (人気度) を知ることができる
- 複数のキーワードを比較することも可能
- 検索結果はグラフで出力の他, データのダウンロードも可能
 - 検索期間中の最大の人気度を100として表示されるので, 絶対的な検索件数を表すわけではない
 - 複数のキーワードを比較したときは, 期間中の最大の人気度を示す項目の当該期を100として出力 (相対的な注目度の比較が可能)
- サンプル抽出によりデータを作成しているようなので, 検索の都度, 値が若干変化することがある
- 以下ではグーグルトレンドを用いて春の四重奏や関連観光サイトの注目度を分析
 - コロナ前の2017年から推移を比較する

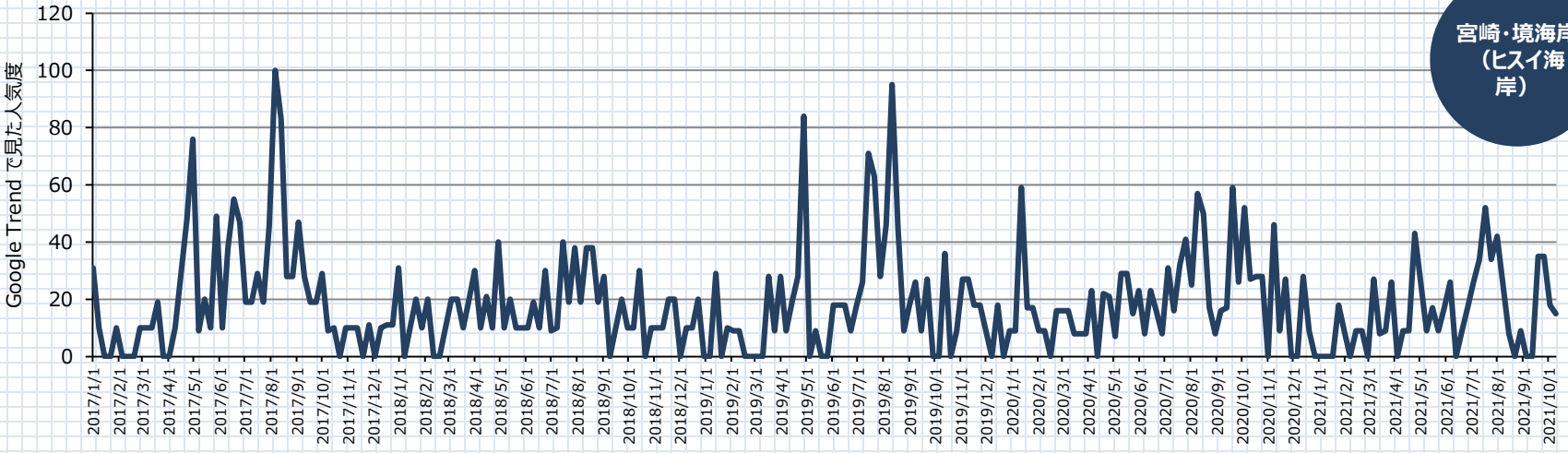
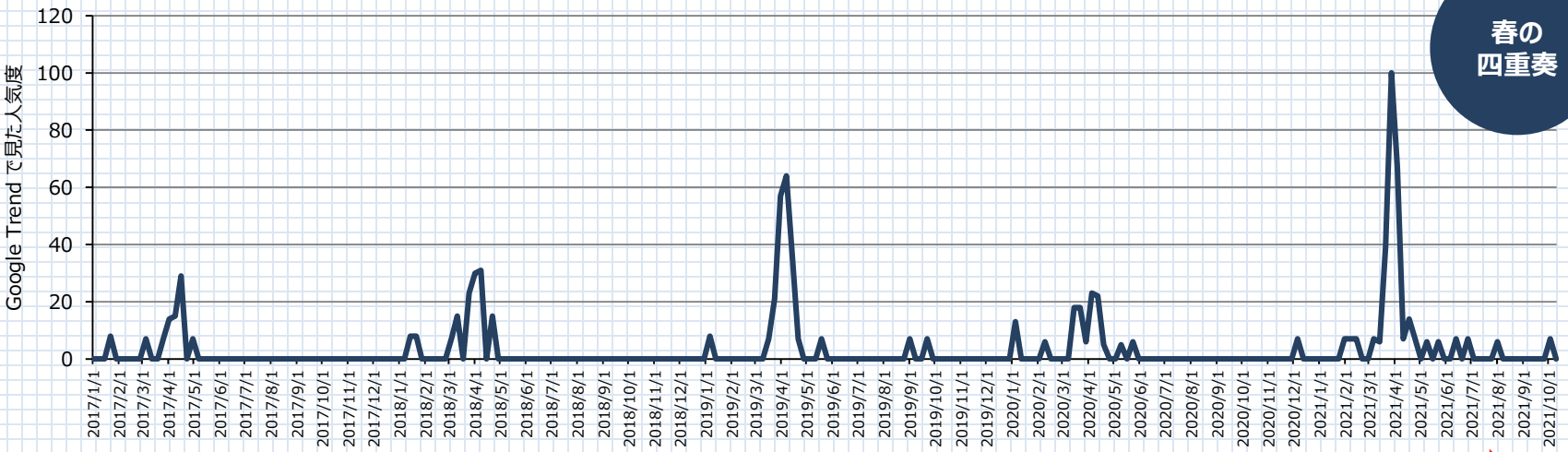


Google Trend でみた春の四重奏の注目度

■ 春の四重奏入込客数が過去最高を記録した背景には、コロナ禍の影響があると思われる

- 人々の自然志向
- 近場での観光・レジャーへの需要

- 春の四重奏ではコロナ1年目に大きな影響を受けるが令和3年度にはコロナ禍前を上回る注目度を示す
 - ヒスイ海岸ではコロナ禍以降、8月の注目度が低下（夏季のイベント中止・縮小が影響していると思われる）



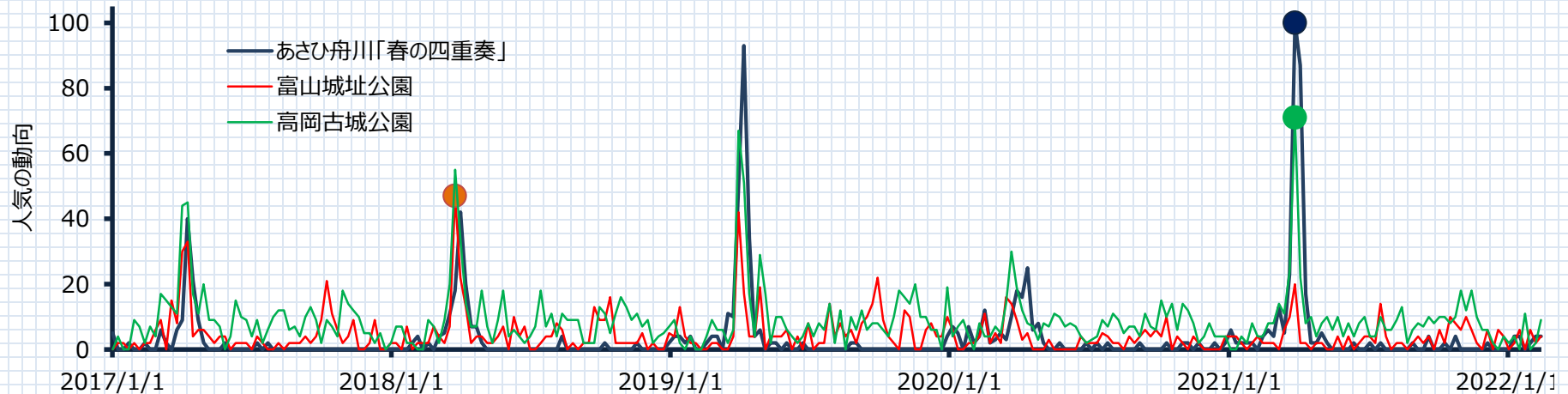
資料 : Google Trend

県内の他のサイトと比較した人気度

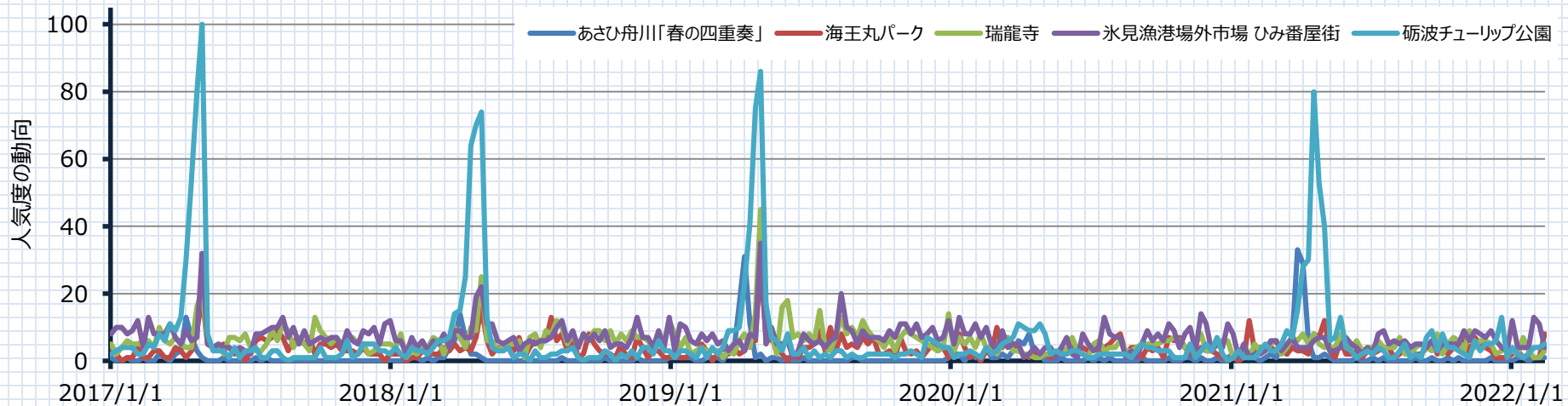
春の四重奏が2021シーズンに注目された背景には、入場料等を支払うことなく「気軽に訪問できる」、県内の人にとって「近場」という要因があったかもしれない

- 桜関係では、春の四重奏と同じく高岡古城公園も2021シーズンが検索動向でみた注目度が最高
- 県内の他の観光サイトと比較すれば、砺波チューリップ公園の注目度が群を抜いているが2017シーズンの注目度がピーク

県内の他のお花見スポットとの比較



県内の他の観光スポットとの比較



春の四重奏の認知媒体

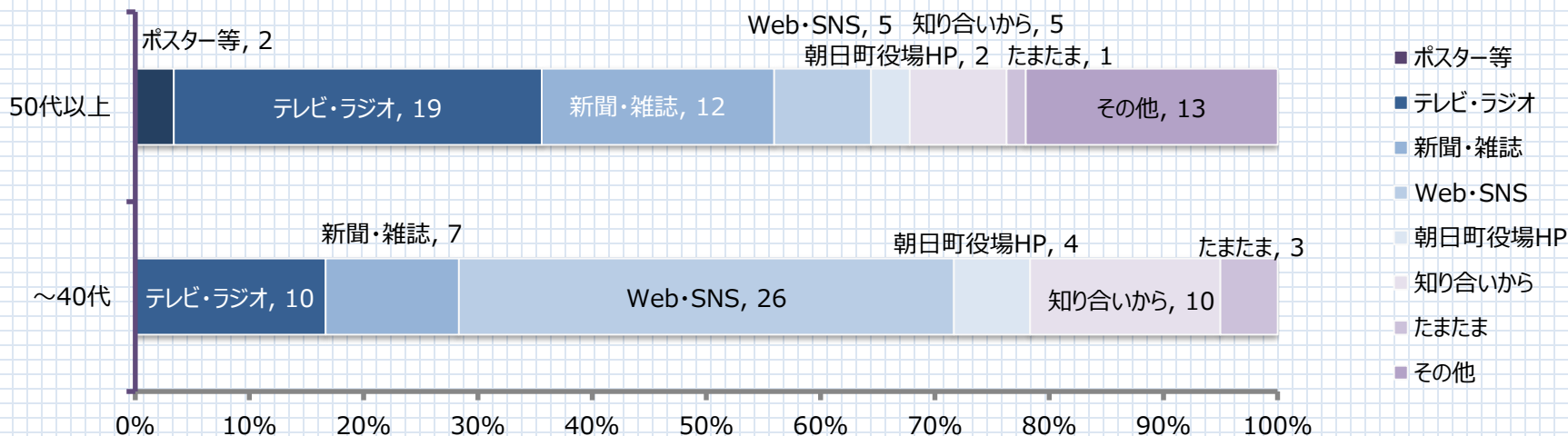
訪問の
きっかけ

朝日町 春の四重奏を何でお知りになりましたか？（複数回答）

MA	ポスター等	テレビ・ラジオ	新聞・雑誌	Web・SNS	朝日町観光サイト	朝日町役場HP	知り合いから	たまたま	その他	不明・無回答	合計
n	2	30	21	33	0	6	14	4	13	6	111
%	1.6%	23.3%	16.3%	25.6%	0.0%	4.7%	10.9%	3.1%	10.1%	4.7%	100.0%

その他には,

訪問者の年代別（2区分）でみた訪問のきっかけ



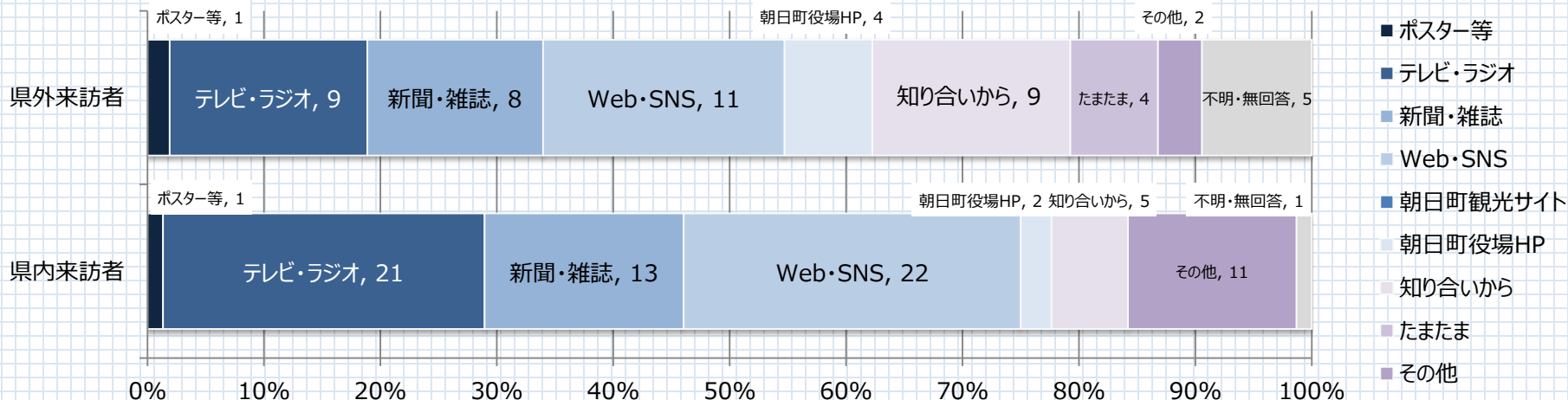
資料：朝日町企画財政課「春の四重奏来訪者調査」

- 若年層ではWeb, SNSなどが訪問のきっかけ
- シニア層はテレビ・ラジオ, 新聞・雑誌など従来型メディアで情報取得
- 若年層では口コミ（知り合いから）の影響もやや大きい

春の四重奏の認知媒体

県外ではマス媒体への露出が少なく、ネットや口コミも重要なきっかけ

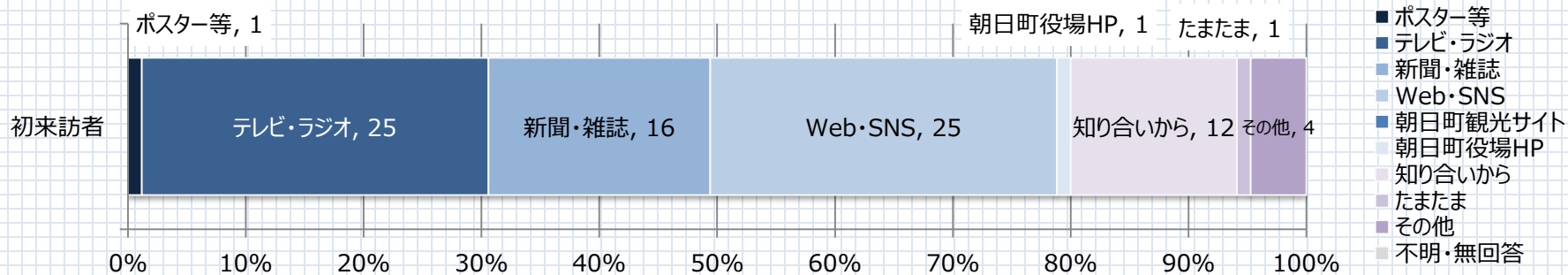
■ 来訪者の居住地別に見た認知媒体



- ・ 県外来訪者ではマス媒体（ポスター、テレビ・ラジオ、新聞・雑誌）よりもネットや口コミ（Web・SNS、役場HP、知り合い）の方がやや多い
- ・ 県内来訪者ではマス媒体の方がやや多い

■ はじめての来訪者の認知媒体

春の四重奏をはじめて訪問する人ではマス媒体とネット，口コミが拮抗



資料：朝日町企画財政課「春の四重奏来訪者調査」

プロモート、誘客から見た評価

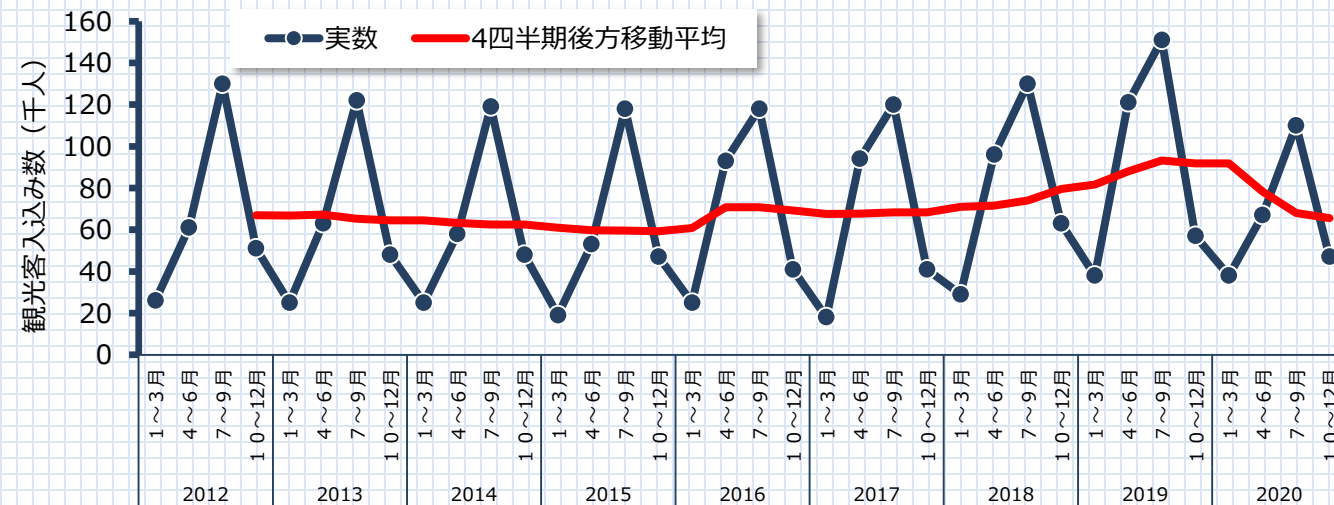
- 春の四重奏は、コロナ禍にも関わらず2021シーズンで過去最高の入込み数を記録（後述）
 - Google Trendでみた検索動向にも表れている
 - 前節の観光消費動向調査からもわかるような、人々の旅行に対する態度の変化（遠→近、混雑→ゆったり、予定が立たない中で柔軟に訪問できる気軽さ）が春の四重奏にとってプラス要因に働いたと考えられる
 - もちろん町や関係団体によるプロモートも功を奏した
- 世代や地域による認知媒体の違いは今後のプロモーションを考える上で重要
 - マス媒体がきっかけで訪問することが多い、ミドル、シニア世代（特に県外居住者）についてどのような方法でプロモーションしていくか
 - 若年世代にはSNSで観光サイト+ 関連情報（飲食や他の観光地）を拡散させていく試みが重要かも知れない
 - SNSやWebがきっかけで訪問、現地で再び近隣のサイトやスポットを検索→町内消費や回遊、につながる
- 残された課題
 - 2020シーズン、2021シーズンともヒスイ海岸の注目度が回復していない（春の四重奏と類似した特性を持つと思われるにも関わらず）、なぜ、注目度が回復しない？
 - ただし、後述のようにオートキャンプ場の注目度は上昇している

3. 春の四重奏の来訪者分析

観光客入込みの推移

県内他市町村と比較して増加傾向が続いていた朝日町の入込み数

朝日町観光客入込みの推移

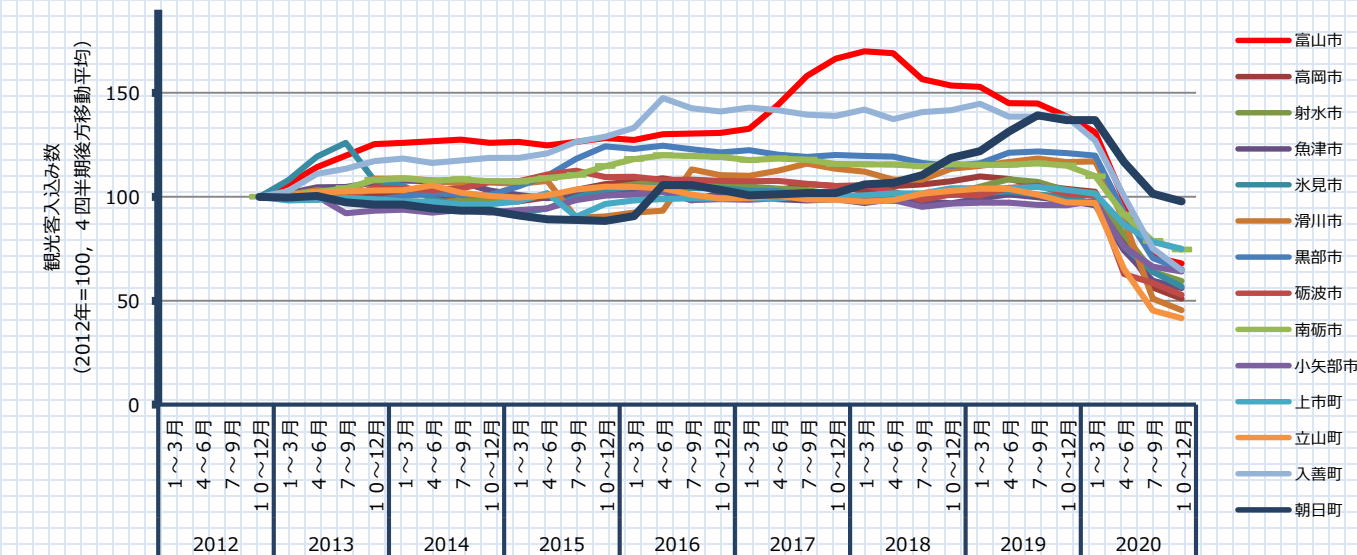


- 朝日町では、2016年以降4~6月の入込みが増加（春の四重奏効果？）
- 2017年から2019年にかけて顕著に増加（すべての期で増加傾向）
- 2020年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で大きく落ち込むが2020年水準に留まる

県内他市町村

- 富山市が2017年から2018年にかけて顕著に増加（その後は減少）
- 北陸新幹線金沢延伸（2015年3月）以降、南砺市、黒部市、入善町などで増加が観察
- 新型コロナウイルス感染拡大の影響で、朝日町以外の市町では2012年水準比40~75%まで減少

富山県内市町における観光客入込みの推移

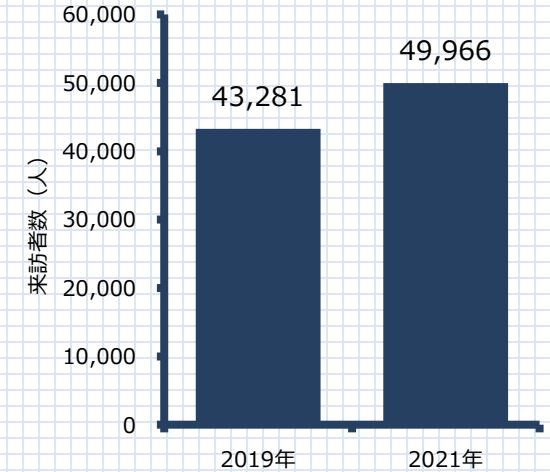


資料：富山県『富山県観光客入込数等』各年版

過去最高を記録した春の四重奏入り込み数

- 2021年の春の四重奏は過去最高
 - 全国的な知名度上昇？
 - 観光・消費動向調査や関連サイトの注目度分析ではむしろ近場の観光需要の拡大も示唆
 - 一方で、近隣の誘客に注力したチューリップフェアでは入場者数が54.5%減少

春の四重奏来訪者数



朝日町の観光名所「春の四重奏」の今季の入り込み客数が四万九千九百六十六人と、過去最高を更新した。これまで最高だった二〇一九年の四万三千二百八十一人を六千七百人近く上回った。二十七日に町が明らかにした。

十八日までの客数を計数した。町商工観光課は客数が伸びた要因について「ヒスイ海岸と並び、重要な観光資源として位置付け、PRに注力している。中学校の教科書にも採用され、全国的な知名度が上がったのではないかと話した。

町によると、見ごろ期間に設定した初日の四月三日に、日間の過去最高となる一万九百四十四人を記録。その後も十二日まで、雨だった四日の千四百六十一人を除き、連日二千～五千人台の入り込み客があった。

平日の臨時駐車場を利用した県外ナンバーは二千六百十九台で県内の千五百十八台を大きく上回った。

県外で最も多かったのは隣県石川県の金沢、石川ナンバーで計四百四台。以下、長岡（新潟県）ナンバーの七十六台、名古屋ナンバーの五十四台、長野ナンバーの三十五台、岐阜ナンバーの二十九台。東京都内、大阪府内、京都などの他、札幌、福岡、高知、愛媛ナンバーもあった。

『中日新聞』2021年4月28日 05時00分

どこから
どんな属性の人々が
来場しているのか？

砺波市の砺波チューリップ公園を主会場に開かれた「第70回記念となみチューリップフェア」（富山新聞社、北国新聞社後援）は5日、14日間の会期を終えて閉幕した。総入場者数は14万8千人で、新型コロナウイルス流行前の一昨年と比べ、54.5%減となった。

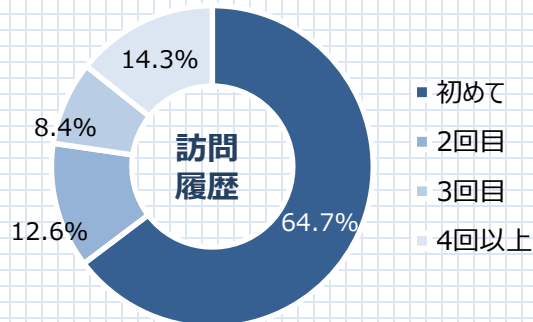
運営本部によると、新型コロナの感染再拡大で再び外出自粛ムードが拡大したことに加え、会期後半は天候にも恵まれなかったことが響いた。

首都圏からの来訪には期待できないとみて、北陸三県を中心とした誘客に力を入れた結果、入場者の約6割が富山県内、約2割が石川県となった。一方、外国人観光客は前々年比96%減の330人とどまった。

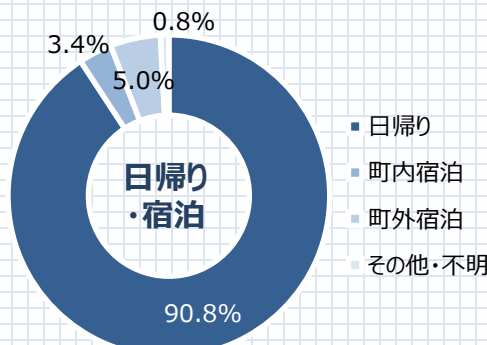
最終日の5日は、[こどもの日](#)にちなんで小中学生が入場無料となり、8千人が訪れた。会期後半の気温が例年より上がらなかったため、最終日まで美しい花を楽しめたという。

『北国新聞』5/7(金) 5:01

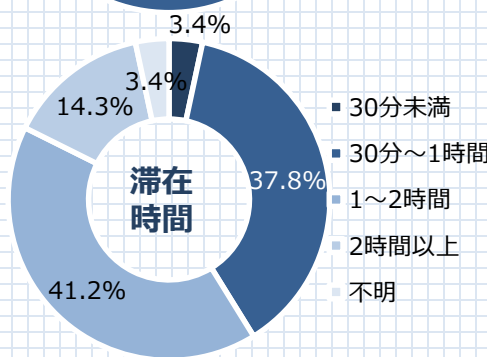
訪問履歴と日帰り・宿泊，滞在時間



- 初めて
- 2回目
- 3回目
- 4回以上



- 日帰り
- 町内宿泊
- 町外宿泊
- その他・不明



- 30分未満
- 30分～1時間
- 1～2時間
- 2時間以上
- 不明

春の四重奏にお越しになられたのは何回目ですか（8月10日）

SA	初めて	2回目	3回目	4回以上	不明	合計
N	77	15	10	17	0	119
%	64.7%	12.6%	8.4%	14.3%	0.0%	100.0%

今回の旅行は日帰りですか？宿泊ですか？

SA	日帰り	町内宿泊			町外宿泊	その他・不明	合計
		ホテル・旅館	実家	友人宅など			
n	108	2	1	1	6	1	119
%	90.8%	1.7%	0.8%	0.8%	5.0%	0.8%	100.0%

「朝日町 春の四重奏」での滞在時間はどれくらいですか

SA	30分未満	30分～1時間	1～2時間	2時間以上	不明	合計
N	4	45	49	17	4	119
%	3.4%	37.8%	41.2%	14.3%	3.4%	100.0%

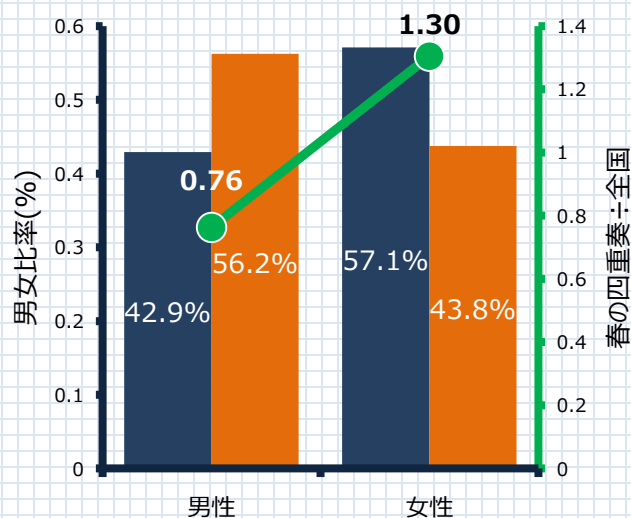
資料：朝日町企画財政課「春の四重奏来訪者調査」

- 回答者の1/3がリピーター
- 回答者の約40%が1時間以内の滞在

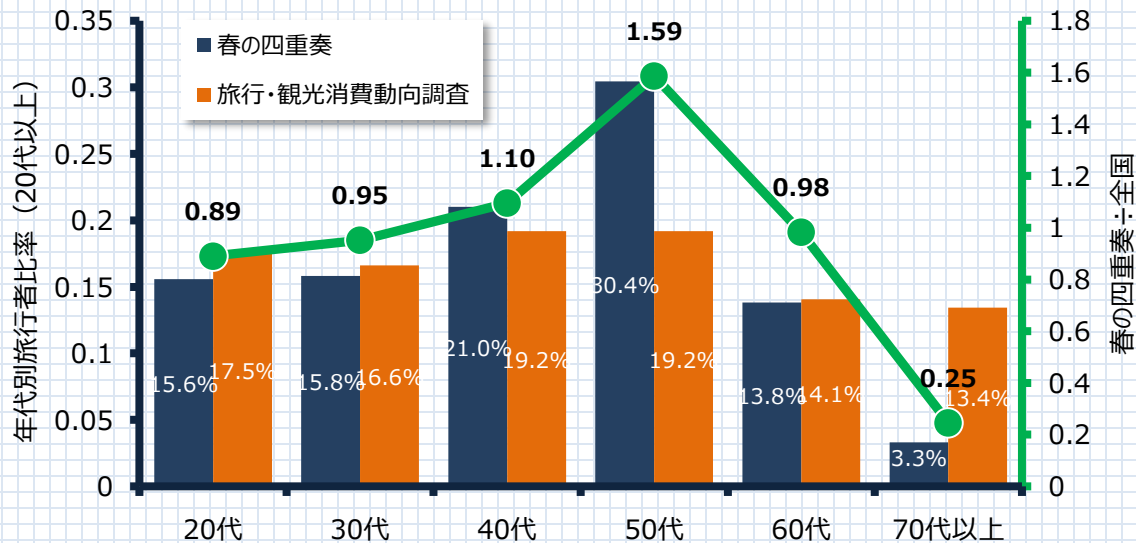
春の四重奏アンケート[1]から見た来訪者特性

- 春の四重奏アンケート[1]（商工会調査）が来訪者について偏りなくアンケートを実施していると仮定して、観光庁「旅行・観光消費動向調査」における旅行者動向と比較
 - 観光庁調査（2021年4～6月期）における同期間の宿泊・日帰り延旅行者数（観光・レクリエーション目的）の性別、年代別構成比と比較
 - 観光庁調査における宿泊、日帰りのデータを商工会調査の宿泊者比率（=1-日帰り者比率）で加重和して比較
 - 商工会調査はアンケート調査の回答者属性なので両調査の20代以上だけを抽出して比較
- 春の四重奏来訪者の特徴
 - 女性の来訪者が**相対的に多い（全国同期比の1.3倍）
 - 年代別では**50代の割合が高く**、**40代の割合もやや高い**、60代の割合はほぼ全国と同じ
 - 全国と比較して**20代と70代以上の割合が低い**

来訪者の男女比率



年代別来訪者比率（20代以上）

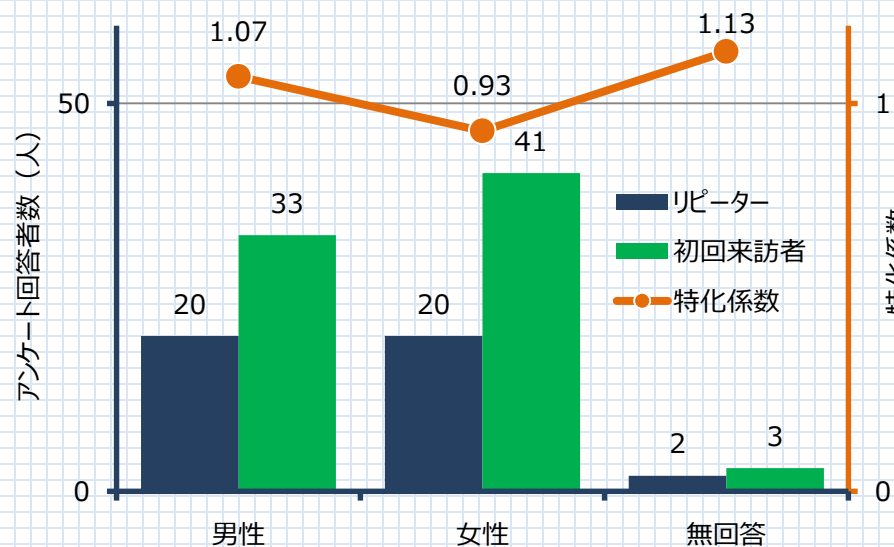


資料：朝日町企画財政課「春の四重奏来訪者調査」、観光庁「旅行・観光消費動向調査」

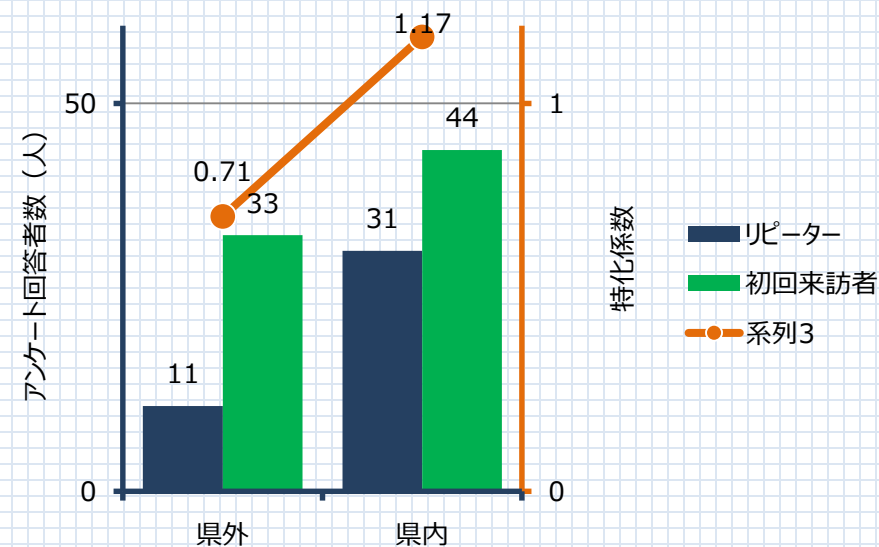
リピーターの特性

- 春の四重奏アンケート調査[2]より、クロス集計によりリピーターの特性を考える
- 男女別と居住地（県内・県外）別で集計
 - 特化係数:=リピーターの構成比÷全体の構成比
 - たとえば、女性の特化係数が1よりも小さい(0.93)ことは、リピータに占める女性の比率は来訪者全体に占める女性の比率ほど高くないことを意味する。
 - 特化係数が1よりも大きい属性がリピーターの特性を表す
- 男性や県内在住者はリピーターになりやすいと考えられる
 - 但し、リピーターの特性は過去の訪問履歴にも依存する

男女別にみたリピーターと初回来訪者数

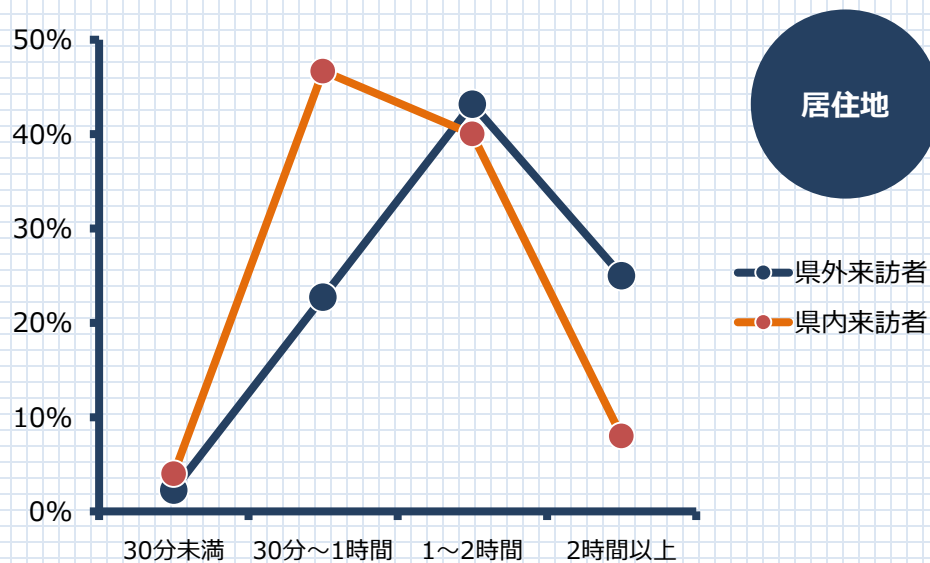
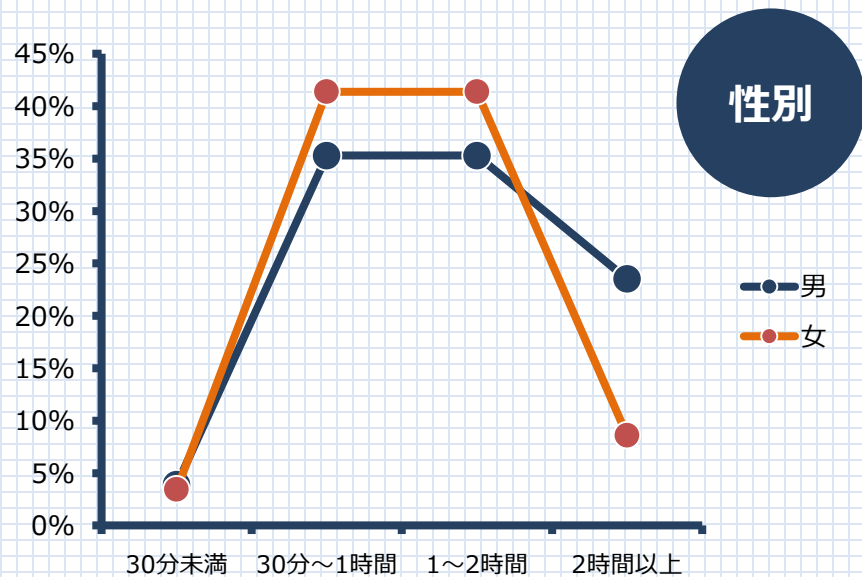
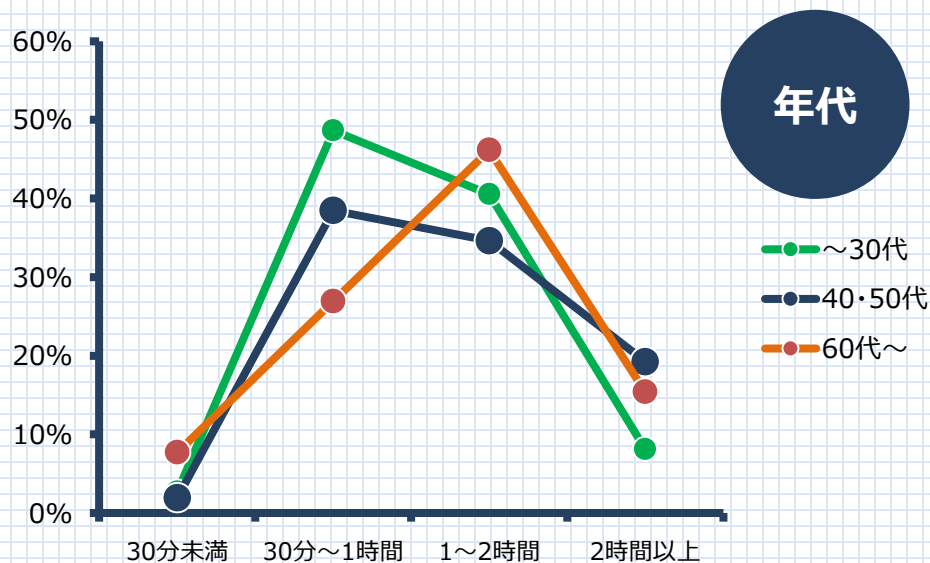


居住地別にみたリピーターと初回来訪者数



属性別に見た滞在時間

- 若年層よりもシニア層，女性よりも男性，県内居住者よりも県外居住者において滞在時間が長い傾向
 - 来訪目的（写真撮影等）も関係か



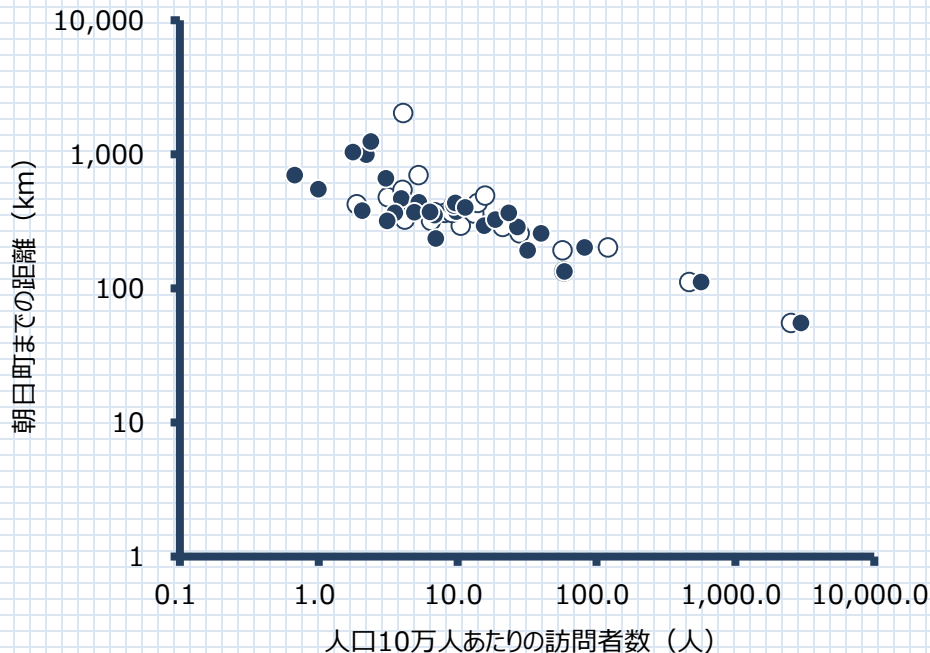
資料：朝日町企画財政課「春の四重奏来訪者調査」

居住地別の来訪者数

都道府県	アンケート回答件数		推計訪問者数推計値		人口10万人あたり訪問者数	
	2019	2021	2019	2021	2019	2021
北海道	0	0	0	0	0	0
青森県	0	2	0	38	0	3
岩手県	0	0	0	0	0	0
宮城県	0	0	0	0	0	0
秋田県	0	2	0	38	0	4
山形県	3	2	88	38	8	4
福島県	0	2	0	38	0	2
茨城県	4	8	118	150	4	5
栃木県	15	7	441	132	23	7
群馬県	7	16	206	301	11	15
埼玉県	17	19	500	357	7	5
千葉県	4	33	118	620	2	10
東京都	17	73	500	1,372	4	10
神奈川県	15	31	441	583	5	6
新潟県	92	96	2,703	1,804	121	82
富山県	893	1634	26,239	30,705	2,504	2,965
石川県	180	340	5,289	6,389	463	564
福井県	15	13	441	244	57	32
山梨県	0	3	0	56	0	7
長野県	41	64	1,205	1,203	58	59
岐阜県	19	42	558	789	28	40
静岡県	8	6	235	113	6	3
愛知県	54	108	1,587	2,029	21	27
三重県	8	21	235	395	13	22
滋賀県	2	14	59	263	4	19
京都府	8	32	235	601	9	23
大阪府	28	44	823	827	9	9
兵庫県	26	28	764	526	14	10
奈良県	5	8	147	150	11	11
和歌山県	1	0	29	0	3	0
鳥取県	3	0	88	0	16	0
島根県	0	0	0	0	0	0
岡山県	0	1	0	19	0	1
広島県	5	1	147	19	5	1
山口県	0	0	0	0	0	0
徳島県	1	0	29	0	4	0
香川県	0	0	0	0	0	0
愛媛県	0	0	0	0	0	0
高知県	0	0	0	0	0	0
福岡県	0	6	0	113	0	2
佐賀県	0	0	0	0	0	0
長崎県	0	0	0	0	0	0
熊本県	0	0	0	0	0	0
大分県	0	0	0	0	0	0
宮崎県	0	1	0	19	0	2
鹿児島県	0	2	0	38	0	2
沖縄県	2	0	59	0	4	0

- 訪問者アンケート調査[1]より、2019年と2021年における居住地（都道府県）別にみた春の四重奏訪問者数を推計
 - アンケート調査が訪問者に偏りなく実施されていると仮定して、都道府県別の訪問者比率に各年の入込み数を乗じて都道府県別の訪問者数を推計
 - 推計された訪問者数を各都道府県の人口で除して人口10万人あたりの訪問者数を推計
 - 2019年の都道府県別人口は平成27年国調と令和2年国調（速報値）を線形補完した値。2021年は令和2年国調の値を用いた。
- 富山県内からの来訪者が多いものの、隣県（石川県、新潟県、長野県、岐阜県）からの来訪者も多い
- 2021年は県内からの来訪者が増加数一方で埼玉県を除く関東地方（群馬県、千葉県、東京都、神奈川県）からの来訪者も増加
- 両年度とも人口10万人あたりの訪問者数は、概ね居住地から朝日町までの距離と負の相関が観察される。

朝日町までの距離と訪問頻度



資料：朝日町商会・朝日町商工観光課「春の四重奏来訪者調査」

まとめ：春の四重奏来訪者分析

- 朝日町では春の四重奏を契機として春季の入込み数の増加が顕著であり、夏季や冬季の入込み数も増加していた
 - 何が増加傾向につながっていたのかをしっかりと検証することが大事
- 40~50代が来訪者の中心であり、若年層の来訪者が相対的に少ない傾向
 - 若年層は滞在時間も短い傾向にあり、春の四重奏での滞在時間を延ばす、もしくは町内の他のスポットや店舗への回遊性を高めることは重要かも知れない
- 女性の来訪者が相対的に多く、女性に焦点をあてるマーケティングも重要になる
- リピータになる率は県内在住者の方が県外在住者よりも高く、県内在住者のための定番コースを訴求することも効果的
 - 春の四重奏に来訪→町内の〇〇でいつもの昼ごはん→〇〇を訪問して気分をリフレッシュ→お土産にいつもの〇〇を買って帰る・・・
- 滞在時間は平均で1時間以内であり、周遊先の開発が課題
 - 周遊先の開発は宿泊の増加にもつながると思われる

4. 春の四重奏が来訪者にもたらす便益

春の四重奏が来訪者にもたらす満足

- 春の四重奏は来訪者に対してどれだけの便益をもたらしているのだろうか？
 - 大きな満足を得ることができるならば遠方からの訪問者も増加する
 - 町内での消費額増加も期待できる
- 来訪者の満足度を測る方法
 - アンケート調査で直接尋ねる
 - CVM（仮想評価法）やコンジョイント分析
 - 今回は来訪者の行動をもとに推計する
 - 旅行費用法（Travel Cost Method）を用いて来訪者の来訪者の満足（消費者余剰）を推計する
 - 消費者余剰
 - 来訪者が春の四重奏を訪れる人たちの[お得感]を測る
 - 来訪者は交通費他の費用をかけて春の四重奏を訪れるが、彼らは支払った額以上にどれだけの満足を得ているのか

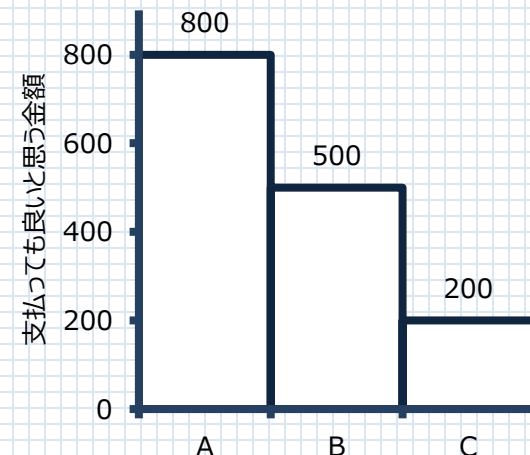
消費者余剰とは

分析で鍵となる消費者余剰の概念を簡単な例で解説する

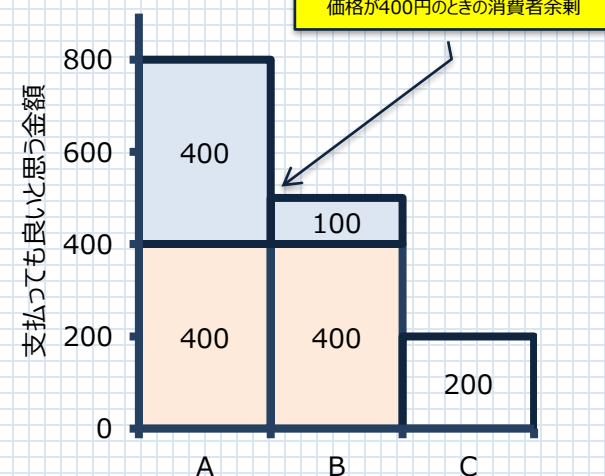
- 消費者余剰：例による解説
 - 今、A、B、Cの3名があり、それぞれのある財（ケーキだとする）に対して支払っても良い最大の金額が右のようになっていたとする。
 - もしもケーキが1つ400円であれば、AとBはケーキを購入する
 - そのとき、Aは400円（=800-400）だけ支払った金額以上に満足を得ている。
 - これを消費者余剰と呼ぶ。
 - ケーキが400円のと看、
 - Aの消費者余剰=800-400=400
 - Bの消費者余剰=500-400=100
 - Cの消費者余剰=0（ケーキを購入しない）
 - すると、400円で販売されているケーキは社会に対して500円（=400+100）の純便益（消費者余剰）を提供している
- 春の四重奏は料金を徴収して観覧してもらっているわけではないが、来訪者は朝日町までの交通費（旅行費用）を支払って訪問している。
 - そこで、地域ごとに旅行費用が異なることに注目して、各地域の旅行費用と訪問者数の関係を調べることで、右の図のような旅行費用と訪問率の関係（需要曲線）を推計する
 - 推計された需要曲線をもとに、各地域の訪問者が得ている消費者余剰を推計して、これを合計することによって、春の四重奏が観光客にもたらしている消費者余剰の合計を計算できる。
 - たとえば右図のような需要を持つ地域が二つあったとして、地域1から朝日町までの交通費用が600円、地域2からの旅行費用が100円だったとすれば、
 - 地域1から朝日町へは1人の訪問者があり、その消費者余剰は200円（=800-600）、地域2からは3人の訪問者があり、その余剰は1200円（=800-100+500-100+200-100）となるので、社会全体では1400円の余剰を創出していることになる。
- 2019年と2021年の居住地別訪問者のデータをもとに春の四重奏の消費者余剰を推計する

説明のための数値例

	A	B	C
払っても良い金額	800円	500円	200円



消費者余剰（概念図）



ZTCMで推計した春の四重奏の価値

- 仮説
 - 消費者は遠距離の旅行を自粛して近場でのレジャーを求めている
 - R3年では、近隣地域ほど訪問者は多い
- ZTCM(Zoon Travel Cost Method)による需要分析
 - ZTCM:都道府県別の訪問費用と訪問率の関係からレクリエーションサイトへの需要や便益を推計
- 推計式
 - $\ln X = \alpha_0 + \alpha_1 \ln P$
 - $\ln X$: = 訪問率（各都道府県における人口10万人あたりの春の四重奏訪問者数）
 - $\ln P$: = 旅行費用（各都道府県県庁所在都市から泊駅までの鉄道運賃）

- 推計結果
 - 旅行費用に関する係数は負で有意（近くの人ほど訪問率は高くなる）
 - 2021年の旅行費用に関する係数（ α_1 ）の推計値（絶対値）は2019年推計値よりも大きい
 - 長距離（旅行費用の上昇）移動を伴う観光を回避する傾向
 - 遠距離観光の抑制と近距離観光へのシフト
 - 推計結果では旅行費用でみて21,500円附近が境界
 - 旅行消費から得られる便益の低下
 - 旅行に高いお金を支払う意思が減少

推計結果（OLSによる）

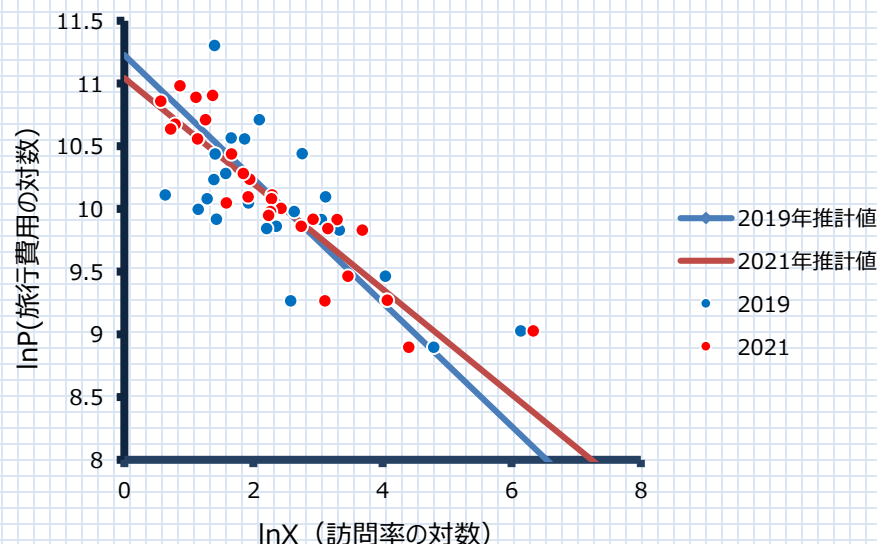
2019

	Coef	Std	t
α_0	22.755	2.734	8.323
$\ln P$	-2.027	0.275	-7.373

2021

	Coef	Std	t
α_0	26.261	1.865	14.078
$\ln P$	-2.378	0.185	-12.844

推計結果に基づく旅行費用と春の四重奏訪問率の関係



Whiteテストで分散不均一性を確認した

消費者余剰の推計

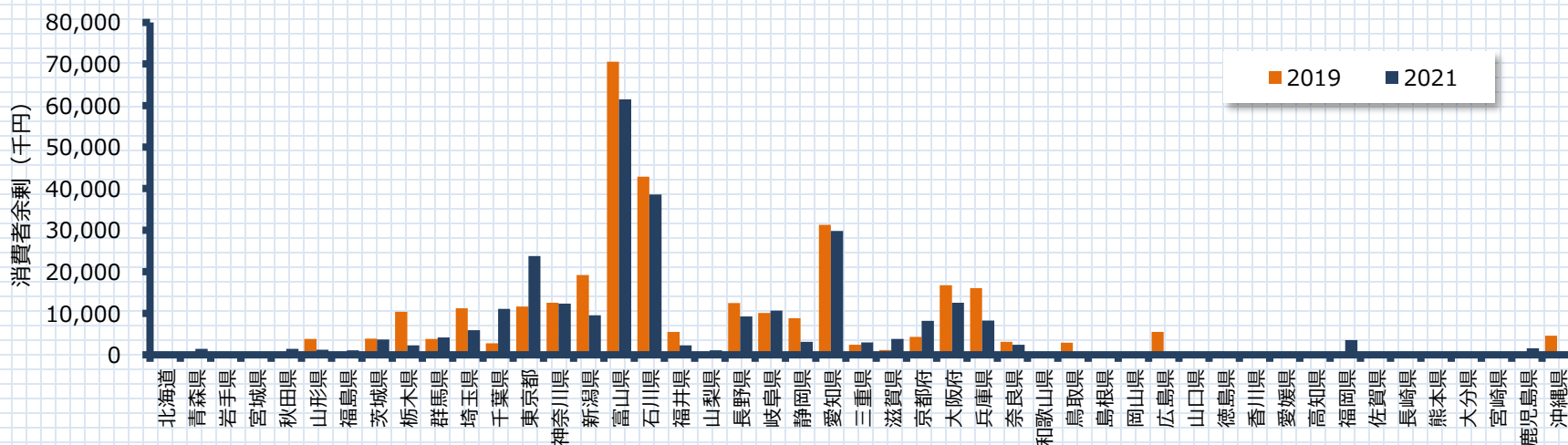
- 訪問需要の推計結果をもとに消費者余剰を推計
 - 都道府県の住民10万人あたりの消費者余剰
 - $cs_i = -\frac{1}{1+\alpha_1} e^{\alpha_0} P_i^{1+\alpha_1}$
 - 人口あたりの消費者余剰に都道府県の人口（10万人単位）を乗じて各都道府県ごとの消費者余剰を推計(方法a)
 - 推計されたパラメーターと実際の訪問者数をもとに消費者余剰を推計（方法b）

春の四重奏がもたらす消費者余剰（千円）

	2019年	2021年
方法a	269,844	234,446
方法b	319,481	279,817

- 春の四重奏の来訪者が得る消費者余剰は2.3～3.2億円
 - 2021年は2019年と比較して約15%程度の減少
 - 来訪者が過去最高を記録したにも関わらず、消費者余剰が減少した理由
 - コロナウイルス感染拡大による長距離移動の回避傾向
 - 観光・旅行から得られる便益の低下
- 消費者余剰は減少しているものの、新型コロナウイルス感染拡大下でのマイクロツーリズム需要に対応できていたと言える

来訪者の居住地別にみた消費者余剰



余剰分析：まとめ

- コロナにより消費者は近場での観光を選択する傾向はTCM分析からも確認できた
 - 近隣からの来訪者が増えることで滞在時間の増加を見込める
 - 滞在時間の増加は町内消費額の増加につながる可能性を持つ
- 様々な目的を持つ来訪者にどのようなサービスを提供すれば満足度が高まるのか
 - 満足度の上昇は口コミやSNS拡散につながり、「訪問者の循環」が太くなるきっかけに
 - 来訪者は春の四重奏を見て何をしたいのか？
 - 心が癒されたい？ 同行者と楽しく会話したい？ 食事？ 写真？
 - それぞれのニーズに合った仕掛けがあるはず

春の四重奏アンケート[2]への回答（春の四重奏であつたらよいと思うもの：商品は除く）

お土産の購入場所がわからない。来たとわかるもの	飲食できるベンチがあつたらよかった。休憩所を多く設けてそこで飲み物を売ってほしい
特にいらない。（富山？）市内は桜と川のみ、山、花とのセットが素晴らしい！	このへんにトイレがあつたら。小さい子供が間に合わない
白馬もいいけど朝日町もすごい！	夜中も使えるトイレ、天の川とりにくる
わからない、駐車場あつたら	何もない方がいい。写真を撮るひとからしたら。
トイレの手洗いがいい！	あつたかいのみもの、たべもの。写真スポットがあれば、人がいると写真が撮れない
わからない、駐車場あつたら	火をつけるのはおそい！！ さつえいするには
写真スポットがあれば、人がいると写真が撮れない	軽食できる場所
	バス待ちで30分かかった

5. 春の四重奏による町内消費

町内での主要費目別消費額

春の四重奏アンケート[2]の結果より、来訪者の消費行動を検討

飲食

今回の旅行で朝日町内での1人あたりの支出額（これから使う予定も含めて）を教えてください

SA	使わない	1,000円未満	1,000円～ 5,000円	5,000円以上	不明・無回答	合計
N	37	37	33	7	5	119
%	31.1%	31.1%	27.7%	5.9%	4.2%	100.0%

土産

今回の旅行で朝日町内での1人あたりの支出額（これから使う予定も含めて）を教えてください

SA	使わない	1,000円未満	1,000円～ 5,000円	5,000円以上	不明・無回答	合計
N	69	10	16	2	22	119
%	58.0%	8.4%	13.4%	1.7%	18.5%	100.0%

ガソリン

今回の旅行で朝日町内での1人あたりの支出額（これから使う予定も含めて）を教えてください

SA	使わない	1,000円未満	1,000円～ 5,000円	5,000円以上	不明・無回答	合計
N	71	0	7	0	41	119
%	59.7%	0.0%	5.9%	0.0%	34.5%	100.0%

資料：朝日町企画財政課「春の四重奏来訪者調査」

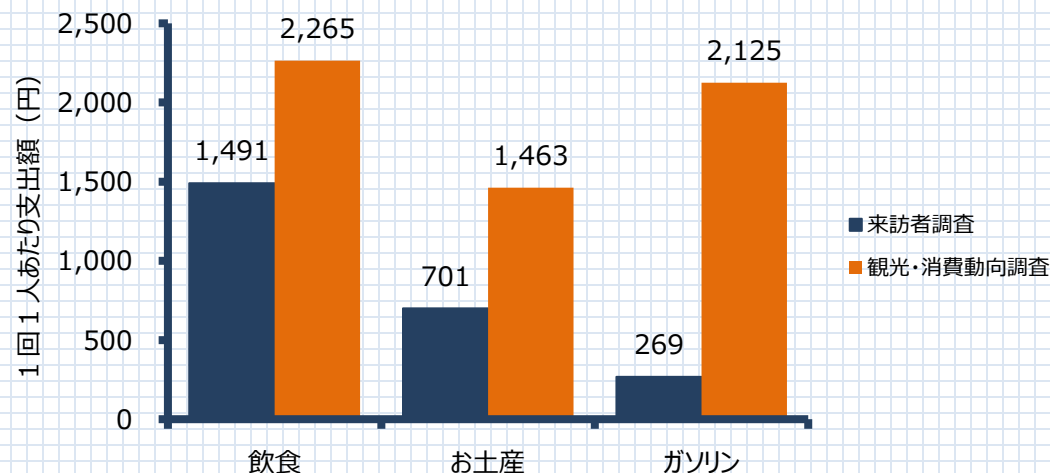
- 回答者の2/3が町内で飲食に対して支出
- 町内でお土産を買う予定の来訪者は1/4に留まる
- 町内で給油する来訪者は少ない

観光・消費動向調査との比較

春の四重奏来訪者が町内で使うお金は多いのだろうか？ それとも少ないのだろうか？

- 観光・消費動向調査（2021年4-6月期）との比較
 - 調査対象が殆ど日帰りなので、観光・レクリエーション目的の日帰り旅行単価と比較
- すべての費目において町内支出額は少ない
 - お土産、ガソリンは特に少ない
- 町内における消費拡大の取り組みが不可欠
 - それだけ伸びしろがある
- 春の四重奏アンケート[2]の結果をもとにクロス集計を行い、特徴を掘り下げる

春の四重奏来訪者の消費支出額と観光消費動向調査における消費支出額の比較



観光・消費動向調査における国内旅行（観光・レクリエーション目的）の消費支出額



資料：朝日町企画財政課「春の四重奏来訪者調査」

- アンケートへの回答において「使わない」と回答した場合は0円、「1,000円未満」の場合は500円、「1,000円～5,000円」の場合は3,000円、「5,000円以上」は7,500円として、無回答者を除いて1人あたり消費支出額を求めた。

年代別にみた支出額

飲食

	SA	使わない	1,000円未満	1,000円～5,000円	5,000円以上	不明・無回答	合計	平均単価 (無回答を除く)
～30代	N	9	20	6	0	2	37	800
	%	24.32%	54.05%	16.22%	0.00%	5.41%	100.00%	
40・50代	N	18	13	13	5	3	52	1,694
	%	34.62%	25.00%	25.00%	9.62%	5.77%	100.00%	
60代以上	N	10	4	10	2	0	26	1,808
	%	38.46%	15.38%	38.46%	7.69%	0.00%	100.00%	

お土産

	SA	使わない	1,000円未満	1,000円～5,000円	5,000円以上	不明・無回答	合計	平均単価 (無回答を除く)
～30代	N	22	2	4	0	9	37	464
	%	59.46%	5.41%	10.81%	0.00%	24.32%	100.00%	
40・50代	N	26	8	10	0	8	52	773
	%	50.00%	15.38%	19.23%	0.00%	15.38%	100.00%	
60代以上	N	19	0	2	2	3	26	913
	%	73.08%	0.00%	7.69%	7.69%	11.54%	100.00%	

ガソリン

	SA	使わない	1,000円未満	1,000円～5,000円	5,000円以上	不明・無回答	合計	平均単価 (無回答を除く)
～30代	N	22	2	4	0	9	37	464
	%	59.46%	5.41%	10.81%	0.00%	24.32%	100.00%	
40・50代	N	34	0	2	0	16	52	167
	%	65.38%	0.00%	3.85%	0.00%	30.77%	100.00%	
60代以上	N	18	0	1	0	7	26	158
	%	69.23%	0.00%	3.85%	0.00%	26.92%	100.00%	

- 飲食，お土産については来訪者の年代が高いほど平均単価も高くなる
 - 特に飲食では40代以上の平均単価は30代までの2倍
- ただし，～30代の若年層の飲食支出者の比率は他の年代よりも高い
 - 単価は低いが購買者割合は高い
- いずれの費目についても，世代が上昇するにつれて「使わない」との回答者割合が増加する
 - 購買層と非購買層の分化が進む

居住地別に見た消費支出額

飲食

	SA	使わない	1,000円未満	1,000円～5,000円	5,000円以上	不明・無回答	合計	平均単価 (無回答を除く)
県外来訪者	N	11	15	11	2	5	44	1,423
	%	25.00%	34.09%	25.00%	4.55%	11.36%	100.00%	
県内来訪者	N	26	22	22	5	0	75	1,527
	%	34.67%	29.33%	29.33%	6.67%	0.00%	100.00%	

お土産

	SA	使わない	1,000円未満	1,000円～5,000円	5,000円以上	不明・無回答	合計	平均単価 (無回答を除く)
県外来訪者	N	22	2	11	2	7	44	1,324
	%	50.00%	4.55%	25.00%	4.55%	15.91%	100.00%	
県内来訪者	N	47	8	5	0	15	75	317
	%	62.67%	10.67%	6.67%	0.00%	20.00%	100.00%	

ガソリン

	SA	使わない	1,000円未満	1,000円～5,000円	5,000円以上	不明・無回答	合計	平均単価 (無回答を除く)
県外来訪者	N	22	0	6	0	16	44	643
	%	50.00%	0.00%	13.64%	0.00%	36.36%	100.00%	
県内来訪者	N	49	0	1	0	25	75	60
	%	65.33%	0.00%	1.33%	0.00%	33.33%	100.00%	

資料：朝日町企画財政課「春の四重奏来訪者調査」

- 飲食は県外・県内居住者間で大きな支出額の差はない。
 - ただし、「使わない」と回答した人の割合は県内居住者においてやや高い
- お土産については、県外居住者の平均単価が県内居住者よりも高い
 - 無回答も含めて約1/3の来訪者がお土産を購入
- ガソリンは県外居住者の方が購入頻度、購入単価とも県内居住者よりも高い

ここで売っていると良いと思うもの（自由記述）

- 暖かい飲み物への要望が目立つ
 - 売上を確保するためと言うより、サイトにおけるサービスとして考える方が良い
- お土産も四重奏現地で販売しているとは思いますが、十分に周知されていないのかもしれない
 - 機会損失が発生している可能性

朝日町産のお土産箱	おにぎり 持ち歩きながら食べられるもの
朝日町産の食べ物, ここでしか食べられないモノ	弁当, 麺類
お土産の購入場所がわからない. 来たとわかるもの	屋台のたこやき
朝日町ならではの食べ物 がもっとあれば良い	ショーガのおにぎりがおいしかった.
お土産品 (四重奏にちなんだ饅頭)	リーズナブルな弁当
球根, ポストカード	ソフトクリーム (子供が欲しがりそうなもの)
四重奏の写真 (夜景, 昼のやつも)	フライドポテト (一昨年あった)
切り花 (やっている). たら汁ふるまい	あったかいのみもの, たべもの
チューリップ花	もうちょっと屋台あったら, 四重奏カラーのデザート, バエル!
地元のおすすめ	カバンの中に入る食べ物 (歩きながら食べたい)
あったかいのみもの, たべもの, トイレ	簡単につまめるもの (一口サイズ) !
飲み物	子供が好きそうなもの
飲み物 自販機でも良いのでところどころにあったらよい	ちくちの弁当が売り切れ (もっと量を増やしてくれ) 屋台が復活してほしい
飲み物 周回コースの所々で販売してほしい	自販機があれば, トイレの手洗いがいい!
飲み物!	バタバタ茶のふるまい
何か温かい飲み物	ホットコーヒー あったかい飲み物
ホットコーヒー, 軽食できる場所	サービスエリアにあるようなものが多種あったらよい

事業所調査から見た春の四重奏の経済効果

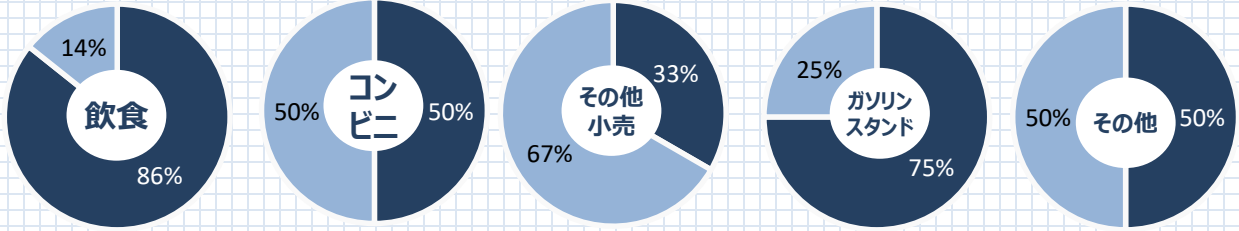
- 飲食, GSで影響があったとの回答が多い.
- 飲食については来訪者調査の結果と整合的
 - 7事業者中6事業者が売り上げ増と回答

春の四重奏期間中は平時と比べて来店客数は何%程度変化しますか

客数

	減少	効果なし・未回答	1%~25%	26%~50%	51%~75%	76%~100%	100%超	合計
N	0	7	8	4	0	0	1	20
%	0.0%	35.0%	40.0%	20.0%	0.0%	0.0%	5.0%	100.0%

業種別に見て客数が増えたと回答した事業者の割合 (■)



平時と比べてどの客層が増えますか

客層

MA	若者グループ	若年カップル	ファミリー層	シニア層	特に傾向なし	未回答
N	1	2	6	10	2	1

春の四重奏期間中は平時と比べて売り上げは何%程度変化しますか

売上

	減少	効果なし・未回答	1%~25%	26%~50%	51%~75%	76%~100%	100%超	合計
N	0	9	7	3	0	0	1	20
%	0.0%	45.0%	35.0%	15.0%	0.0%	0.0%	5.0%	100.0%

春の四重奏期間中は平時と比べ仕入を増やしていますか

仕入

	変化なし・未回答	1%~25%	26%~50%	51%~75%	76%~100%	100%超	合計
N	9	7	3	0	0	1	20
%	45.0%	35.0%	15.0%	0.0%	0.0%	5.0%	100.0%

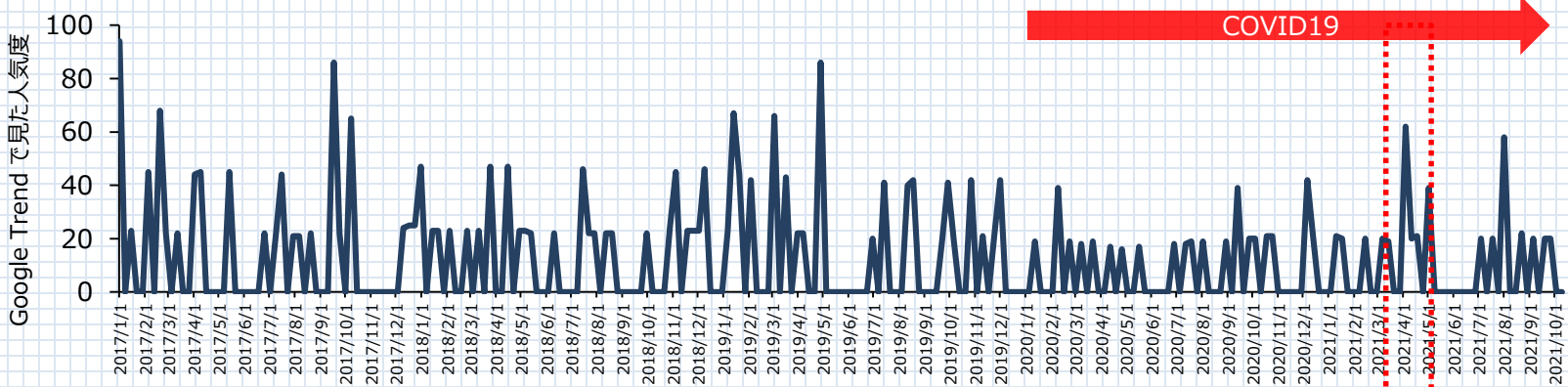
資料：朝日町企画財政課「春の四重奏関連事業所調査」

町内飲食店・施設等の注目度(1)

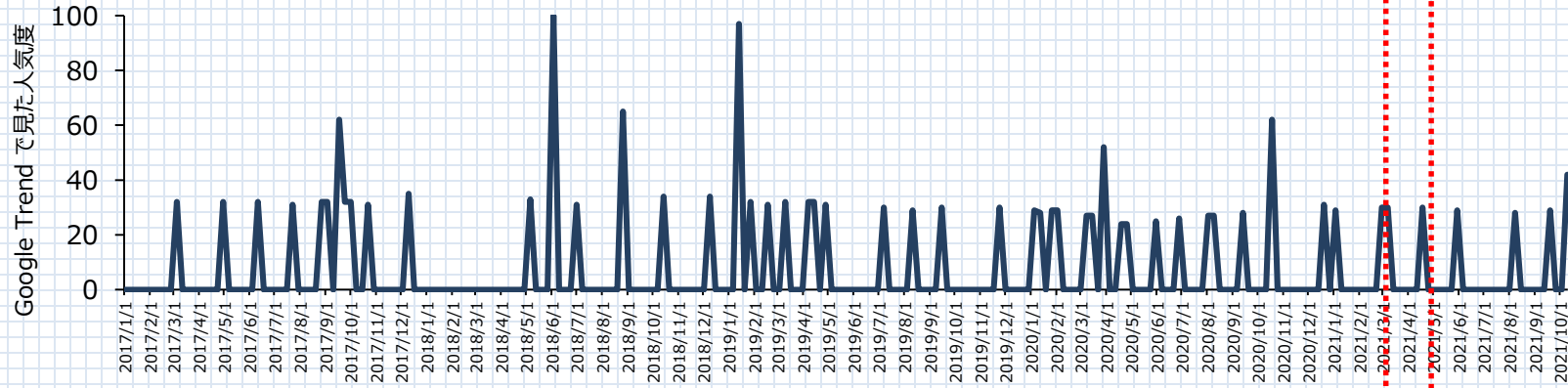
■ 春の四重奏関連と思われる注目度（検索）増加もある

● 「栄食堂」「ヒスイテラス」（次頁）等

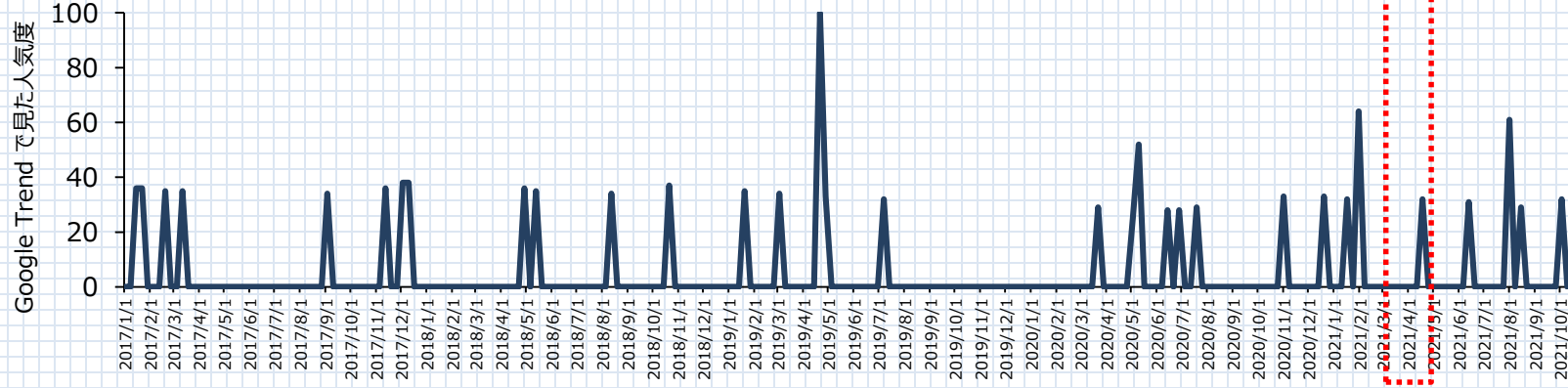
栄食堂



きんかい



グリル松

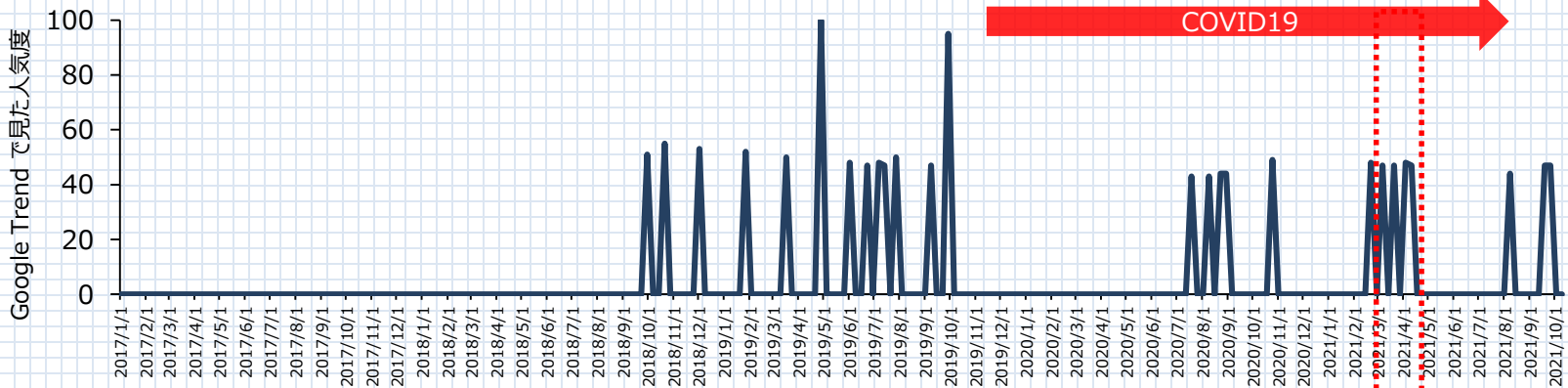


資料：Google Trend

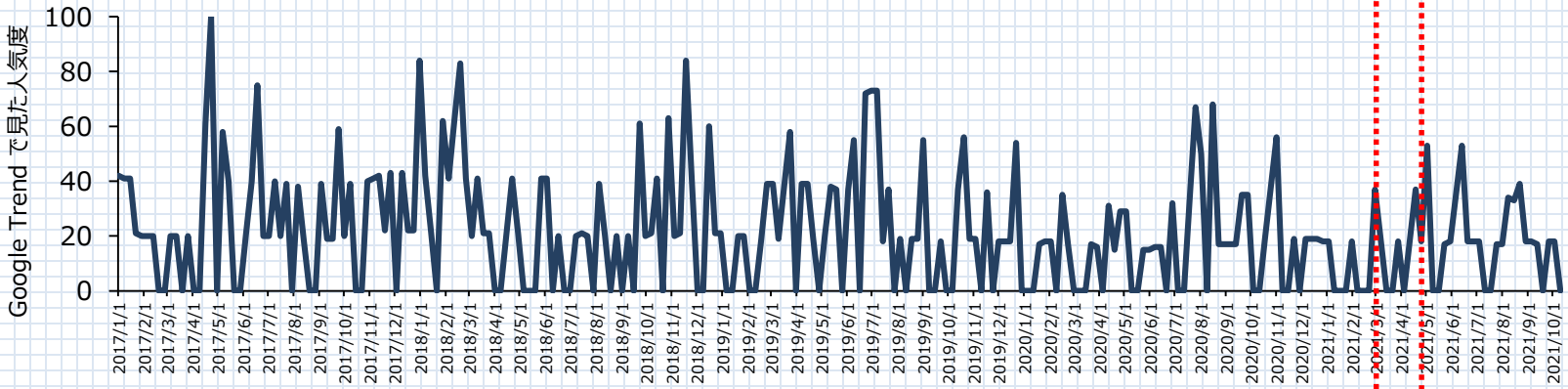
町内飲食店・施設等の注目度(2)

- ・ ヒスイテラスについては4月～GWにかけて注目度が上昇している。
- ・ 小川温泉は長期的に注目度が低下するトレンド
- ・ オートキャンプ場は2021年度に入って注目度が高まっている

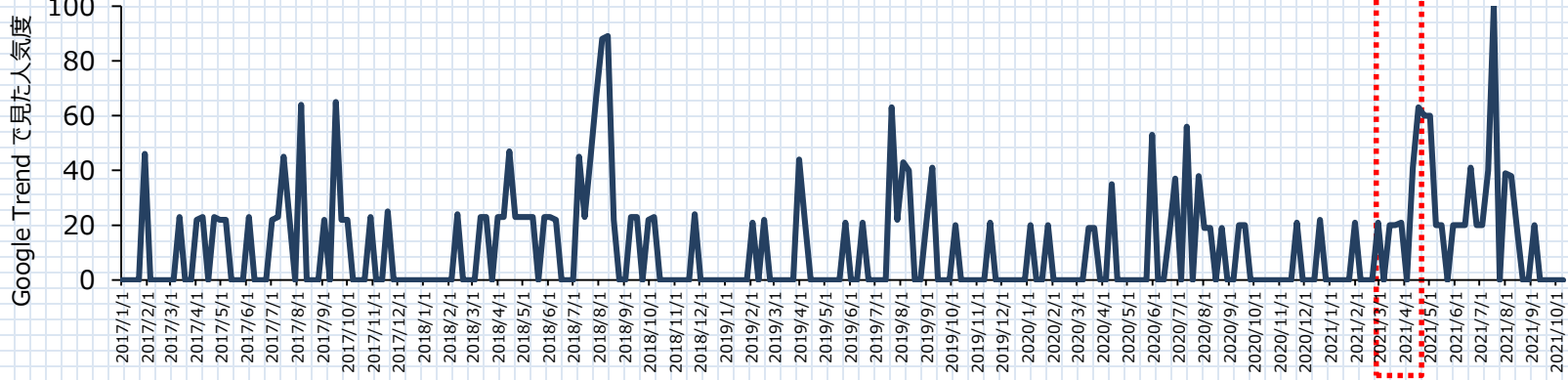
ヒスイテラス



ホテルおがわ



ヒスイ海岸
オートキャンプ場



資料 : Google Trend

アンケート調査の結果より

- 春の四重奏の期間中，町内の事業者には一定の消費需要が発生していることは，春の四重奏アンケート調査[2]，事業所調査，google trend による注目度調査からも確認できる
- ただし，町内消費額には増加の余地が大きい
 - 飲食において若年層は購買者割合は高いので，単価を少しでも高める工夫ができれば消費額の増加にも寄与できる
 - 観光・消費動向調査と比較すれば，県内居住者については飲食を中心とした訴求，県外居住者については飲食，土産とも拡大の余地があると思われる。
 - 春の四重奏アンケート[2]の自由記述欄にもお土産を求める回答あり
 - 情報提供による回遊性向上，短時間滞在客のためのワンストップ型の購買機会提供の双方が重要
 - 県内居住者についても（自分用の）お土産には拡販余地があるかもしれない
- 年代が上昇するにつれて購買行動が二分化する傾向の理由を調査する必要
 - シニア層は町内からの来訪者が多いだけか？ それとも別の理由？
- 2021夏シーズンにおけるヒスイ海岸オートキャンプ場の注目度上昇はコロナ禍の影響か？
 - コロナ後の行動変容を示唆するとも考えられる

6 ■ 観光資源がもたらす経済効果

観光資源がもたらす経済効果

- 2021年度に過去最高を記録した「春の四重奏」入り込み客は町内経済にどれだけの効果を与えたのか？
- **産業連関表**を用いて推計
 - 本研究のために富山県産業連関表（平成27年）をベースにした「平成7年富山県市町村間産業連関表」をノン・サーベイ法により作成
 - 富山県産業連関表（県表）の産出額や最終需要額を経済センサスや各種統計をもとに15市町村に分割したうえで市町村間取引をGravity RAS法で推計
 - 各市町村187内生部門から構成（実際の分析にはこれを集約した表を用いる）
 - 今回は各市町村18部門（通常の「ひな型」13部門表の「製造業」から「食料品」「飲料」を分離、「サービス業」から「飲食サービス」「宿泊」を分離、「商業」を「卸売」と「小売」に分割）を用いて分析
- **産業連関表で推計される経済効果**
 - 今回はアンケート調査[1]の回答をもとに「飲食サービス」、「お土産」、「宿泊」について推計
 - 観光客入り込み→町内で飲食や宿泊需要の発生→需要を満たすためにサービスが供給→そのサービスを賄うために他産業の財・サービスに需要が発生→…….
 - 生産誘発効果
 - 春の四重奏での来訪者の消費が町内の各産業にどれだけの生産をもたらしたのか？
 - 付加価値誘発効果
 - その生産増によって町内でどれだけの付加価値（所得）が生み出されたのか？

富山県市町村間産業連関表

- 朝日町のブロックだけを抜き出して、県内他市町村をひとつに集約したもの
 - 実際には同様の表が15枚連結されている

(単位：100万円)

	農林水産業	鉱業	製造業 (食料品と飲料を除く)	食料品	飲料	建設	電力・ガス・水道	卸売業	小売業	金融・保険	不動産	運輸・郵便	情報通信	公務	サービス (宿泊業と飲食サービス業を除く)	宿泊業	飲食サービス業	分類不明	県内他市町村	最終需要 朝日町	最終需要 県内他市町村	県外への 移輸出	県外からの 移輸入	市町村内 生産額
農林水産業	70	0	47	71	36	6	0	0	1	0	0	0	0	0	27	14	32	0	542	283	131	877	(414)	1,723
鉱業	0	0	20	0	1	2	618	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(0)	0	0	(1)	0	0	(640)	0
製造業 (食料品と飲料を除く)	209	0	4,541	13	589	1,051	196	12	77	16	9	345	1	105	1,668	33	23	14	1,363	4,858	547	13,217	(13,313)	15,575
食料品	1	0	1	51	415	0	0	0	0	0	0	0	0	1	71	47	170	0	51	1,643	59	261	(2,351)	420
飲料	1	0	0	1	279	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	26	84	1	138	438	323	2,671	(774)	3,197
建設	2	0	24	0	0	1	61	1	4	1	28	6	0	15	15	1	1	0	572	1,123	3,721	0	0	5,576
電力・ガス・水道	6	0	109	2	10	17	345	2	41	3	6	15	0	101	129	61	26	4	3,260	336	1,134	1,169	(89)	6,686
卸売業	30	0	299	11	136	136	27	3	10	2	1	24	0	8	230	20	47	1	238	528	107	241	(1,398)	702
小売業	32	0	40	0	2	12	3	1	5	1	2	25	0	7	45	11	26	0	212	1,863	1,396	756	(1,430)	3,010
金融・保険	2	0	31	0	2	17	37	3	10	16	116	4	0	16	33	6	1	0	557	70	86	13	(88)	934
不動産	1	0	14	1	1	6	16	8	20	6	30	12	0	1	71	4	4	3	452	1,888	4,326	0	(49)	6,816
運輸・郵便	32	0	193	6	52	115	88	18	45	14	4	90	0	52	138	61	17	17	988	717	240	605	(1,246)	2,246
情報通信	2	0	43	1	6	12	35	4	29	14	2	6	0	33	87	9	3	2	5	340	8	4	(624)	20
公務	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24	87	1,009	2,285	0	0	3,405
サービス (宿泊業と飲食サービス業を除く)	32	0	248	9	54	253	403	19	139	53	41	114	2	127	439	18	22	5	1,588	4,467	8,594	282	(1,960)	14,950
宿泊業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	242	311	705	(175)	1,083
飲食サービス業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	6	3	0	13	702	758	118	(396)	1,211
分類不明	3	0	12	1	0	17	10	1	6	1	1	4	0	1	18	1	0	0	246	0	0	0	(2)	321
県内他市町村	408	0	2,728	108	600	1,309	1,634	105	551	184	601	507	4	586	2,011	329	263	107	0	27,982	4,587,409	3,650,770	(3,269,036)	9,199,276
粗付加価値部門計	892	0	7,226	144	1,014	2,622	3,213	526	2,071	624	5,975	1,095	13	2,350	9,951	436	489	142	4,999,739					
生産額	1,723	0	15,575	420	3,197	5,576	6,686	702	3,010	934	6,816	2,246	20	3,405	14,950	1,083	1,211	321	9,200,999					

富山県市町村間産業連関表（ひな型）

- 富山県市町村間産業連関表で推計された市町村間取引
 - 実際には各市町村に187産業が設けられている

(単位：10億円)

	中間需要														中間 需要計	最終需要														市町村内 生産額						
	富山 市	高岡 市	魚津 市	氷見 市	滑川 市	黒部 市	砺波 市	小矢 部市	南砺 市	射水 市	舟橋 村	上市 町	立山 町	入善 町		朝日 町	富山 市	高岡 市	魚津 市	氷見 市	滑川 市	黒部 市	砺波 市	小矢 部市	南砺 市	射水 市	舟橋 村	上市 町	立山 町		入善 町	朝日 町	県内 需要	移輸 出	移輸入	
富山市	1,472	74	21	15	33	36	20	9	23	70	2	17	29	8	4	1,834	1,505	125	34	29	47	51	32	12	32	114	7	21	64	12	8	3,925	1,477	(1,348)	4,054	
高岡市	67	446	2	12	2	5	11	15	27	19	0	1	1	1	0	609	114	435	3	29	3	5	18	26	43	26	0	1	1	1	1	1,314	484	(480)	1,317	
魚津市	13	1	86	1	4	0	0	0	0	1	0	18	0	1	0	126	30	3	93	1	8	0	1	0	1	1	0	37	1	1	1	304	105	(108)	301	
氷見市	11	10	1	76	1	2	1	1	1	5	0	0	0	0	0	109	20	21	1	90	1	2	2	2	2	7	0	0	0	1	0	259	98	(100)	257	
滑川市	18	1	3	0	111	3	0	0	0	1	0	2	1	1	0	141	31	2	6	1	66	5	0	0	0	1	0	2	1	1	0	257	191	(126)	322	
黒部市	26	3	0	1	4	137	1	1	1	2	0	1	1	8	3	190	33	4	0	2	5	131	1	1	1	2	0	1	1	20	7	400	176	(150)	426	
砺波市	15	8	0	1	1	1	129	5	9	5	0	0	0	0	0	174	28	18	1	3	1	1	116	10	16	10	0	0	1	0	0	378	164	(146)	396	
小矢部市	7	11	0	1	0	1	5	70	6	3	0	0	0	0	0	106	10	23	0	2	0	1	9	53	9	3	0	0	0	0	0	217	96	(86)	227	
南砺市	15	21	0	1	1	1	8	6	157	3	0	0	0	0	0	215	25	37	1	3	1	2	14	9	107	5	0	0	1	0	0	421	216	(176)	460	
射水市	67	20	1	11	2	5	7	3	5	343	0	1	1	3	0	472	94	23	1	9	1	3	9	3	6	237	0	1	1	1	0	862	371	(336)	897	
舟橋村	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	14	5	(6)	13	
上市町	9	0	13	0	1	1	0	0	0	0	0	49	1	0	0	76	16	0	32	0	2	1	0	0	0	1	0	24	3	0	0	155	113	(70)	198	
立山町	21	1	0	0	1	1	0	0	0	1	0	2	45	0	0	74	43	1	1	0	1	1	0	0	0	1	1	2	27	0	0	153	74	(68)	160	
入善町	3	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	56	3	72	4	0	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	55	10	157	83	(69)	171	
朝日町	2	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	4	17	27	4	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	12	21	72	21	(25)	68	
中間投入計	1,747	597	129	122	163	204	184	111	231	453	5	91	82	82	29																				9,267	
粗付加価値	2,307	721	172	134	159	222	212	116	229	444	8	108	78	88	39																					
市町村内 生産額	4,054	1,317	301	257	322	426	396	227	460	897	13	198	160	171	68	9,267																				

- 市町村間取引で見れば朝日町は富山市，黒部市，入善町との関係が深い

最終需要の設定

■ 春の四重奏により町内で発生した需要（飲食，お土産，宿泊）の額を設定

- 春の四重奏で創出された町内最終需要額の設定
- 飲食サービス
 - 来訪者アンケート[1]における1人あたり支出額（1,491円）をもとに，春の四重奏期間中の来訪者支出総額を7,450万円と設定
 - すべてが飲食店で消費と仮定
- お土産
 - 来訪者アンケート[1]における1人あたり支出額（701円）をもとに，春の四重奏期間中の来訪者支出総額を3,502万円と設定
 - すべてが食料品に支出されると仮定
- 宿泊
 - 来訪者アンケート[1]において春の四重奏来訪者の1.7%が町内でホテル・旅館に宿泊しているため，町内宿泊者は1泊すると仮定して，『旅行・観光消費動向調査』令和3年4月の統計より，1人あたり宿泊費を22,382円と設定し，春の四重奏来訪者支出総額を1,901万円と設定

	飲食	お土産	宿泊
金額（円）	74,499,306	35,026,166	19,011,763
対応する部門	飲食サービス業	食料品	宿泊

- 試算の前提
 - 飲食サービス，宿泊は来訪者が消費するサービスはすべて町内で需要されるものとする。
 - お土産は，市町村間産業連関表の朝日町民の最終消費支出に準じて，県内他市町村，県外や国外から移輸入されるものとする。
 - お土産は購入者価格を生産者価格に変換の上，各部門に需要を与える

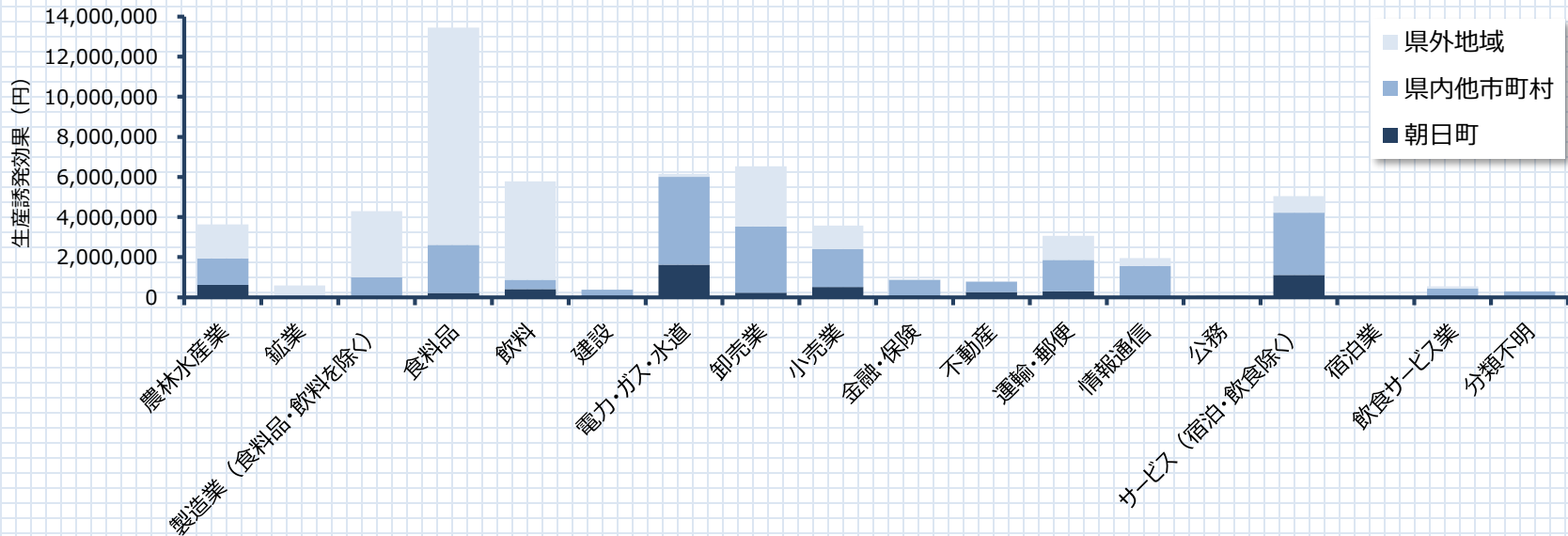
春の四重奏による生産誘発効果（飲食）



- 飲食サービスによる生産誘発効果（町内）は8,014万円
 - 産業別では食料品がほぼ町外からの調達となっている



産業別にみた波及効果（直接効果を除く）



春の四重奏による生産誘発効果（飲食サービス）

春の四重奏による町内生産誘発効果（飲食サービス）

単位：円

農林水産業	611,506
鉱業	(0)
製造業（食料品と飲料を除く）	67,535
食料品	215,045
飲料	408,710
建設	72,357
電力・ガス・水道	1,617,837
卸売業	230,686
小売業	513,731
金融・保険	91,963
不動産	251,039
運輸・郵便	306,392
情報通信	1,528
公務	6,978
サービス（宿泊業と飲食サービス業を除く）	1,119,534
宿泊業	0
飲食サービス業	74,579,096
分類不明	41,530
町内生産誘発額計	80,135,467
県内他市町村生産誘発額	23,203,907
県外からの移輸入額	28,165,881
合計	131,505,255

春の四重奏による付加価値誘発効果（飲食サービス）

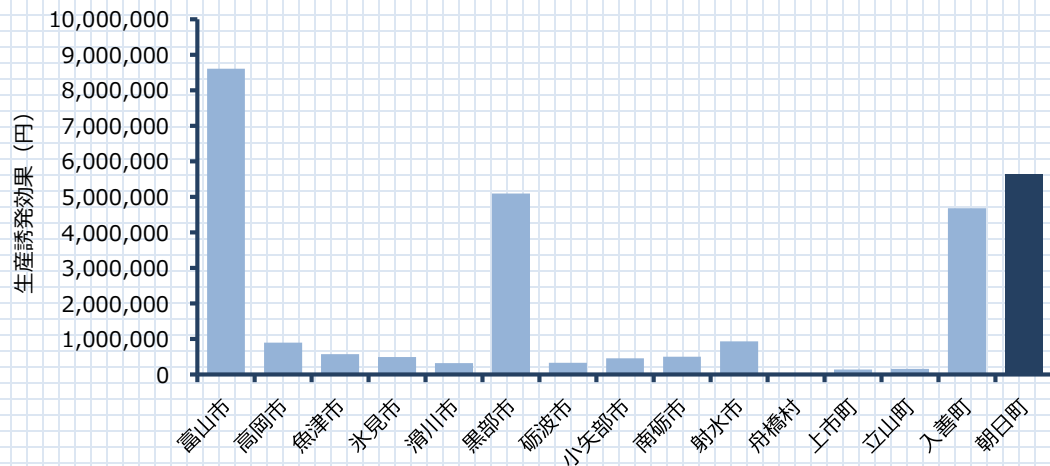
単位：円

町内付加価値誘発額	33,207,299
（うち賃金・俸給）	(19,944,721)
県内他市町村付加価値誘発額	13,126,125
合計	46,333,425

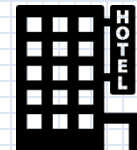
分析結果

- 春の四重奏における町内飲食サービスへの需要は町内の生産を約8,014万円誘発
 - 県内他市町村への波及効果は2,320万円，県外への波及効果は2,810万円
- 間接的な波及効果は，朝日町その他，富山市，黒部市，入善町において大きい
- 町内生産誘発額によってもたらされた町内付加価値額（属地ベース）は3,321万円
 - そのうち，1,945万円は賃金・報酬の増加

県内市町村別にみた生産波及効果（直接効果を除く）



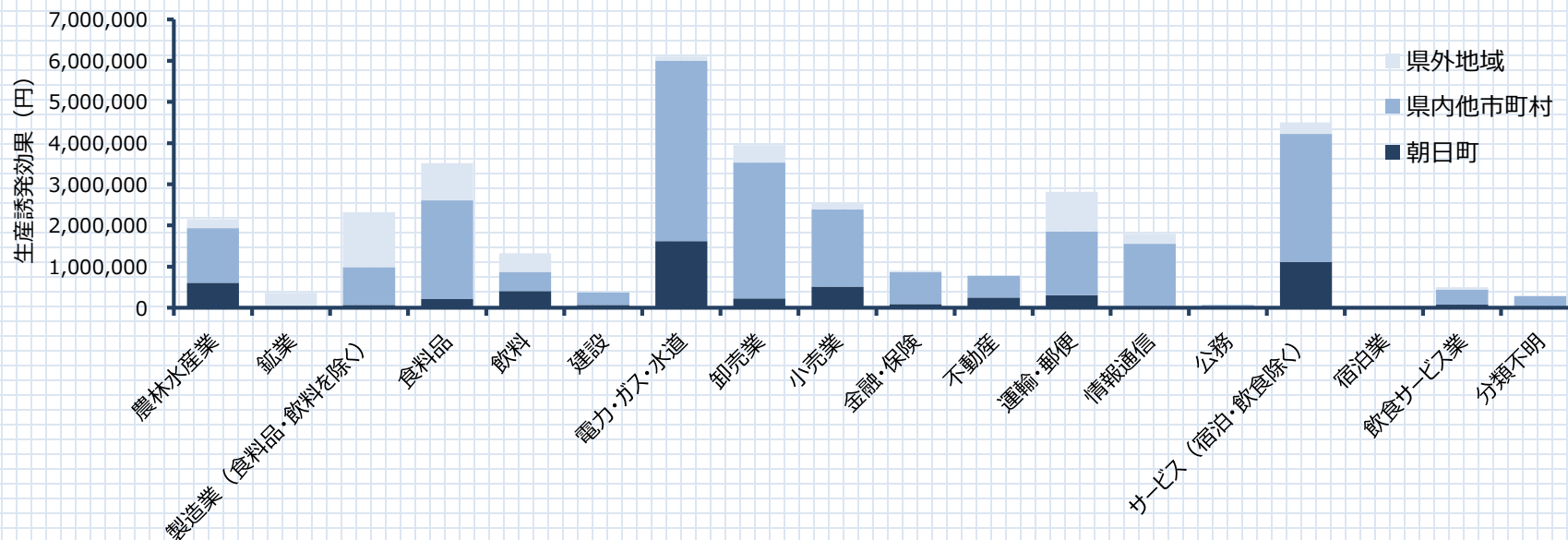
春の四重奏による生産誘発効果（宿泊）



- 飲食サービスによる生産誘発効果（町内）は2,123万円
 - 産業別では食料品がほぼ町外からの調達となっている



産業別にみた波及効果（直接効果を除く）



春の四重奏による生産誘発効果（宿泊）

春の四重奏による生産誘発効果（宿泊）

単位：円

農林水産業	78,089
鉱業	0
製造業（食料品と飲料を除く）	26,731
食料品	17,357
飲料	36,645
建設	35,312
電力・ガス・水道	1,089,956
卸売業	29,579
小売業	63,968
金融・保険	92,442
不動産	78,450
運輸・郵便	284,956
情報通信	1,228
公務	2,575
サービス（宿泊業と飲食サービス業を除く）	320,727
宿泊業	19,011,763
飲食サービス業	46,840
分類不明	14,876
町内生産誘発額計	21,231,494
県内他市町村生産誘発額	8,580,364
県外からの移輸入額	5,478,903
合計	35,290,762

春の四重奏による付加価値誘発効果（宿泊）

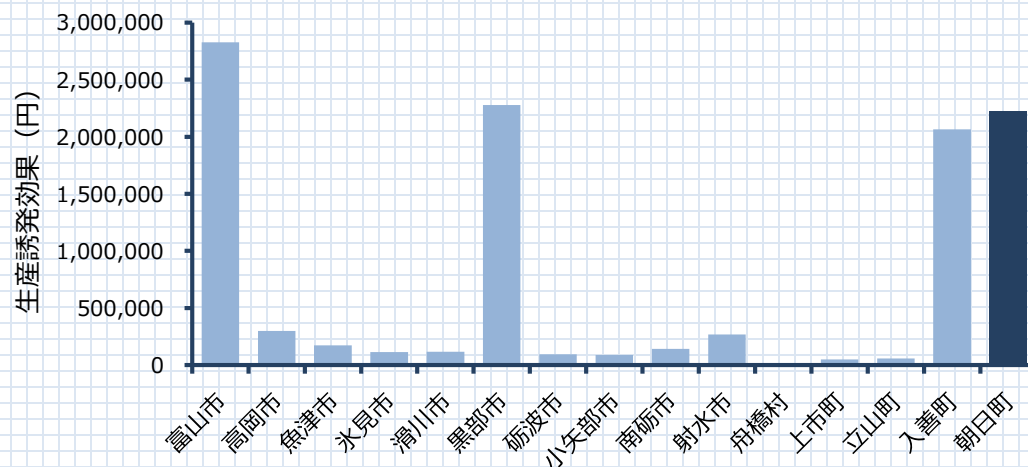
単位：円

町内付加価値誘発額	8,834,686
（うち賃金・俸給）	（4,344,530）
県内他市町村付加価値誘発額	4,698,174
合計	13,532,860

分析結果

- 春の四重奏における宿泊サービスへの需要は町内の生産を約2,123万円誘発
- 県内他市町村への波及効果は858万円、県外への波及効果は548万円
- 町内生産誘発額によってもたらされた町内付加価値額（属地ベース）は884万円
 - うち、賃金・俸給は435万円

県内市町村別にみた生産波及効果（直接効果を除く）



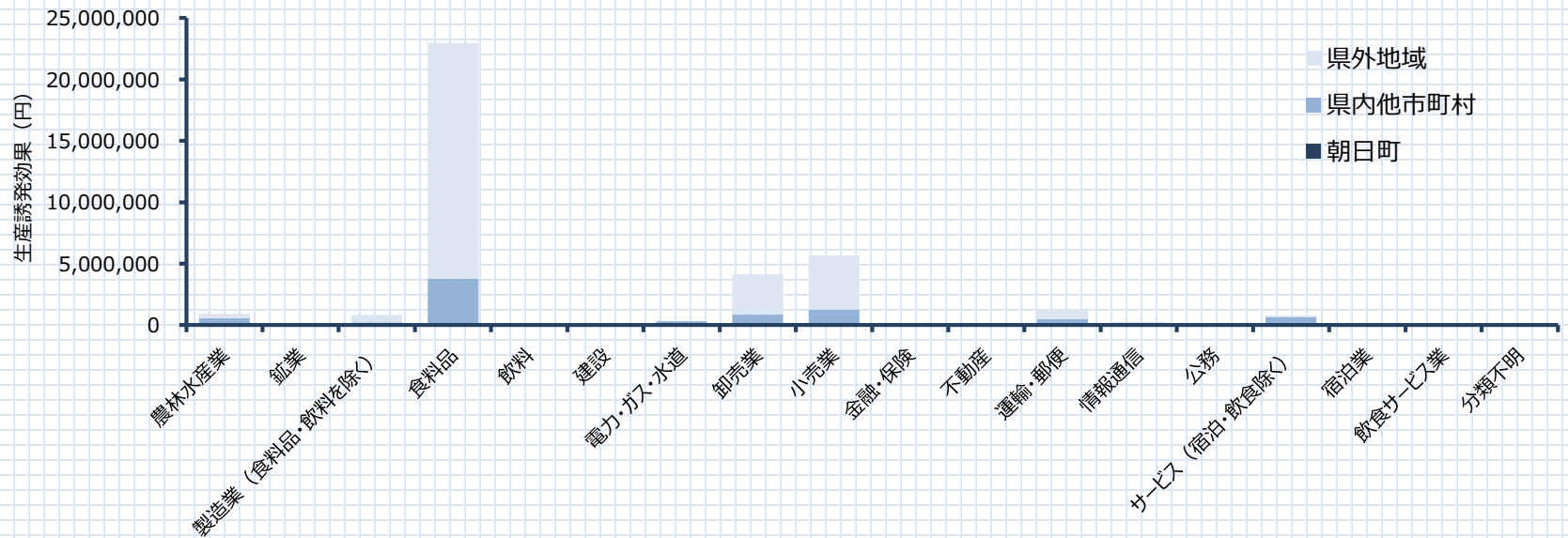
春の四重奏による生産誘発効果（土産）



- 飲食サービスによる生産誘発効果（町内）は2,123万円
 - 産業別では食料品がほぼ町外からの調達となっている
 - 土産品が町内で生産されているならば直接効果，波及効果とも大きくなる



産業別にみた波及効果（直接効果を除く）



春の四重奏による生産誘発効果（土産）

春の四重奏による生産誘発効果（土産）

単位：円

農林水産業	30,406
鉱業	(0)
製造業（食料品と飲料を除く）	5,718
食料品	384,033
飲料	283
建設	5,756
電力・ガス・水道	40,872
卸売業	258,030
小売業	1,982,276
金融・保険	9,589
不動産	22,334
運輸・郵便	228,090
情報通信	192
公務	1,176
サービス（宿泊業と飲食サービス業を除く）	95,738
宿泊業	0
飲食サービス業	39
分類不明	6,625
町内生産誘発額計	3,071,157
県内他市町村生産誘発額	8,473,989
県外からの移輸入額	28,844,556
合計	40,389,702

春の四重奏による付加価値誘発効果（土産）

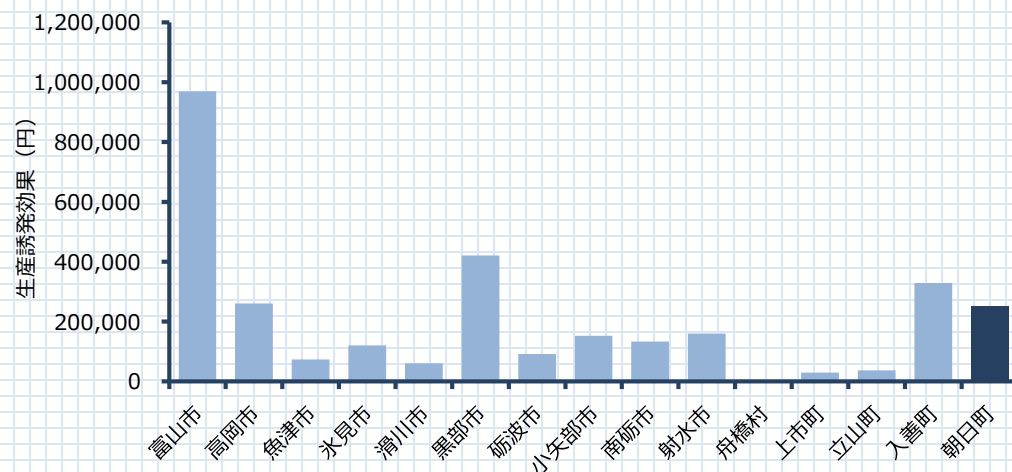
単位：円

町内付加価値誘発額	1,934,213
（うち賃金・俸給）	(977,721)
県内他市町村付加価値誘発額	4,247,397
合計	6,181,610

分析結果

- お土産の町内生産誘発額は小さい（307万円）
 - 食料品の町内自給率が低いことが原因（商業マージンや運輸マージン分しか町内に残らない）
- お土産購入によって町内にもたらされる付加価値は193万円
 - 賃金俸給は98万円
- 注意
 - 試算は町民の消費支出と同じパターンでお土産（食料品）が消費されたときの波及効果であり、観光目的でのお土産購入とは商品内容が異なる
 - 別途、潜在効果として推計

県内市町村別にみた生産波及効果（直接効果を除く）

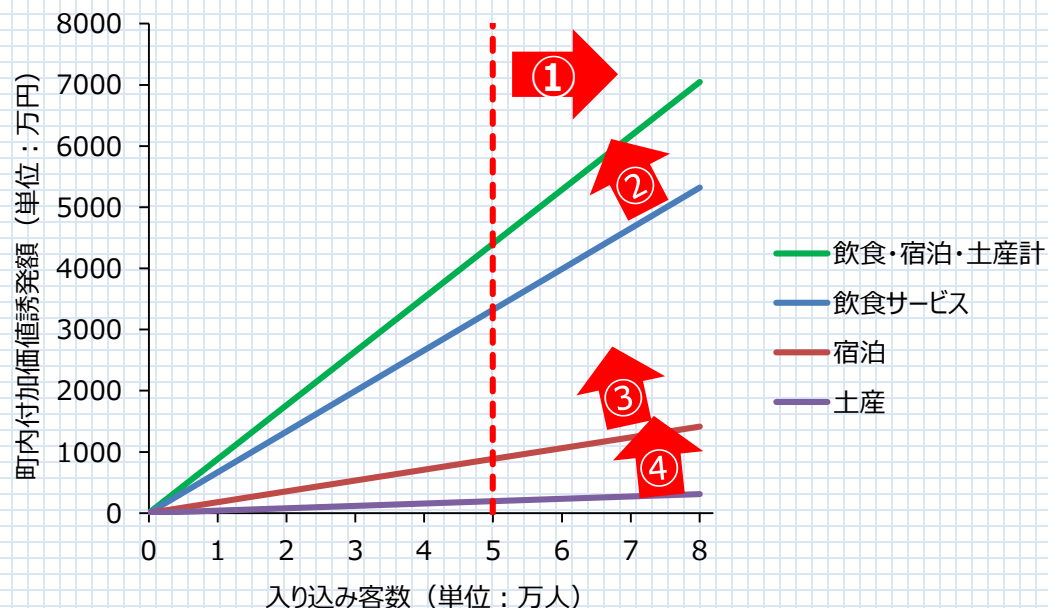


観光消費拡大策の効果とあり方

- 生産波及効果（飲食・宿泊）より、春の四重奏によって町内で発生する付加価値は4,398万円と推計

$$\text{付加価値誘発額} = 3,321 \text{（飲食）} + 193 \text{（土産）} + 884 \text{（宿泊）} = 4,398 \text{（万円）}$$

- 入込客1人あたり、880円の付加価値（飲食665円、土産39円、宿泊177円）が町内で発生
- 今後の方向性
 - ①入り込み客数の増加
 - ②町内での飲食者数の増加と飲食単価の上昇
 - ③町内宿泊者数の増加と宿泊単価の上昇
 - ④土産の町内自給率の向上



Caution

- 過大推計に関するバイアス
 - 属地ベースと属人ベースの付加価値は異なるので、発生した付加価値が町民の所得になるとは限らない
- 過小推計に関するバイアス
 - コロナ禍で実施したアンケート調査に基づいて原単位を推計しているので、飲食・宿泊者の割合を平時よりも低く設定している可能性がある
- 入り込み客数についてはコロナ禍によって上振れと下振れの双方の可能性がある

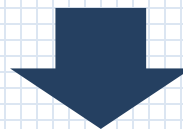
潜在的な経済波及効果

■春の四重奏による町内消費が十分に拡大（観光消費動向調査の水準）し、町内での財・サービスの生産基盤が整えば、経済効果はどの程度拡大するのだろうか？

- 産業連関分析から春の四重奏来訪者に対していくつかの課題が示唆される
 - 飲食サービス支出における単価の低さ
 - 町内宿泊客の少なさ
 - お土産の自給率
 - これらの問題が改善されれば春の四重奏は町内にどれだけの経済効果をもたらすのか？
- そこで考えられる最大限の効果を想定して波及効果を考える
 - 飲食サービスについては観光消費動向調査の平均単価まで上昇
 - 宿泊者がすべて町内で宿泊
 - 町内宿泊者率が6.72%まで上昇
 - 来訪者が購入するお土産（食料品）はすべて町内で生産されるとともに単価も観光消費動向調査の平均単価まで上昇
 - ただし、原材料等は町外からの調達もあり得る

現実
経済効果

	飲食	お土産	宿泊
金額（円）	74,499,306	35,026,166	19,011,763



潜在的
経済効果

	飲食	お土産	宿泊
金額（円）	113,172,990	73,100,258	75,182,455

潜在的な経済波及効果

- 町内で観光消費需要が拡大し、それに応える十分な生産体制も整ったとすれば
 - 生産誘発額は全体で1.8億円程度増加
 - 付加価値額も7,903万円増加
- なぜ増加するのか
 - 飲食サービス、宿泊では単価の上昇
 - お土産は町内での生産により誘発効果が増加

潜在的な生産誘発効果（単位：円）

	現実生産誘発額	潜在的生産誘発額	増加額
飲食	80,135,467	121,734,965	41,599,498
宿泊	21,231,494	83,960,432	62,728,938
お土産	3,071,157	79,158,860	76,087,703
合計	104,438,118	284,854,257	180,416,139

生産
誘発額

潜在的な付加価値誘発効果（単位：円）

	現実付加価値誘発額	潜在的付加価値誘発額	増加額
飲食	33,207,299	50,445,696	17,238,397
宿泊	8,834,686	34,936,969	26,102,283
お土産	1,934,213	37,626,516	35,692,303
合計	43,976,198	123,009,181	79,032,983

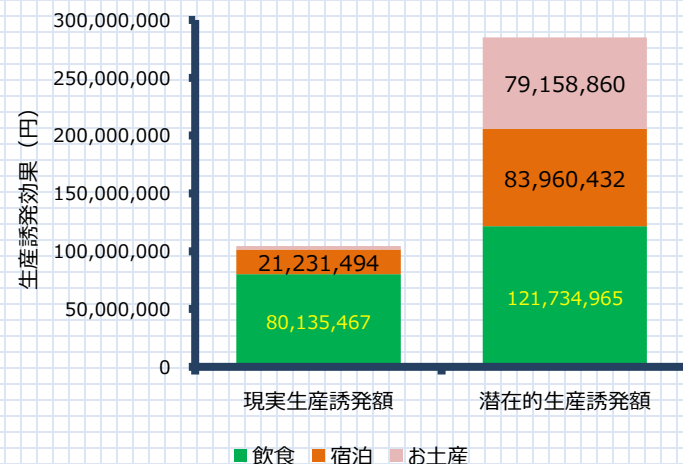
付加価値
誘発額

潜在的付加価値誘発額のうち賃金・俸給誘発効果（単位：円）

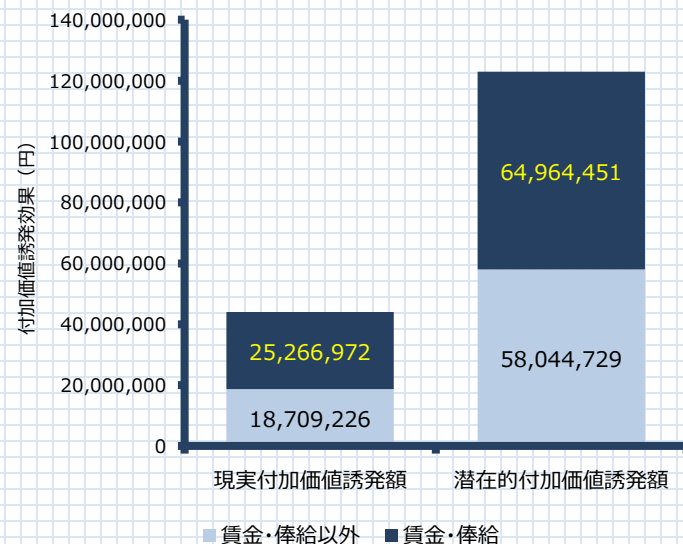
	現実付加価値誘発額	潜在的付加価値誘発額	増加額
飲食	19,944,721	30,298,319	10,353,598
宿泊	977,721	17,485,589	16,507,868
お土産	4,344,530	17,180,544	12,836,014
合計	25,266,972	64,964,451	39,697,479

賃金・俸給
誘発額

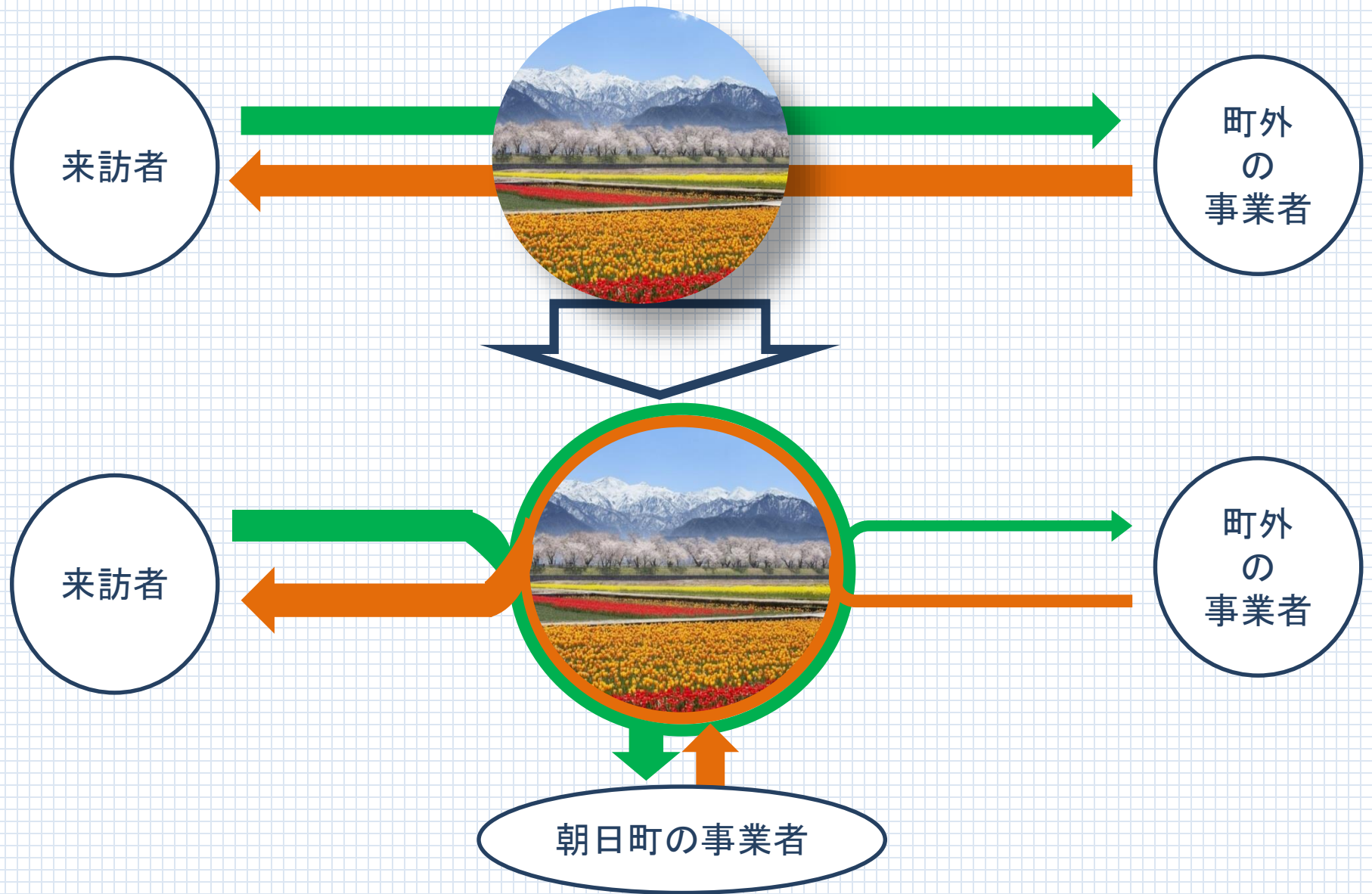
生産誘発額の変化



付加価値誘発額の変化



域内連関を強める効果



- 観光資源を活用して町内に経済効果を発現させるには・・・
 - 地域内における観光関連商品の生産に関わる経済循環の形成が重要
 - 町の産業構造自体を大きく変えることは難しいので町内の連関を上手く活用できる商品を開発・拡販
 - たとえば、町外の工場で生産された弁当が春の四重奏来訪者が買ったとしても、町内の販売業者のマージン分しか町内の生産誘発効果のインパクトにならない。
 - そのうちのいくらかは光熱費や販売管理費などで町外に流出する
 - 町内での生産を誘発する効果は小さくなってしまう
- 経済理論で考えれば苦手なものを域外からの移輸入で賄い、得意分野のものを移輸出することが経済成長のポイントであるが、観光消費に限って言えば町内の経済循環を意識した戦略の構想が大切
 - 観光は町内への観光客誘客によって観光消費というサービスを輸出していると考えべき
 - 町内への観光客が町外で生産されたものだけを消費しているならば、その地域は経済活動の場を提供しているに過ぎない
 - 地元にはしかないものを用いて良質のモノやサービスを提供することは、観光客にとっても、地域の経済循環にとっても有益

7. 町内消費需要から見た経済循環度

第2次波及効果の計測

- 前のセクションで分析した春の四重奏の経済効果は「**第1次**」の波及効果
 - 実際には、来訪者の町内での消費支出増によって働く人々の所得が増加し、その一部が町内で消費され、さらに所得が増加する効果が存在
 - 「**第2次**」の波及効果と言う
- このセクションでは2次の波及効果を分析
 - 第1次の波及効果によってもたらされる町内消費の増加が、さらにどれだけの町内生産を誘発するのか
 - 2次の波及効果の大きさは朝日町の経済循環度に依存
 - 経済循環度：ここではある戦略や政策によって生み出された所得がさらに町内に新たな需要と生産活動を生み出し、所得を創出する程度が高いことを「経済循環度が高い」ということにする（定まった定義があるわけではなく、便宜的に用いている）
- 設定
 - 春の四重奏によって創出された付加価値（所得）の一部が家計消費支出にまわると仮定
 - 産業連関表より消費性向（消費支出÷付加価値）を0.69と設定
 - 家計消費は、産業連関表における朝日町の家計消費支出の構成比にしたがって各商品に支出されるとする
 - 家計が町外で生産された商品や町外で買い物すればその効果は町内にはほとんど波及しない
 - 町内の経済循環が堅牢であるほど波及効果は大きくなる
 - 73頁の表より、春の四重奏によって創出される付加価値は4,398万円なので、3,034万円（ $=4398 \times 0.69$ ）の消費需要増を設定して分析

第2次波及効果の結果

春の四重奏による2次の生産誘発効果

単位：円

農林水産業	74,280
鉱業	(0)
製造業（食料品と飲料を除く）	119,456
食料品	39,762
飲料	40,551
建設	28,593
電力・ガス・水道	415,555
卸売業	38,054
小売業	633,813
金融・保険	129,821
不動産	2,085,557
運輸・郵便	191,501
情報通信	1,396
公務	3,563
サービス（宿泊業と飲食サービス業を除く）	1,302,997
宿泊業	49,040
飲食サービス業	280,351
分類不明	8,666
町内生産誘発額計	5,442,957
県内他市町村生産誘発額	21,620,139
県外からの移輸入額	12,073,880
合計	39,136,976

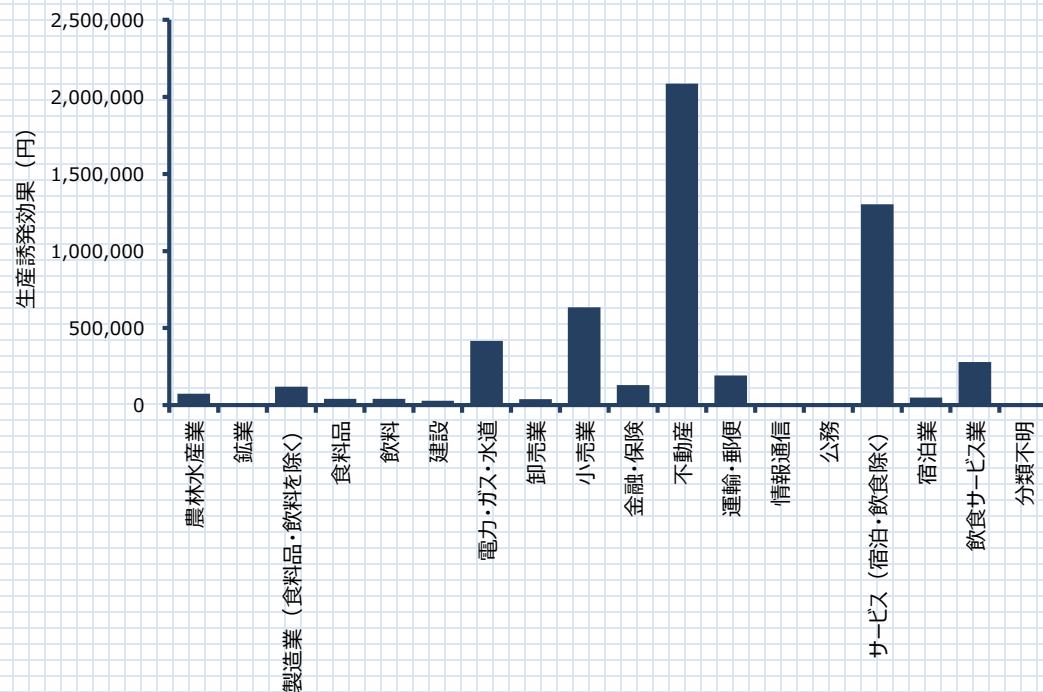
春の四重奏による2次の付加価値誘発効果

単位：円

町内付加価値誘発額	3,813,644
（うち賃金・俸給）	(1,080,015)
県内他市町村付加価値誘発額	14,456,053
合計	18,269,696

- 第2次の町内への生産誘発効果は544万円
 - 付加価値誘発額は381万円
 - ただし、不動産の生産誘発額は金銭的な所得にはつながらない持家の帰属家賃を含む
- 県内の他市町村に対する生産誘発額は2,162万円、付加価値誘発額は1,446万円
 - 他地域への経済循環の漏れが存在

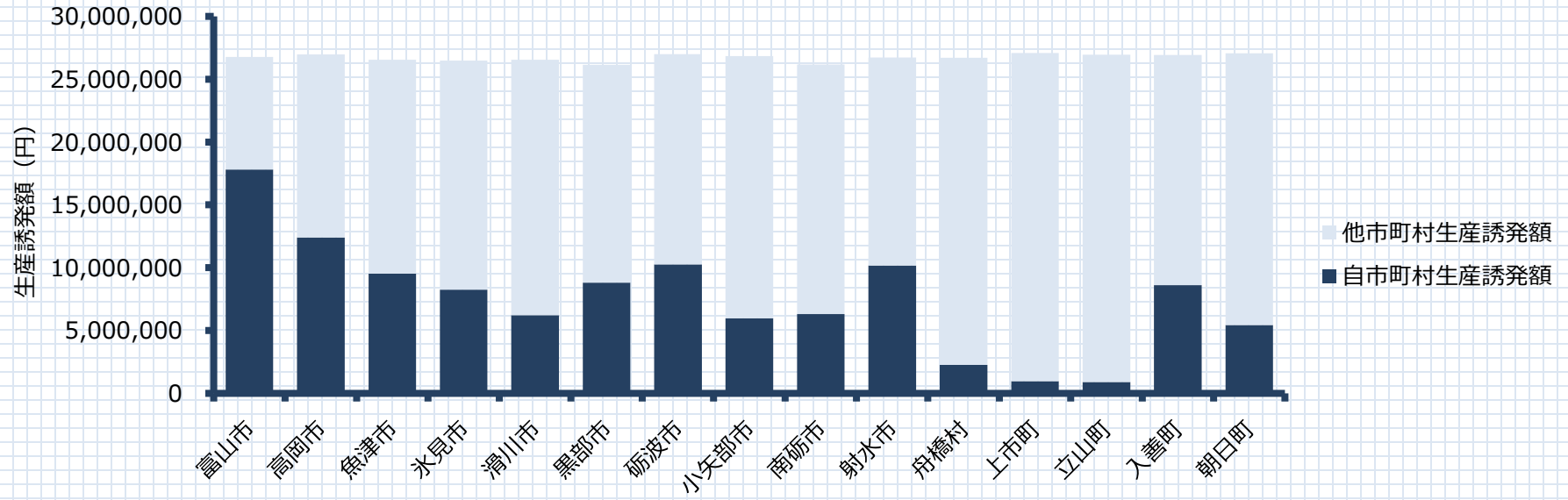
朝日町内の産業別に見た第2次の生産誘発効果



経済循環度の県内市町間比較

- 県内各市町村に同額の消費需要を与えたときの生産誘発額の大きさを比較
 - 自市町村への生産誘発額が大きいほど経済循環度は高いと言える
 - 自地域で生じた需要を満たすために誘発される自地域の生産額が大きい
- このように定義した朝日町の経済循環度は大きいとは言えない
 - 町内で需要されるモノやサービスのかなりの部分を域外からの移輸入に依存
 - 波及効果が移輸入により中断してしまう
 - 試算に用いた市町村間産業連関表ではいわゆる「跳ね返り」取引（朝日町での需要を満たすために他市町村で生産活動が行われ、そのために朝日町の産業に需要が生まれること）も考慮できているにもかかわらず、波及効果の大きさは大きくない

県内市町村に同額の最終需要を与えたときの市町村別生産波及効果



2次の波及効果：まとめ

- 第2次の波及効果は町内の産業構造に依存
 - 朝日町の第2次の波及効果（生産誘発効果）が小さいのは・・・
 - 町内の消費需要に応える十分な産業が整っていないから
 - ただし、このことは朝日町のような人口、経済規模の地域では当然のこと
 - フルラインで産業基盤を整えることが必要なのではなく、望ましいことでもない
- 自地域が得意な産業、分野に集中して域外に移輸出し、得意でないものを移輸入で賄うことが重要
 - 得意分野とは、自地域に存在する自然資源や人的資源、産業集積や地理的条件等、他地域にはない資源や技術を用いて生産できる財やサービス
 - 本研究のテーマである観光について言えば、朝日町は優れた観光資源を保有
 - 消費者余剰で表される満足感の提供によって多くの来訪者を誘客
 - その人々に朝日町が優位性を持つ財やサービスを消費してもらうことで初めて地域の経済成長につながる

8 ■ 学生アンケートから見た町内経済循環の持続可能性

地域経済循環の持続可能性

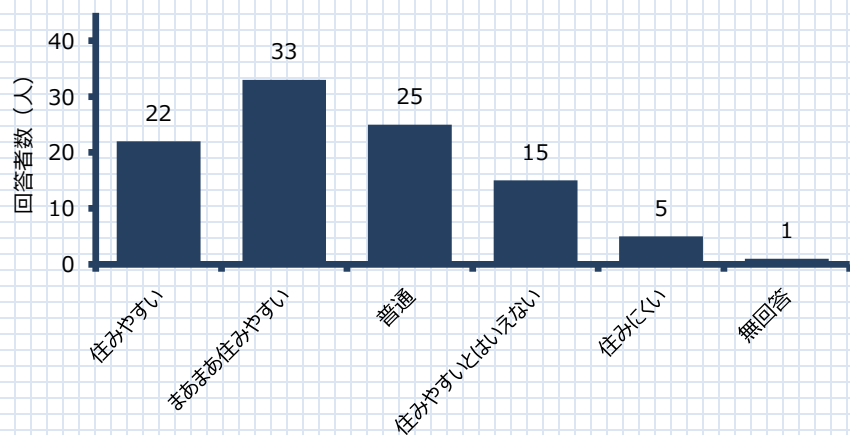
- 地域経済が将来にわたって持続可能であるためには
 - 経済活動を担う人的資源を維持・成長させることが不可欠
- 今後、加速する人口減少によって町内の生活を支える人材、町内経済の成長を担う人材の確保が課題
 - 若年層が住みたいまちであり続けることができるのか
- 若年層の意識を聞いた学生アンケートの結果から朝日町の将来戦略を探る

朝日町の住みやすさについて

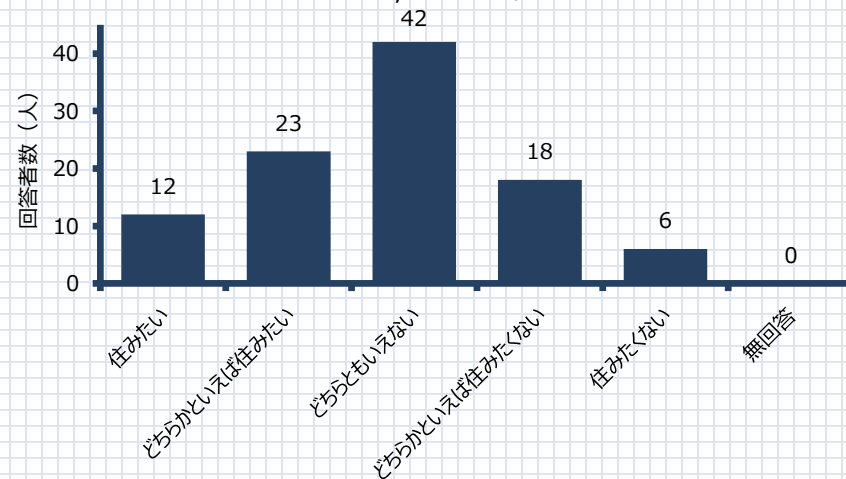
- 半数以上の回答者が朝日町は住みやすい、まあまあ住みやすいと回答
 - 住みにくい、住みやすいと答えた学生は20%に留まる

- 今後も住み続けたいとする回答者は、住みやすいと回答した者より減少
- 男女を比較すれば女性の評価がやや低い

朝日町は住みやすいまちですか (SA, n=101)



今後も朝日町に住み続けたい (SA, n=101)



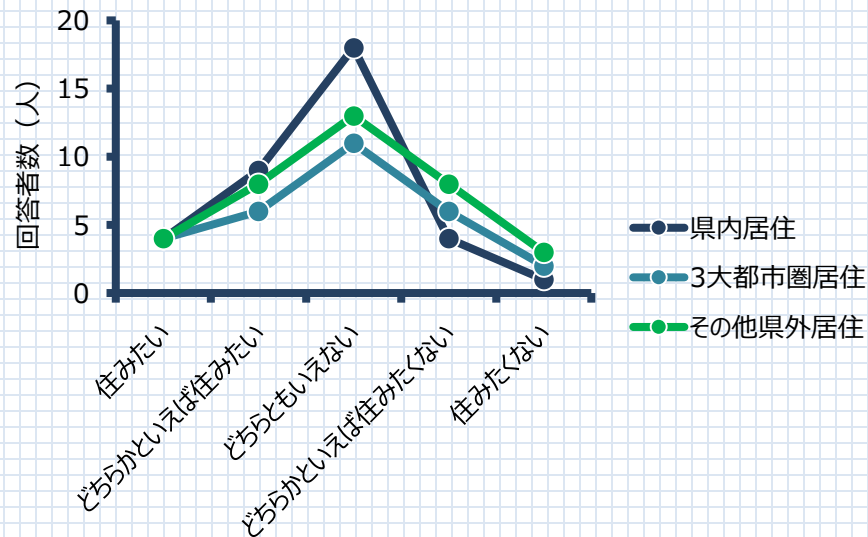
	男性	今後も朝日町に住み続けたい					合計
		どちらか 住みたい	どちらか いえば 住みたい	どちらとも いえない	どちらか いえば 住みたくない	どちらか いえば 住みたくない	
朝日町は住みやすいまちですか	住みやすい	7	3	5	0	1	16
	まあまあ住みやすい	1	6	8	1	0	16
	普通	0	2	13	2	0	17
	住みやすいとはいえない	0	1	3	4	1	9
	住みにくい	0	0	0	1	1	2
	合計	8	12	29	8	3	60

	女性	今後も朝日町に住み続けたい					合計
		どちらか 住みたい	どちらか いえば 住みたい	どちらとも いえない	どちらか いえば 住みたくない	どちらか いえば 住みたくない	
朝日町は住みやすいまちですか	住みやすい	2	0	2	2	0	6
	まあまあ住みやすい	2	8	5	1	0	16
	普通	0	1	3	3	0	7
	住みやすいとはいえない	0	0	2	4	0	6
	住みにくい	0	0	0	0	3	3
	合計	4	9	12	10	3	38

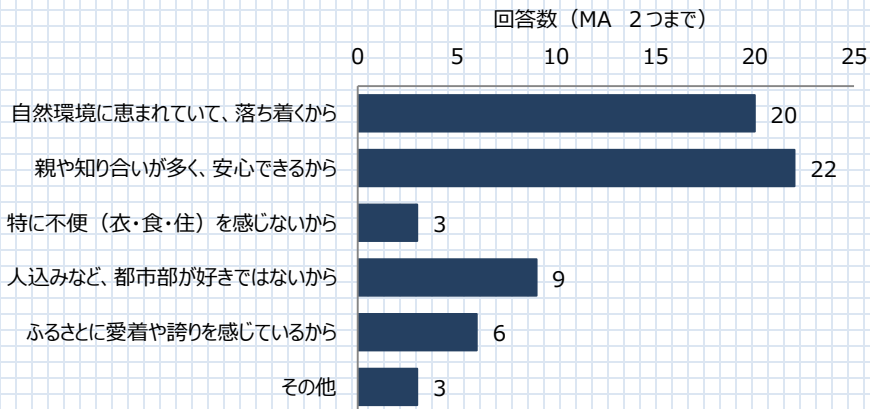
住みたい理由・住みたくない理由

- 住みたい理由には自然環境や人との繋がりが多い
 - 自由記述では子育て環境の良さを指摘する回答も複数あった
- 住みたくない理由は生活の不便さ、雇用面での不安があげられている
 - 自由記述では娯楽施設、買い物施設の不足が指摘されていた
- 現在の居住地別3区分（県内、3大都市圏、それ以外の県外）にグループ分けすると
 - 県内在住者は「どちらかといえば住みたくない」「住みたくない」との回答が少ない
- 暮らしやすいが雇用面での不安が住み続けることの懸念につながっているかもしれない

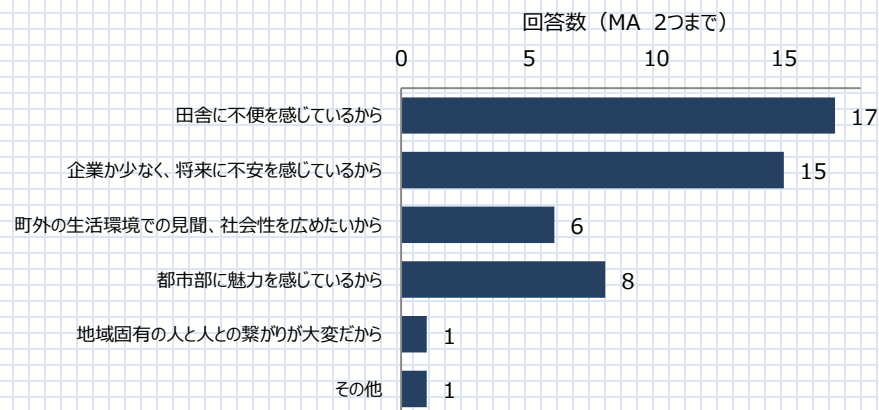
居住地別に見た朝日町での居住に対する意識



「住みたい」「どちらかといえば住みたい」と答えた方の主な理由 (MA 2つまで)



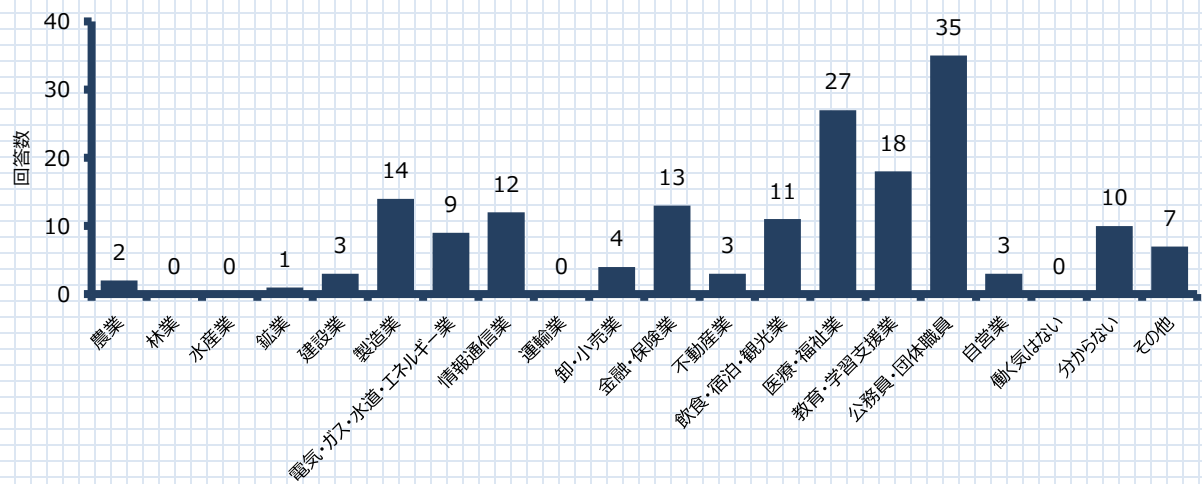
「どちらかといえば住みたくない」「住みたくない」と答えた方の主な理由 (MA 2つまで)



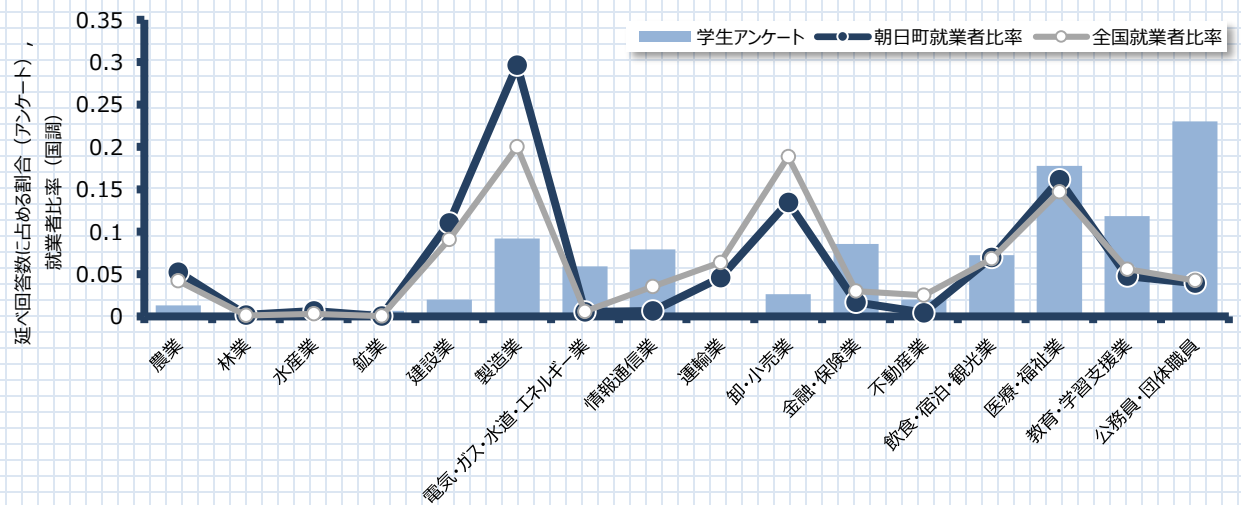
資料：朝日町企画財政課『朝日町大学生等就学応援事業対象学生向けアンケート』

卒業後の進路希望

卒業後の進路として関心のある仕事（MA 3つまで）



学生アンケート調査延べ回答数に対する関心がある産業の割合と町内・全国の産業別就業者比率（平成27年国調）

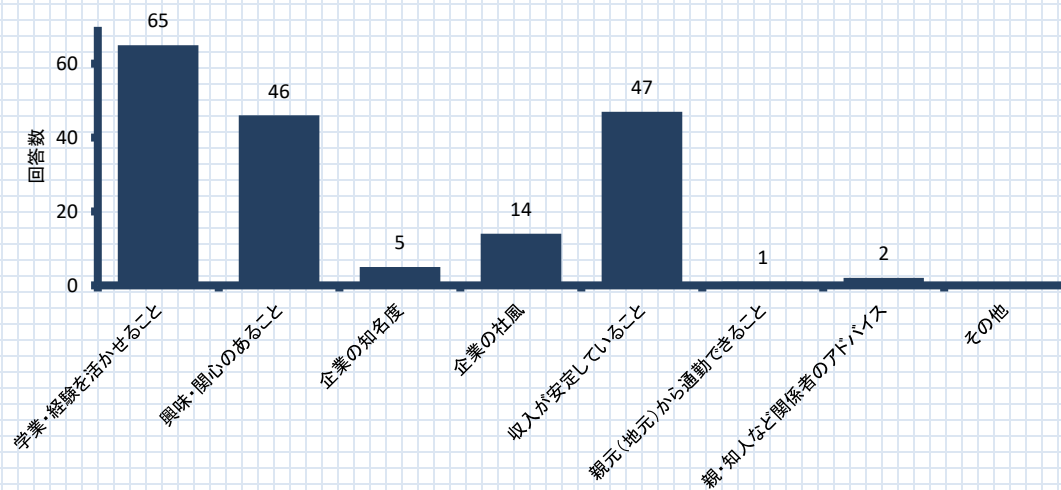


- 進路希望で最多は「公務員・団体職員」、次いで「医療・福祉業」。
- 町内の就業構造とアンケート結果（関心のある仕事）の分布を比較すると・・・
- 医療・福祉については概ね一致している
- 「公務員・団体職員」「電気・ガス・水道・エネルギー業」「情報通信業」「金融・保険業」において関心のある仕事の比率が就業者比率を大きく上回る
- 「製造業」「卸・小売業」については就業者比率がアンケート結果の関心のある仕事の比率を大きく上回る
 - ただし、朝日町の就業者比率が全国の就業者比率と大きく異なる訳でなく、ここでのミスマッチはどの地域でも観察されることだと思われる

資料：朝日町企画財政課『朝日町大学生等就学応援事業対象学生向けアンケート』、総務省統計局『平成27年 国勢調査』

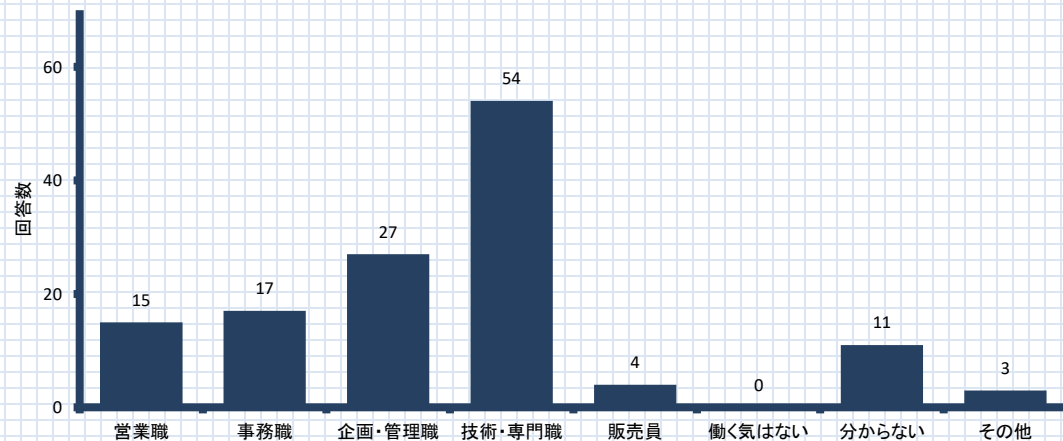
職業に対する意識

仕事（業種）を選択する上で、重視していること（MA 2つまで）



- 学生は、学業や経験を活かすことができ、収入が安定しており、興味関心を持てる職業を望んでいる
- 関心ある職種は現在学んでいる分野を反映していると思われる。

あなたが関心のある職種（MA 2つまで）



これからの人材確保に向けて

- 朝日町では今後，人口構成の高齢化に伴い，医療や介護への人材需要が増加すると予想される
 - 全国的にも同様の状況であり，人材確保が課題
 - 雇用環境，生活環境を整えることが重要
- 学生の働きたい産業・職種と実際の就業状況のミスマッチも全国的な傾向
 - 朝日町だけが不利な条件におかれているわけではない
 - 朝日町で暮らす若者のキャリア形成に関するロールモデルを提示できれば，朝日町に住むことを選択する若年層が増加するかもしれない
- コロナ禍は働き方，働く場所の概念を変えつつある
 - 自然環境に恵まれていることを評価する若年層が希望する職に就きながら朝日町で暮らす事例を積み上げていくことが求められる

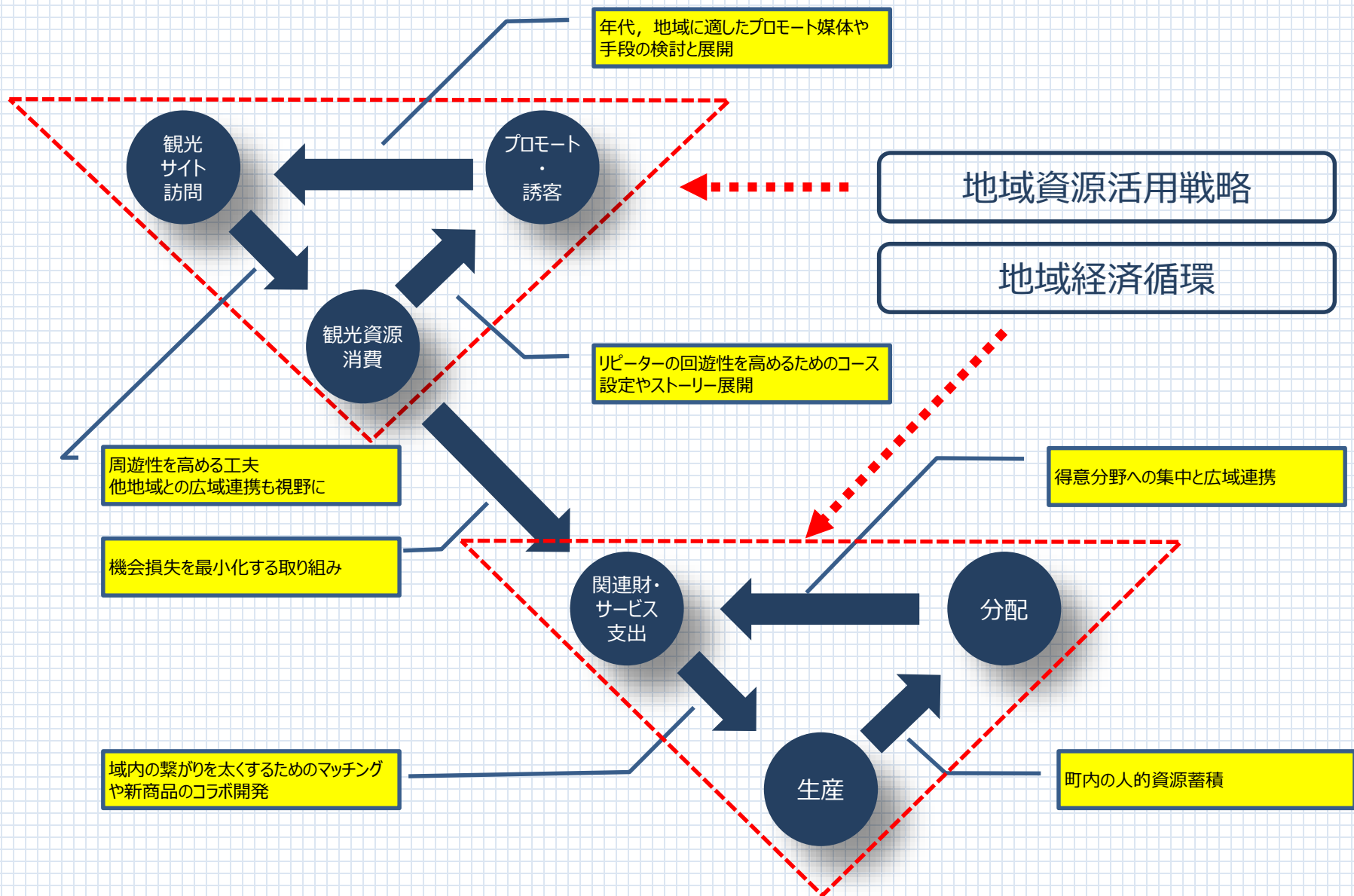
9. ■ まとめ

地域の観光資源を活用した地域経済循環の持続可能性を検討

観光の循環（地域資源活用戦略）と経済の循環が成長の両輪

1. 新型コロナウイルス感染症の感染拡大は観光消費に大きな影響を与えた
 - ・ 旅行者数の減少と同時に旅行需要の質的变化が観察
 - ・ コロナ後もこのトレンドは一部分持続すると考えて良い
2. コロナ禍における行動変容の影響は観光資源の注目度にも影響を与えた
 - ・ 朝日町で言えば春の四重奏やオートキャンプ場の注目度は上昇（過去最大）
3. 結果的に春の四重奏への来訪者は過去最高を記録
 - ・ 朝日町への入込み数も春の四重奏以来、増加を続けており、コロナ禍の影響はあったものの、10年前水準で留まっている
4. 春の四重奏は来訪者に対して一定の便益（消費者余剰）を提供している。
 - ・ 来訪者の傾向から、コロナ禍における人々の嗜好の変化を読み取ることができる
5. 春の四重奏をきっかけとする旅行・観光消費額には伸びしろがある
 - ・ 来訪者のアンケート、観光消費動向調査による統計データのどちらもが町内の観光消費拡大の可能性を示唆
6. 観光資源の活用により地域の所得を増やす上では、観光関連財・サービスの生産における地域内連関を強めることが重要
 - ・ 地域の資源を活かした関連商品の生産や体験型サービスの提供は経済波及効果、観光客からの支持の両面において効果が期待される
7. 朝日町の町内経済循環度は低い、これを得意分野への集中と苦手分野の域外取引による調達で補うことが重要
 - ・ 観光関連事業の戦略にあたっては町内資源の活用を意識することが大切
8. 町内の経済基盤を強固なものにするには人的資源の蓄積が重要
 - ・ コロナ禍を経験した若年層、コロナ禍でICTを活用せざるを得なかった企業、の行動変容は朝日町にとって追い風になる要素を持つ

地域資源から経済循環へ



10. 参考資料・文献

主要参考資料・文献

- 統計・資料・調査等
 - 朝日町企画財政課「春の四重奏来訪者アンケート」
 - 朝日町企画財政課「春の四重奏関連事業所調査」
 - 朝日町企画財政課「朝日町大学生等就学応援事業対象学生向けアンケート」
 - 朝日町商工会・朝日町商工観光課「春の四重奏来訪者アンケート」
 - 朝日町商工会・朝日町商工観光課「ヒスイ海岸, ヒスイテラス来訪者数調査」
 - 環境省「一般廃棄物の排出及び処理状況等（平成27年度）」
 - 観光庁観光戦略課観光統計調査室「旅行・観光消費動向調査」各年版
 - 国土交通省「建築着工統計調査」
 - 総務省統計局「平成27年国勢調査」
 - 総務省統計局「家計調査」各年版
 - 総務省統計局「経済センサス-基礎調査」
 - 総務省統計局「経済センサス-活動調査」
 - 総務省「令和2年度 市町村税課税状況等の調」各年版
 - 総務省「固定資産の価格等の概要調書」
 - 総務省「市町村別決算状況調」各年版
 - 富山県統計調査課「富山県統計年鑑」各年版
 - 富山県統計調査課経済動態係「平成27年富山県産業連関表」
 - 富山県地方創生局観光振興室観光戦略課「富山県観光入込客数等」各年版
 - 内閣府「国民経済計算」各年版
 - Google Trend (<https://trends.google.co.jp> > trends)
 - NHK特設サイト新型コロナウイルス「日本国内の感染者数」(<https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/data-all/>)
- 写真・イラスト素材等
 - 無料のAi・PNG白黒シルエットイラスト(<https://www.silhouette-illust.com/>)
 - 朝日町ホームページ(<https://www.town.asahi.toyama.jp/kankojouhou/1617021626165.html>)
 - Google Map

朝日町における地域経済循環に係る分析・研究事業（2021年度受託研究報告書）
地域資源のポテンシャル評価とコロナ後の社会変容下における地域戦略
中村和之（富山大学学術研究部社会科学系）
2022年3月